



## **Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーション ガイド**

Release 5.1(3)

Text Part Number: OL-14240-01-J



**【注意】この文書はお客様の便宜のために作成された参考和訳であり、お客様とシスコシステムズの間での契約を構成するものではありません。正式な契約条件は、弊社担当者、または弊社販売パートナーにご確認ください。**

CCVP, the Cisco logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, *Packet*, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0705R)

*Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーション ガイド*

Copyright © 2007 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



<b>このマニュアルについて</b>	<b>ix</b>
目的	x
対象読者	x
マニュアルの構成	xi
関連マニュアル	xi
表記法	xii
技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン	xiv
シスコ製品のセキュリティの概要	xiv

---

**CHAPTER 1**

<b>CDR Analysis and Reporting の概要</b>	<b>1-1</b>
CDR のデータについて	1-2
CDR Analysis and Reporting について	1-3
CAR 管理者、マネージャ、およびユーザ	1-6
CAR システムの設定値	1-6
CAR のレポート	1-7
CAR のレポートの概要	1-7
ユーザ レポート	1-8
システム レポート	1-9
デバイス レポート	1-10
自動生成レポートのスケジュール	1-12
CDR 検索	1-13
CDR Analysis and Reporting の国際化	1-14
Web ブラウザ	1-15
CDR Analysis and Reporting の設定チェックリスト	1-16
関連トピック	1-17

---

**CHAPTER 2**

<b>CDR Analysis and Reporting の基本操作</b>	<b>2-1</b>
CAR のアクティブ化	2-2
CDR のサービス パラメータの設定	2-3
CDR のエンタープライズ パラメータの設定	2-4
CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定	2-5

CAR へのログイン	2-6
CAR からのログアウト	2-7
CAR マニュアルのオンライン ヘルプへのアクセス	2-7
関連トピック	2-8

CHAPTER 3

<b>CAR システムの設定</b>	3-1
CAR システム パラメータの設定	3-2
メール サーバのパラメータの設定	3-2
ダイヤル プランの設定	3-3
CAR ダイヤル プランのデフォルト値の復元	3-4
ゲートウェイの設定	3-5
システム設定値の設定	3-7
CAR システム スケジューラの設定	3-8
CDR のロード スケジュールの設定	3-8
日報のスケジューリング	3-10
週報のスケジューリング	3-11
月次報告のスケジューリング	3-12
CAR システム データベースの設定	3-14
手動での CAR データベースの消去とリロード	3-14
自動データベース消去の設定	3-15
イベント ログの生成	3-17
関連トピック	3-19

CHAPTER 4

<b>CAR レポートの設定</b>	4-1
評価エンジンの設定	4-2
基本レートと接続時間の設定	4-2
コール コストへの時刻の算入	4-3
コール コストへの音声品質の算入	4-5
QoS 値の定義	4-6
レポートの自動生成と警告の設定	4-8
レポート自動生成の有効化とカスタマイズ	4-8
電子メールによる警告の有効化と無効化	4-10
通知限度の設定	4-11
関連トピック	4-12

CHAPTER 5

<b>CAR ユーザ レポートの設定</b>	5-1
課金情報の設定	5-2
個別の課金情報レポートの設定	5-2
部門の課金情報レポートの設定	5-3

上位 N 件のレポートの設定	5-5
料金別上位 N 件のレポートの設定	5-5
接続時間別上位 N 件のレポートの設定	5-7
コール数別上位 N 件のレポートの設定	5-10
Cisco Unified CallManager Assistant 使用状況レポートの設定	5-12
Cisco Unified CallManager Assistant のマネージャのコール使用状況レポートの設定	5-12
Cisco Unified CallManager Assistant のアシスタントのコール使用状況レポートの設定	5-13
Cisco IP Phone サービス レポート	5-15
レポートのメール送信	5-16
ユーザの検索	5-18
関連トピック	5-19

## CHAPTER 6

<b>CAR システム レポートの設定</b>	<b>6-1</b>
QoS レポートの設定	6-2
QoS 詳細レポートの設定	6-3
QoS 要約レポートの設定	6-5
ゲートウェイ別 QoS レポートの設定	6-6
コールタイプ別 QoS レポートの設定	6-9
トラフィック レポートの設定	6-11
トラフィック要約レポートの設定	6-11
内線別のトラフィック要約レポートの設定	6-14
FAC/CMC レポートの設定	6-17
クライアント証明書コード レポートの設定	6-17
許可コード名レポートの設定	6-18
認証レベル レポートの設定	6-19
迷惑呼詳細レポートの設定	6-21
優先コール要約の設定	6-22
システム概要の設定	6-24
CDR エラーの設定	6-25
関連トピック	6-26

## CHAPTER 7

<b>CAR デバイス レポートの設定</b>	<b>7-1</b>
ゲートウェイ レポートの設定	7-2
ゲートウェイ詳細レポートの設定	7-2
ゲートウェイ要約レポートの設定	7-4
ゲートウェイ使用状況レポートの設定	7-6
ルート プラン使用状況レポートの設定	7-9

ルートおよび回線グループの使用状況レポートの設定	7-9
ルート/ハント リストの使用状況レポートの設定	7-11
ルート パターン/ハント パイロットの使用状況レポートの設定	7-12
会議ブリッジのレポートの設定	7-15
会議コールの詳細の設定	7-15
会議ブリッジの使用状況レポートの設定	7-16
ボイス メッセージングの使用状況レポートの設定	7-18
関連トピック	7-20

CHAPTER 8

<b>CDR 検索の設定</b>	8-1
ユーザの内線による CDR の検索の設定	8-2
ゲートウェイによる CDR の検索の設定	8-4
コール終了原因による CDR の検索の設定	8-6
コール終了の詳細の表示	8-7
コールの優先レベルによる CDR の検索の設定	8-8
迷惑呼による CDR の検索の設定	8-10
関連トピック	8-11

CHAPTER 9

<b>CDR/CMR レコードのエクスポートの設定</b>	9-1
CDR/CMR レコードのエクスポート	9-2
CDR/CMR レコードのエクスポート結果の表示	9-3
関連トピック	9-4

CHAPTER 10

<b>CAR レポートの結果</b>	10-1
課金情報の要約レポートの結果	10-2
課金情報の詳細レポートの結果	10-3
料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果	10-4
コール数別上位 N 件レポートの結果	10-5
アシスタントのコールの使用状況：詳細レポートの結果	10-5
アシスタントのコールの使用状況：要約レポートの結果	10-6
マネージャのコールの使用状況：詳細レポートの結果	10-7
マネージャのコールの使用状況：要約レポートの結果	10-8
Cisco IP Phone サービス レポートの結果	10-9
QoS 詳細レポートの結果	10-10
QoS 要約レポートの結果	10-11
ゲートウェイ別 QoS レポートの結果	10-11
コール タイプ別 QoS レポートの結果	10-12
トラフィック要約レポートの結果	10-13
許可コード名のコール詳細レポートの結果	10-14

認証レベルのコール詳細レポートの結果	10-14
クライアント証明書コード詳細レポートの結果	10-14
迷惑呼詳細レポートの結果	10-15
優先コール要約レポートの結果	10-15
システム概要レポートの結果	10-16
CDR エラー レポートの結果	10-17
ゲートウェイ詳細レポートの結果	10-18
ゲートウェイ要約レポートの結果	10-19
ゲートウェイおよびルート使用状況レポートの結果	10-19
会議コール詳細レポートの結果	10-20
会議ブリッジ使用状況レポートの結果	10-21
ボイス メッセージング使用状況レポートの結果	10-21
CDR の検索の結果について	10-22
CDR の検索の結果について	10-22
メディア情報	10-23
CDR および CMR のダンプ テーブル	10-23





## このマニュアルについて

---

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。



(注)

このマニュアルには、入手可能な最新のシスコ製品の情報は示されていません。次の URL のシスコ製品の英文マニュアル ページにアクセスし、最新版の英文マニュアルを入手することができます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

---

この章は次の内容で構成されています。

- [目的 \(P.x\)](#)
- [対象読者 \(P.x\)](#)
- [マニュアルの構成 \(P.xi\)](#)
- [関連マニュアル \(P.xi\)](#)
- [表記法 \(P.xii\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン \(P.xiv\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P.xiv\)](#)

## 目的

『Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーション ガイド』では、Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting tool に関する情報を提供しています。

このマニュアルは、『Cisco Unified Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』、『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』および『Cisco Unified CallManager システム ガイド』と併せてお読みください。全マニュアルにおいて、Cisco Unified CallManager プログラム の管理方法と、適切に Cisco Unified CallManager Administration を使用する手順を説明しています。

## 対象読者

『Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーション ガイド』では、Cisco Unified CallManager システムの管理とサポートを担当するネットワーク管理者を対象としています。このマニュアルは、ネットワーク エンジニア、システム管理者、また電気通信の エンジニアが、CAR の機能を学習し、管理するために使用します。テレフォニーおよび IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。しかし、マネージャおよび個々のユーザも、CAR を使用し、レポートを生成するため、それぞれの項では、各ユーザがアクセスする機能について説明します。

## マニュアルの構成

次の表に、このマニュアルの構成を示します。

章番号	説明
第 1 章「CDR Analysis and Reporting の概要」	CDR Analysis and Reporting の概要、およびユーザ、システム、デバイス、また課金情報のレポートの生成に使用するツールについて説明します。
第 2 章「CDR Analysis and Reporting の基本操作」	CDR Analysis and Reporting (CAR) の CDR サービス パラメータの設定および CAR へのログインとログアウトの手順を説明しています。
第 3 章「CAR システムの設定」	CAR システム パラメータ、システム スケジューラ、およびシステム データベース の設定について説明しています。
第 4 章「CAR レポートの設定」	定格エンジン、サービス品質、CAR レポートの自動生成の設定手順を説明しています。
第 5 章「CAR ユーザ レポートの設定」	CAR ユーザ レポートの使用における個別と部門の課金情報 および Cisco Unified IP phone サービス の設定の手順を説明しています。
第 6 章「CAR システム レポートの設定」	CAR システム レポートの使用におけるサービス品質のレポートとパラメータ、トラフィック要約、システム概要、および CDR エラーの設定手順を説明します。
第 7 章「CAR デバイス レポートの設定」	ゲートウェイ、会議ブリッジおよびボイスメールの使用状況に関する CAR デバイス レポートの設定手順について説明しています。
第 8 章「CDR 検索の設定」	ユーザの内線およびゲートウェイに関する CAR CDR 検索の設定手順を説明しています。
第 9 章「CDR/CMR レコードのエクスポートの設定」	CDR/CMR レコードのエクスポートの設定手順について説明しています。
第 10 章「CAR レポートの結果」	全 CAR レポートの結果について説明しています。

## 関連マニュアル

関連する Cisco IP テレフォニー アプリケーションおよび製品に関する詳細な情報は、『Cisco Unified CallManager Documentation Guide』を参照してください。次の URL は、マニュアルへのパスの一例を示しています。

[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c\\_callmg/<release #>/doc\\_gd/index.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/<release #>/doc_gd/index.htm)

## 表記法

このマニュアルは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[ x y z ]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
→	例の中で重要なテキストを強調しています。
^	^ 記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイント アドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

便利なヒントです。

注意は、次のように表しています。



**注意**

---

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

---

警告は、次のように表しています。



**警告**

---

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。

---

## 技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここでは、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

## シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、[export@cisco.com](mailto:export@cisco.com) まで電子メールを送信してください。



# CDR Analysis and Reporting の概要

Cisco Unified CallManager のサービスアビリティの Tools メニューには、CDR Analysis and Reporting (CAR) があります。CAR は、QoS (Quality of Service)、トラフィック、および課金情報に関するレポートを生成します。



(注)

CAR では、iDivert (即転送) コール (コールをボイス メッセージング システムに転送する機能) は処理されず、通常のコールとして扱われます。iDivert 機能を起動した後、コールの一部が正しいパーティに対して課金されないことがあります。

この章は次の内容で構成されています。

- [CDR のデータについて \(P.1-2\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting について \(P.1-3\)](#)
- [CAR 管理者、マネージャ、およびユーザ \(P.1-6\)](#)
- [CAR システムの設定値 \(P.1-6\)](#)
- [CAR のレポート \(P.1-7\)](#)
- [CDR 検索 \(P.1-13\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の国際化 \(P.1-14\)](#)
- [Web ブラウザ \(P.1-15\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の設定チェックリスト \(P.1-16\)](#)
- [関連トピック \(P.1-17\)](#)

## CDR のデータについて

呼詳細レコード (CDR) は、着番号、コールを発信した番号、コールの開始日時、接続日時、および終了日時を詳細に記述したものです。呼管理レコード (CMR) は、ジッタ、喪失パケット、コール中に送受信されたデータの量、および遅延を詳細に記述したもので、診断レコードとも呼ばれます。CDR データは、CDR および CMR の集合から構成されます。1 つのコールによって、複数の CDR と CMR が生成されることもあります。Cisco Unified CallManager では、各コールに関する情報を CDR と CMR に記録します。CDR と CMR (まとめて CDR データと呼ばれます) は、CAR の基本的な情報ソースとして機能します。

Cisco CDR Agent サービスは、Cisco Unified CallManager が生成する CDR と CMR のファイルをローカル ホストから取得して、CDR Repository Manager サービスが動作しているリポジトリ ノードに SFTP 接続を介して転送します。SFTP 接続を確立できない場合は、接続が作成されるまで、引き続き CDR リポジトリ ノードへの接続を試行します。CDR リポジトリ ノードに向かう接続が復旧すると、それまでに蓄積されたすべての CDR ファイルを Cisco CDR Agent サービスが送信します。CDR Repository Manager サービスは、CDR と CMR のファイルを保守し、CDR と CMR で使用されるディスクスペースを確保し、これらのファイルを 3 つまでの設定済み宛先に送信して、送信の結果を宛先ごとに追跡します。CDR Analysis and Reporting (CAR) がアクセスする CDR ファイルと CMR ファイルは、CDR Repository Manager サービスの作成するディレクトリ構造の中にあります。

設定する最高水準点と最低水準点により、CDR リポジトリに割り当てる合計ディスクスペースの割合 (%) を指定します。CDR リポジトリ フォルダ下に保存されたフォルダは最高水準点および最低水準点の割合 (%) の原因となりますが、最高水準点に達した場合でも Log Partition Monitoring ではこのフォルダは削除されません。最高水準点に達した場合、CDR Repository Manager は、最低水準点に達するかまたはすべての処理されたファイルが削除されるまで、処理された CDR ファイルを削除します。処理された CDR ファイルがすべて削除されても最低水準点には達していない場合、削除処理は停止します。最大ディスク割り当てに達するまで、CDRHighWaterMarkExceeded アラームが生成されます。最大ディスク割り当てに達すると、未送信のファイルおよび保存期間内のファイルは、ディスクの使用量が最高水準点より下回るまで、古いものから順に削除されます。この計画で CDRMaximumDiskSpaceExceeded アラームが繰り返し発生する場合は、ディスク割り振りを増加させるか保存日数を減少してください。

CDR のサービスおよび警告の詳細については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。



(注)

Cisco Unified CallManager 4.x からアップグレードする場合は、CAR データベースに含まれている CDR を Cisco Unified CallManager が CSV ファイルに保存します。Data Migration Tool では、これらの CSV ファイルを使用して CAR データベースをアップグレードします。CSV ファイルの格納場所は /common/download/windows/car です。事前生成されるレポートの格納場所は、/common/download/windows/pregenerated です。

Cisco Unified CallManager 5.x では、以前のリリースとは異なり、CDR レコードの格納に CDR データベースを使用しないため、CDR データは Cisco Unified CallManager 5.x システムには移行されません。

## CDR Analysis and Reporting について

CAR の主な機能は、Cisco Unified CallManager のユーザに関するレポートと、システムのコール処理のステータスに関するレポートを生成することです。CAR は、CAR のデータベース管理アクティビティも行います。これらのタスクは、次のいずれかの方法で実行できます。

- 目的のタスクが実行されるように自動設定する。
- Web インターフェイスを使用してタスクを手動で実行する。

CAR には、Cisco Unified CallManager Serviceability にある Tools メニューからアクセスします。P.2-2 の「CAR のアクティブ化」の説明に従って、必要なサービスをあらかじめアクティブにしておく必要があります。

すべての CAR レポートが CDR データを使用します。CAR が処理する CDR は、CDR Repository サービスが CDR リポジトリ フォルダ構造に配置したフラット ファイルから取得されます。CAR では、スケジューリングされた時刻および頻度に従って CDR を処理します。デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時から午前 5 時までロードされます。ただし、ロードする時刻、間隔、期間は必要に応じて設定できます。オプションを指定すると、CDR データを毎日 24 時間連続してロードできます。「CDR データのみをロード」するオプションもあります（対応する CMR レコードはロードされません）。

CAR では、各種のレポートに必要な情報、CDR と CMR、さらに Cisco Unified CallManager データベースから取得します。

### レポートのスケジューリング

CAR レポートは、スケジュールを設定して定期的に自動生成することができます。スケジューリング可能なレポートは、それぞれ独自に生成間隔を保持しています。レポートの生成間隔は、日次、週次、または月次にすることができます。日報をスケジューリングすると、レポート生成間隔を保持しているすべてのレポートが、日次としてスケジューリングされます。同様に、週報や月次報告をスケジューリングすると、レポート生成間隔を保持しているすべてのレポートが、週次や月次としてスケジューリングされます。レポートの保管期間を指定することもできます。この期間を過ぎると、レポートは自動的に削除されます。

CAR で使用されるレポート生成および削除のスケジュールは、デフォルトでは次のとおりです。

- 日報は、毎日午前 1 時に実行されます。これらのレポートは 2 日後に消去されます。
- 週報は、毎週日曜日の午前 4 時に実行されます。これらのレポートは 4 週間後に消去されます。
- 月次請求書レポートは、毎月 1 日の午前 3 時に実行されます。これらのレポートは 2 か月後に消去されます。
- この他の月次報告は、毎月 1 日の午前 2 時に実行されます。これらのレポートは 2 か月後に消去されます。



(注)

レポートおよびデフォルト生成スケジュールのリストについては、P.1-7 の「CAR のレポートの概要」を参照してください。

システムを監視するには、QoS レポートなどの各種のレポートを自動生成して、定期的に確認します。規模が非常に大きいシステムでは 1 日 1 回、比較的小規模のシステムでは 1 ~ 2 週に 1 回確認します。QoS レポートは、ネットワーク上で発生しているコールの品質を調べて、パフォーマンスを強化するための追加ハードウェアが必要かどうかを判断するのに役立ちます。ゲートウェイ、ボイス メッセージング、会議ブリッジ、ルート グループ、ルート リスト、およびルート パターンに関する使用状況レポートを使用すると、使用状況がグラフで提供されるので、システムでの処理に役立ちます。

また、レポートパラメータをカスタマイズしてメーリングオプションを有効にすることで、レポートが作成されたときにそれらを電子メールで送信することもできます。Customize Parameters オプションを使用すると、特定のレポートのパラメータを [Customize Parameters] ウィンドウでカスタマイズできます。個々のレポートについて、該当するレポートのパラメータをカスタマイズすることができます。

### 警告のセットアップ

CAR は、さまざまなイベントについて電子メール警告を提供します。たとえば、次のようなイベントがあります。

- 料金限度通知：ユーザの1日間の利用額が、所定の上限值を超えたことを示します。この上限値は、[Report Config] > [Notification Limits] ウィンドウで設定できます。
- QOS 通知：品質の良好なコールの割合(%)が所定の範囲を下回ったこと、または品質の低いコールの割合が所定の上限值を超えたことを示します。この範囲は、[Report Config] > [Notification Limits] ウィンドウで設定できます。

システムで電子メール警告を有効にするプロセスは、2つの手順で構成されます。まず、メールサーバの構成情報を指定する必要があります([System] > [System Parameters] > [Mail Parameters])。CAR は、構成情報を使用して電子メールサーバに正常に接続します。次に、[Automatic Report Generation/Alert] ウィンドウで電子メール警告を有効にする必要があります([Report Config] > [Automatic Generation/Alert])。デフォルトでは、CAR で電子メール警告が有効になっているのは一部のレポートであり、すべてのレポートで有効になっているわけではありません。



(注) アプリケーションユーザには、電子メールIDがないため、電子メール警告が送信されません。

### CAR データの消去

この項は、次の内容で構成されています。

- 自動消去
- 手動消去
- イベントログの消去

CAR では、CAR データベースの内容を自動および手動で消去することができます。デフォルトでは、自動消去が有効になっています。CDR/CMR のロードの前後に、CAR は CAR データベースのサイズを確認し、必要な場合は、自動消去を実行して CAR データベースのサイズを制御します。

自動消去の場合、CAR は、CDR が CAR データベースに保持されている日数を継続して監視します。CDR の保管期間が、[Configure Automatic Database Purge] ウィンドウ内の最大保管期間に設定されている最大日数を超えると、CAR は設定された日数を超えている CDR をすべて削除します。

[Configure Automatic Database Purge] ウィンドウで、CAR データに割り当てる CAR データベースの割合(%)を指定します。CAR データベースのサイズは、指定した最高水準点と最低水準点との間で維持されます。CAR データベースのサイズが最低水準点を下回ると、CAR はすべての CAR 管理者に電子メールを送信します。データベースのサイズが最高水準点を上回るか、または CAR データベース内の CDR 数が 200 万レコードを超えた場合、CAR は [Configure Automatic Database Purge] ウィンドウの CDR 最小保管期間に指定された日数を経過した CDR を削除し、すべての CAR 管理者に電子メールを送信します。CDR が再び最高水準点を上回るか、自動消去が完了した後も CDR が 200 万レコードを超える場合は、CAR は自動消去をトリガーし、CDR/CMR をロードせず、別の電子メールを送信します。

**ヒント**

最高水準点を超えるか、CDR が 200 万レコードを超えた場合に、最小保管期間を経過したレコードの自動消去を無効にするには、CDR 最小保管期間を [ Configure Automatic Database Purge ] ウィンドウの CDR 最大保管期間と同じ値に設定します。

自動消去のスケジュールを変更しないまま、特定の日付よりも古いレコードや、特定の期間内のレコードを削除するには、データベースの手動消去を設定します。[ Manual Purge ] ウィンドウの [ Reload ] ボタンをクリックして、CAR データベースに CDR レコードをリロードすることもできます。ダイヤルプランのアップデート、ユーザとデバイスとのアソシエーションの変更、コールレートの変更などの後に、データベースをリロードしてコールを分類し直す必要が生じることがあります。システムに新しいレコードをロードした後は、設定した CDR ロードスケジュールに従ってレコードがロードされます。デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時から午前 5 時までロードされます。

**ヒント**

データベース消去は、混雑していない時間帯に実行するようにスケジューリングし、手動消去も同様の時間帯に実行して、Cisco Unified CallManager のパフォーマンス低下を最小限に抑えるようにします。

イベント ログ消去 (tbl\_event\_log テーブルを毎日監視するようにスケジューリングされたジョブ) は、日次ジョブの過去 3 日分、週次ジョブの過去 3 週間分、および月次ジョブの過去 3 か月分の tbl\_event\_log レコードをそれぞれ保持して、それより古いレコードを自動的に削除します (つまり、tbl\_event\_log table テーブルが 1500 行を超えた場合にレコードを削除します)。CAR は、イベント ログ消去を自動的に有効にし、イベント ログ消去が実行されても電子メールは送信しません。

**コールのコスト**

CAR を使用すると、時間の経過に伴って加算されていくコールのコストに関して、基本的な料金レートを設定できます。時間帯および音声品質ファクタを適用することで、コストをさらに適正化することができます。この機能は、加入者にサービス料金を請求することが必要になるサービスプロバイダーが使用します。組織によっては、アカウンティングや予算編成の目的でこの情報を使用し、組織内のユーザと部門の課金コストを決定することもできます。

これらの評価パラメータを使用するレポートとしては、個別の課金情報、部門の課金情報、料金別の上位 N 件、コール数別の上位 N 件、および接続時間別の上位 N 件があります。

**(注)**

料金ベースやブロックのデフォルト値を変更しない場合は、ブロックあたりのデフォルト基本料金が 0 になるため、コストは常に 0 のままになります。

**(注)**

音声品質を高めるためにコールコストを増やしたくない場合は、デフォルト値を使用できます。デフォルトの乗数には 1.00 が指定されているため、音声品質によるコールコストの割増は発生しません。

コールレートの設定の詳細については、[P.4-2 の「評価エンジンの設定」](#)を参照してください。

### アクティビティの追跡

CAR は、さまざまなアクティビティのステータスを追跡できるログを提供します。CAR Scheduler が開始するイベント、たとえば、自動生成レポート、CDR のロード、通知、レポート削除、データベースの内容消去などが、イベント ログによって追跡されます。

## CAR 管理者、マネージャ、およびユーザ

CAR には次の 3 レベルのユーザに対応したレポート機能があります。

- 管理者は、CDR Analysis and Reporting のすべての機能を使用します。たとえば、システム レポートを生成して、ロード バランシング、システムのパフォーマンス向上、およびトラブルシューティングに役立てることができます。
- マネージャは、予算編成またはセキュリティを目的とする場合や、コールの音声品質を判断する場合のコール モニタリングに役立つユーザ、部門、および QoS に関するレポートを生成できます。
- 個々のユーザは、コールの課金情報レポートを生成できます。

どのユーザも、CAR 管理者になることができます。CAR 管理者として認識されたユーザは、CAR システムに対するフルコントロール権限を持っています。管理者はシステムとレポートに関連するすべてのパラメータを変更できます。

CAR には、管理者が少なくとも 1 名必要です。

管理者、マネージャ、およびユーザは、Cisco Unified CallManager の管理ページでセットアップします。詳細については、P.2-5 の「CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定」を参照してください。

## CAR システムの設定値

CDR Analysis and Reporting では、すべてのシステム パラメータにデフォルト値が設定されています。CAR でレポートを生成するときは、システム パラメータの数値を事前にカスタマイズしておくことをお勧めします。シスコではカスタマイズすることを推奨していますが、すべてのシステム パラメータにデフォルト値が用意されているため、カスタマイズは必須ではありません。

CAR で設定できるパラメータは、次のとおりです。

- メール サーバの基準：CAR は、この情報を使用して電子メール サーバに正常に接続し、警告とレポートを電子メールで送信します。警告やレポートを電子メールで送信しない場合は、この情報を指定する必要はありません。
- ダイヤル プラン：CAR のデフォルト ダイヤル プランは、北米番号計画 (NANP) です。コールがレポートで正しく分類されるようにするには、ダイヤル プランを適切に設定する必要があります。Cisco Unified CallManager の管理ページのデフォルトである NANP を変更した場合、または NANP の範囲外にいる場合は、Cisco Unified CallManager のダイヤル プランに従ってダイヤル プランを設定する必要があります。
- ゲートウェイ：ゲートウェイ レポートを利用するには、CAR でゲートウェイを設定する必要があります。この設定作業は、既存のすべてのゲートウェイを Cisco IP テレフォニーシステムにインストールした後、システムにゲートウェイを追加するときに実施します。システムがゲートウェイを削除した場合、CAR は最新のゲートウェイ リストを取得します。削除されたゲートウェイに関して、CAR で指定されていた設定はすべて削除されます。CAR はエリア コード情報を使用して、コールがローカルか長距離かを判別します。CAR が使用状況レポートを生成するために使用できる各ゲートウェイのポート数の情報を提供する必要があります。
- システム設定：Company Name パラメータの CAR システム設定値を設定できます。

## CAR のレポート

CAR では、レポートをオンデマンドで生成することができます。管理者である場合は、レポートのスケジュールを設定して自動生成できます。レポートは、カンマ区切り (CSV) 形式または Portable Document Format (PDF) 形式で表示することができます。PDF を選択する場合は、コンピュータ上に Adobe Acrobat Reader がインストールされている必要があります。

この項では、CDR Analysis and Reporting で使用可能なレポートについて説明します。次のトピックを取り上げます。

- [CAR のレポートの概要 \(P.1-7\)](#)
- [ユーザ レポート \(P.1-8\)](#)
- [システム レポート \(P.1-9\)](#)
- [デバイス レポート \(P.1-10\)](#)
- [自動生成レポートのスケジュール \(P.1-12\)](#)

## CAR のレポートの概要

時間、曜日、日付に応じたパターンを表示するすべての CAR レポートで、次の条件に基づいてグラフと表が表示されます。

- 検索条件で指定した時間範囲 (時間、曜日、日付) と一致するレコードがない場合、レポートでは、すべての日または時刻に値 0.00 が表示されます。
- 戻されたすべてのレコードで値が 0.00 になっている場合、グラフは表示されません。グラフが表示されるのは、いずれかのレコードに 0 以外の値が含まれている場合のみです。
- (選択した日付範囲内で、少なくとも 1 日以上について) レコードが生成されたとき、選択した日数がレポートの表示可能日数 (週次の場合は 7 日、月次の場合は 31 日) を超えている場合、グラフにはすべての日が表示されます。レコードが生成されていない日の値は 0 になります。表には、すべての日が関連する値とともに表示されます。データを含んでいない日については、0.00 が表示されます。
- (選択した日付範囲内で、少なくとも 1 日以上について) レコードが生成されたとき、選択した日数がレポートの表示可能日数 (週次の場合は 7 日、月次の場合は 31 日) を下回っている場合、グラフにはすべての日が表示されます。レコードが生成されていない日の値は 0 になります。表には、すべての日が関連する値とともに表示されます。データを含んでいない日については、0.00 が表示されます。

ユーザ名を表示する CAR レポートでは、ユーザ名を取得できない場合はユーザ ID が表示されます。この現象が発生するのは、過去のデータについてレポートを生成するときに、該当する期間のコールに關係するユーザが、システム (Cisco Unified CallManager データベース) にもう存在していない場合です。

### 追加情報

[P.1-17 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## ユーザ レポート

ユーザ レポートは、ユーザ、マネージャ、および CAR 管理者が生成できます。CAR に用意されているユーザ レポートは、次のとおりです。

- 課金情報
  - 個別：ユーザ、マネージャ、および CAR 管理者が使用できます。個別の課金情報では、指定する日付範囲に該当するコールの情報が提供されます。個人の電話課金について、要約または詳細を生成、表示、または電子メールで送信することができます。アプリケーション ユーザでもある CAR 管理者は、このレポートを入手できません。
  - 部門：マネージャおよび CAR 管理者が使用できます。部門の課金情報は、コール情報と QoS 評価を提供します。マネージャである場合は、マネージャへのレポート対象となるすべてのユーザ、または選択した特定のユーザによって発信されたコールについて、要約レポートまたは詳細レポートを生成できます。CAR 管理者である場合は、システム内の一部またはすべてのユーザが発信したコールについて、要約レポートまたは詳細レポートを生成できます。このレポートは、すべてのコールをシステム全体のユーザ レベルごとに追跡するのに役立ちます。
- 上位 N 件
  - 料金別：マネージャおよび CAR 管理者が使用できます。個々のユーザが生成する料金別の上位 N 件レポートには、指定する期間中にコールの課金が多かった上位のユーザが最高のものから順番にリストされます。送信先別で生成するレポートには、課金が多かった上位の送信先が最高のものから順番にリストされます。すべてのコールに関して生成するレポートには、課金が多かった上位のコールが最高のものから順番にリストされます。マネージャである場合は、指定した期間中に、マネージャへのレポート対象となるユーザが発信したすべてのコールで課金の大きいものが、最高のものから順番にリストされます。CAR 管理者の場合、このレポートには、指定した期間中にシステム上のすべてのユーザが発信したすべてのコールで課金の大きいものが、最高のものから順番に示されます。
  - 接続時間別：マネージャおよび CAR 管理者が使用できます。個々のユーザが生成する接続時間別の上位 N 件レポートには、指定する期間中にコールの接続時間が長かった上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。送信先別で生成するレポートには、接続時間が長かった上位の送信先が最長のものから順番にリストされます。すべてのコールに関して生成するレポートには、接続時間が長かった上位のコールが最長のものから順番にリストされます。マネージャの場合、レポートには選択した日付範囲の間にコール時間が長かった、マネージャへのレポート対象となる上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。CAR 管理者の場合、レポートには選択した日付範囲の間にコール時間が長かった上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。
  - コール数別：マネージャおよび CAR 管理者が使用できます。個々のユーザが生成するコール数別の上位 N 件レポートには、コール数が多かった上位ユーザが最高のものから順番にリストされます。内線別で生成されるレポートには、指定する期間中に発着信したコール数が多い上位の内線が、最高のものから順番にリストされます。マネージャの場合、レポートには、選択した日付範囲における、マネージャへのレポート対象となるユーザのコール数が、ユーザまたは内線別に最高のものから順番にリストされます。CAR 管理者の場合、レポートには、コール数が多かった上位のシステム内各ユーザまたは内線のコール数が、最高のものから順番にリストされます。ユーザ別で生成されるレポートには、コール数が多かった上位のユーザが最高のものから順番にリストされます。内線別で生成されるレポートには、グループ内 (マネージャの場合) またはシステム内 (CAR 管理者の場合) で、コールの発着信回数が多かった内線が最高のものから順番にリストされます。
- Cisco Unified CallManager Assistant
  - マネージャのコール使用状況：CAR 管理者が使用できます。Cisco Unified CallManager Assistant の要約レポートおよび詳細レポートは、マネージャのコール完了使用状況の詳細を提供します。マネージャ レポートに含まれている可能性があるのは、マネージャが自分で処理したコールのみ、アシスタントがマネージャの代理で処理したコールのみ、またはマネージャとアシスタントの両方がマネージャの代理で処理したコールです。

- アシスタントのコール使用状況：CAR 管理者が使用できます。Cisco Unified CallManager Assistant の要約レポートおよび詳細レポートは、アシスタントのコール完了使用状況の詳細を提供します。アシスタント レポートに含まれている可能性があるのは、アシスタントが自分で処理したコールのみ、アシスタントがマネージャの代理で処理したコール、またはアシスタントが自分でまたはマネージャの代理で処理したコールです。
- Cisco IP Phone サービス：CAR 管理者が使用できます。Cisco IP Phone サービス レポートには、選択した Cisco Unified IP Phone サービス、選択した各サービスに登録されているユーザ数、および選択した各サービスの使用率（%）が示されます。さまざまなビジネスやエンターテインメントを対象として、幅広いサービスを作成することができます。広告収入など、サービスに付随する収益がある場合は、このレポートを使用することで、サービスに登録したユーザの数を特定できます。また、このレポートを使用して、選択したサービスの人気を調べることもできます。

### 追加情報

P.1-17 の「関連トピック」を参照してください。

## システム レポート

CDR Analysis and Reporting には、マネージャおよび CAR 管理者が使用するためのシステム レポートが用意されています。マネージャまたは CAR 管理者は、QoS 要約レポートにアクセスできます。その他のレポートには、CAR 管理者だけがアクセスできます。この項では、次のレポートについて説明します。

- QoS
  - 詳細：CAR 管理者が使用できます。QoS 詳細レポートは、指定する期間中に Cisco Unified CallManager ネットワークで発着信されたコールについて、QoS 評価を提供します。このレポートを使用すると、システム全体のユーザ レベルごとに、すべてのコールの音声品質を監視するのに役立ちます。CDR と CMR に含まれているコール詳細、および選択する QoS パラメータが、コールに特定の音声品質カテゴリを割り当てるときの基準になります。
  - 要約：マネージャおよび CAR 管理者が使用できます。このレポートは、指定したコール分類および期間に関して、QoS グレードの分布を表す 2 次元の円グラフを提供します。また、コールを QoS ごとに要約した表も提供します。CDR と CMR に含まれているコール詳細、および選択する QoS パラメータが、コールを特定の音声品質カテゴリに割り当てるときの基準になります。このレポートは、ネットワークを通過するすべてのコールの音声品質を監視するために使用します。
  - ゲートウェイ別：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、選択した各ゲートウェイのコールが、ユーザの選択した QoS 基準を満たしている割合（%）を示します。このレポートは、時間、日、または週単位で生成できます。
  - コール タイプ別：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、選択した各コール タイプのコールが、ユーザの選択した QoS 基準を満たしている割合（%）を示します。このレポートは、時間、日、または週単位で生成できます。
- トラフィック
  - 要約：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、指定した期間のコール量に関する情報を提供します。選択するコール タイプと QoS 音声品質カテゴリだけが含まれます。このレポートは、発生しているコールの数を時間、日、または週単位で特定するために使用します。このレポートは、容量計画において高トラフィック パターンと低トラフィック パターンを識別するために役立ちます。
  - 内線別の要約：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、指定した期間および内線のセットのコール量に関する情報を提供します。選択するコール タイプと内線だけが含まれます。このレポートは、時間、日、または週単位で生成できます。このレポートは、指定したユーザの使用率レベルを集計することで、使用率の高いユーザまたはグループを判別するために役立ちます。

- FAC/CMC
  - クライアント証明書コード (CMC): CAR 管理者が使用できます。このレポートを使用すると、選択した各クライアント証明書コードに関連するコールについて、発信元番号と送信先番号、発信日時、接続時間 (秒) および分類を表示することができます。
  - 許可コード名: CAR 管理者が使用できます。このレポートを使用すると、選択した各許可コード名に関連するコールについて、発信元番号と送信先番号、発信日時、接続時間 (秒) 分類、および認証レベルを表示することができます。
  - 認証レベル: CAR 管理者が使用できます。このレポートを使用すると、選択した各認証レベルに関連するコールについて、発信元番号と送信先番号、発信日時、接続時間 (秒) 許可コード名、および分類を表示することができます。
- 迷惑呼詳細: CAR 管理者が使用できます。Cisco CallManager Malicious Call Identification (MCID) サービスが迷惑呼を追跡します。迷惑呼詳細レポートは、所定の日付範囲における迷惑呼の詳細を表示します。
- 優先コール要約: CAR 管理者が使用できます。Cisco CallManager Call Precedence サービスを使用すると、認証済みのユーザが、優先順位の低い電話コールよりも優先されるようになります。CAR の優先コール要約レポートの PDF 版には、選択した各優先順位レベルについて、優先順位値ごとのコール要約が、時間、曜日、日付に基づいて棒グラフ形式で示されます。CAR は、グラフ (優先レベルごとに 1 つ) 各優先レベルのコール レッグの数をリストした表、および各優先レベルの分布 (%) を要約した付表を生成します。CAR では、このレポートはオンデマンドで使用します。このレポートが自動生成されることはありません。
- システム概要: CAR 管理者が使用できます。このレポートは、生成可能なレポートのリストを提供します。このレポートに表示するレポートのリストは、管理者が選択できます。このレポートは、Cisco Unified CallManager ネットワークの概略を確認するために使用します。
- CDR エラー: CAR 管理者が使用できます。このレポートは、CAR の Billing\_Error テーブルに含まれているエラー レコードの数、およびエラーの理由について統計情報を提供します。このレポートは、CDR データに関するエラーが、CDR データのロード中に CAR で発生したかどうかを特定するために使用します。このレポートには、無効な CDR の割合 (%) およびそれらの CDR が無効として分類された理由がリストされます。

### 追加情報

P.1-17 の「関連トピック」を参照してください。

## デバイス レポート

デバイス レポートは、会議ブリッジ、ボイス メッセージング サーバ、ゲートウェイなどの Cisco Unified CallManager 関連デバイスについて、負荷およびパフォーマンスを CAR 管理者が追跡するのに役立ちます。この項では、次のデバイス レポートについて説明します。

- ゲートウェイ
  - 詳細: CAR 管理者が使用できます。ゲートウェイ詳細レポートは、特定のゲートウェイの問題を追跡するために使用します。このレポートは、指定したゲートウェイを使用したコールのリストを提供します。このレポートは、選択したゲートウェイに関する詳細情報を確認するために使用します。システム内の VG200 ゲートウェイのすべてまたは一部、特定のルートパターンを使用するゲートウェイのみ、などのタイプ別にゲートウェイを指定できます。コールタイプおよび QoS 値に基づいて、検索条件を指定することもできます。
  - 要約: CAR 管理者が使用できます。このレポートは、ゲートウェイを経由したすべてのコールの要約を提供します。また、コールの合計数、およびカテゴリごとの接続時間を提供します。カテゴリには、着信、タンデム、発信 (長距離、ローカル、国際、その他、オンネット) があります。さらに、システム内の各ゲートウェイについて、QoS 値ごとのコール合計数も示します。このレポートは、システムの機能を 1 日単位で追跡するために使用します。精査する必要のある問題を発見した場合は、ゲートウェイ詳細レポートを使用してください。

- 使用状況：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、ゲートウェイの概算使用率を提供します。1 日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは選択されたゲートウェイごとに生成されます。このレポートは、ゲートウェイを追加または撤去する必要性を使用状況に基づいて評価し、ロード バランシングやキャパシティをプランニングするために使用します。システム内の VG200 ゲートウェイのすべてまたは一部、特定のルートパターンを使用するゲートウェイのみ、などのタイプ別にゲートウェイを指定できます。
- ルートプラン
  - ルートおよび回線グループ使用状況：ルートおよび回線グループの使用状況レポートは、CAR 管理者のみ生成できます。このレポートは、選択したルートおよび回線グループの概算使用率を提供します。1 日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルートおよび回線グループごとに生成されます。このレポートを使用して、ルートおよび回線グループの容量が使用要件を満たすために十分であるかどうかを分析できます。その結果に基づいて、追加する必要があるかどうかを決定できます。複数のルートおよび回線グループ、またはルートパターンおよびハントリストをゲートウェイに割り当てて使用し、ゲートウェイをロード バランシングしている場合は、このレポートを使用することで、グループ全体の負荷を確認できます。また、このレポートを使用すると、1 群のゲートウェイに関する使用状況情報を、特定のルートおよび回線グループ別に簡単に生成できます。このグループには、指定したルートおよび回線グループを使用している H.323 フォールバック ゲートウェイも含まれます。
  - ルート/ハントリスト使用状況：CAR 管理者が使用できます。ルート/ハントリストの使用状況レポートは、選択したルート/ハントリストの概算使用率を提供します。1 日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルート/ハントリストごとに生成されます。このレポートを使用して、ルートおよび回線グループの容量が使用要件を満たすために十分であるかどうかを分析できます。その結果に基づいて、追加する必要があるかどうかを決定できます。複数のルート/ハントリストをゲートウェイに割り当てて使用し、ゲートウェイをロード バランシングしている場合は、このレポートを使用することで、グループ全体の負荷を確認できます。また、このレポートを使用すると、1 群のゲートウェイに関する使用状況情報を、特定のルート/ハントリスト別に簡単に生成できます。このグループには、選択したルート/ハントリストを使用している H.323 フォールバック ゲートウェイも含まれます。
  - ルートパターン/ハントパイロット使用状況：CAR 管理者が使用できます。ルートパターン/ハントパイロット使用状況レポートは、選択したルートパターン/ハントパイロットの概算使用率を提供します。1 日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルートパターン/ハントパイロットごとに生成されます。このレポートは、選択したルートパターン/ハントパイロットに関するシステムの使用状況を分析するために使用します。
- 会議コール詳細：CAR 管理者が使用できます。会議コール詳細レポートを使用すると、会議コールおよび会議ブリッジの詳細情報を生成および表示できます。このレポートの要約版は、選択した日時範囲に発生した会議コールの要約情報を表示します。ただし、個々の会議参加者のコール レッグに関する情報は含まれていません。このレポートの詳細版は、選択した日時範囲に発生した会議コールの詳細情報を表示し、個々の会議参加者のコール レッグに関する情報が含まれています。
- 会議ブリッジ使用状況：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、会議ブリッジの概算使用率を提供します。1 日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは、システム内のすべての会議ブリッジについて一括したものが生成されます。このレポートは、会議ブリッジ上のアクティビティを調べて、リソースをさらに追加する必要があるかどうかを特定するために使用します。このレポートは、使用状況のパターンを把握するのに役立ちます。したがって、使用状況のパターンに繰り返し現れるピークを発見した場合に、キャパシティをプランニングできるようになります。
- ボイス メッセージング使用状況：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、ボイス メッセージング デバイスの概算使用率を提供します。1 日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは、ボイス メッセージング デバイスごとに生成されます。このレポートは、ボイス メッセージング デバイス上のアクティビティを調べて、リソースをさらに追加する必要があるかどうかを特定するために使用します。

このレポートは、使用状況のパターンを確認するのに役立ちます。したがって、使用状況のパターンに繰り返し現れるピークを発見した場合に、キャパシティをプランニングできるようになります。

### 追加情報

P.1-17 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 自動生成レポートのスケジュール

レポートを自動生成するプロセスは、2 つの手順で構成されます。まず、生成しようとするレポートがデフォルトで有効になっていない場合は、有効にする必要があります。次に、レポートの生成日時をスケジュールリングする必要があります。CAR はデフォルトのスケジュールを提供しているため、このデフォルト スケジュールをそのまま使用できる場合は、自動生成するレポートを有効にするだけで済みます。

デフォルトでは、次のレポートで自動生成が有効（または無効）になっています。レポート名の横にある角カッコ ([ ]) で囲まれた語（日次、週次、月次）は、それぞれのレポートの生成間隔を表しています。

- 部門の課金情報要約 [ 月次 ]
- ゲートウェイ要約 [ 月次 ]
- 個別の課金情報要約 [ 月次 ]
- 会議要約 [ 月次 ]
- 会議詳細 [ 日次 ]
- QoS 要約 [ 月次 ]
- システム概要 [ 月次 ]
- 料金別の上位 N 件 [ 日次 ]
- 料金別の上位 N 件 [ 月次 ]
- 接続時間別の上位 N 件 [ 日次 ]
- 接続時間別の上位 N 件 [ 月次 ]
- コール数別の上位 N 件 [ 日次 ]
- コール数別の上位 N 件 [ 月次 ]
- トラフィック要約 - 日付 [ 月次 ]
- トラフィック要約 - 曜日 [ 週次 ]
- トラフィック要約 - 時間 [ 日次 ]
- 会議ブリッジ使用状況 - 曜日 [ 週次 ]
- ボイス メッセージング使用状況 - 曜日 [ 週次 ]
- ルートパターン / ハントパイロット使用状況 - 曜日 [ 週次 ]
- ルート / ハントリスト使用状況 - 曜日 [ 週次 ]
- ルートグループ使用状況 - 曜日 [ 週次 ]
- 回線グループ使用状況 - 曜日 [ 週次 ]
- ゲートウェイ使用状況 - 曜日 [ 週次 ]

レポートの生成を有効または無効にするには、P.4-8 の「[レポート自動生成の有効化とカスタマイズ](#)」を参照してください。

レポートが生成およびシステムから消去される特定の時刻、週、( 1 か月の中の ) 日付を変更するには、P.3-8 の「[CAR システム スケジュールの設定](#)」を参照してください。

## 追加情報

P.1-17 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

# CDR 検索

すべての CDR 検索レポートには、設定された時刻および日付範囲の中で最も古い 100 レコードだけが表示されます。

CDR 検索を設定すると、コールの詳細を確認できます。検索により、コールのすべての関連レグのグループが形成されます。これは、コールに会議または転送が関係している場合に便利です。この方法は、1 つのコール全体について、各過程の進行と品質を追跡するのに役立ちます。

この項では、次の機能について説明します。

- ユーザ内線を条件とした CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。CDR をユーザまたは電話番号（発信元、元の着信先、または最終着信先）で検索し、検索条件を満たす最初の 100 レコードについてコール詳細を分析することができます。指定した期間について特定の番号を使用してコールを検索できます。これは、診断または情報収集のために、特定の番号で発着信したコールをトレースする場合に役立ちます。転送コールや会議コールなど、関連するすべてのレコードが、1 つの論理グループとしてまとめて表示されます。内線を指定しない場合は、指定した日付範囲と一致する CDR レコードのうち、最初の 100 個が戻されます。
- ゲートウェイを条件とした CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。ゲートウェイを条件として CDR を検索すると、特定のゲートウェイを使用しているコールについて、コールの詳細を分析できます。この方法は、特定のゲートウェイを通過するコールに関する問題をトレースするのに役立ちます。
- コール終了原因を条件とした CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。コール終了原因を条件として CDR を検索すると、コールが終了した原因について情報を得ることができます。コールの終了原因をリストから選択し、特定の日付範囲に関してレポートを生成できます。生成されるレポートには、レポートの生成条件とともに、所定の期間内に発信されたコールの合計数が示されます。また、Call Termination Cause Value と説明のフィールド、コール合計数、およびコール終了原因ごとのコールの割合（%）を示す表が表示され、CDR を選択するためのオプションが表示されます。
- コールの優先レベルを条件とした CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。コールの優先レベルを条件として、CDR を検索することができます。生成されるレポートを利用すると、優先順位を条件として CDR を確認できます。レポートの生成対象にする優先レベルと日付範囲は、管理者が選択できます。このレポートには、選択した優先レベルごとに、コールの数と割合（%）が示されます。レポートの条件については、情報の生成対象となった優先レベルと日付範囲が、[ Call Precedence Details ] ウィンドウに表示されます。メディア情報と CDR-CMR ダンプは、[ CDR Search by Precedence Levels Result ] ウィンドウで閲覧できます。メディア情報と CDR-CMR ダンプ情報は、個別のウィンドウに表示されます。
- 迷惑呼を条件とした CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。CDR を検索すると、迷惑呼に関する情報を得ることができます。レポートの生成対象にする内線と日付範囲は、管理者が選択できます。このレポートには、選択した内線と日付範囲に関して、すべての迷惑呼の CDR が表示されます。レポートの条件については、情報の生成対象となった内線と日付範囲が表示されます。メディア情報と CDR-CMR ダンプは、[ CDR-CMR search results ] ウィンドウで閲覧できます。メディア情報と CDR-CMR ダンプ情報は、個別のウィンドウに表示されます。
- CDR/CMR のエクスポート：CAR 管理者が使用できます。この機能を使用すると、所定の日付範囲内にある CDR/CMR ダンプ情報を、コンピュータ上の選択した位置に CSV 形式でエクスポートできます。また、ダンプ情報のファイルサイズを表示して、CDR/CMR のファイルを削除することもできます。

## CDR Analysis and Reporting の国際化

CAR は、任意のロケール（言語）に対応できるように国際化されて設計されており、任意のロケールに対応できるデータベースも備えています。



**(注)** CAR では、Cisco Unified CallManager のヘルプ ページに記載されているように、すべての Latin-1 言語と Unicode 言語ロケールをサポートしています。Latin-1 言語には、英語と西ヨーロッパの諸言語が含まれます。Unicode 言語には、日本語と中国語が含まれます。

ロケールには、ユーザとネットワークの 2 つのタイプがあります。それぞれのロケールは、一連のロケール ファイルで構成されます。この 2 タイプのファイルについて、次の定義で説明します。

- ユーザ：電話機ディスプレイのテキスト、ユーザ アプリケーション、ユーザ Web ページなど、ユーザ関連の機能に関するファイル。
- ネットワーク：電話機やゲートウェイのトーンなど、ネットワーク関連の機能に関するファイル。ネットワーク ロケールは、国 / 地域名によって決まります。

CAR でロケールがサポートされるのは、Locale Installer でロケールがインストールされている場合のみです。



**(注)** まず、Cisco Unified CallManager Locale Installer がクラスタ内のすべてのサーバにインストールされていることを確認してください。Locale Installer をインストールすると、CAR の Web ページに最新の翻訳済みテキストが適用されるようになります。Cisco Unified CallManager Locale Installer の詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

複数のロケールをサポートしているのは、ユーザとマネージャのウィンドウのみです。管理者用のページは、英語で表示されます。

Cisco Unified CallManager の管理ページで、ユーザが優先使用するロケールを Cisco Unified CallManager データベース内に設定します。この作業は、ユーザを作成するときに、[ End User Configuration ] ウィンドウで行います。ユーザ名やユーザ ID などとともに、優先ロケールを指定します。この情報は、Cisco Unified CallManager データベースに格納されます。詳細については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

この項では、CAR の国際化を構成している要素について説明します。

### ログイン ページ

クライアント（ブラウザ）がログイン情報を要求するときは、ログイン ウィンドウのヘッダーに、そのクライアントで最優先使用されるロケールが示されます。CAR システムは、CAR の UI がこのロケールをサポートしているかどうかを確認します。CAR の UI がこのロケールをサポートしていない場合や、このロケールがシステムにインストールされていない場合、ログイン ウィンドウは、Cisco CallManager のエンタープライズ パラメータで設定されている Cisco Unified CallManager システムのデフォルト ロケールで表示されます。CAR がこのデフォルト ロケールもサポートしていない場合や、該当のデフォルト ロケールがシステムにインストールされていない場合には、ロケールは English\_United\_States に設定されます。

### ログイン後のウィンドウでの CAR ページの認証と表示

どの言語でも、ユーザの資格情報は Cisco Unified CallManager データベースと照合して認証され、管理者以外のユーザ（ユーザまたはマネージャ）の CAR ウィンドウは、ユーザの優先ロケールで表示されます。CAR の UI がこのロケールをサポートしていない場合や、このロケールがシステムにインストールされていない場合は、Cisco Unified CallManager システムのデフォルト ロケールが使用されます。このロケールが CAR でサポートされていない場合や、システムにインストールされていない場合には、ページはブラウザの最優先ロケールで表示されます。ブラウザの優先ロケールもサポートされていない場合やインストールされていない場合には、ロケールは English\_United\_States に設定されます。UI ページ上の情報は、ラベルや数値書式なども含めて、すべてロケールに基づいて表示されます。管理者用のウィンドウは、常に英語で表示されます。

### レポート

CSV 形式と PDF 形式の両方で生成されるレポートは、管理者以外のユーザ（ユーザまたはマネージャ）の場合にはユーザの優先ロケールで表示されます。ただし、レポートのヘッダーに表示される企業名などの動的なデータは、データベースへの入力時に使用されたものと同じ言語で表示されます。ロケールは、ヘッダー、フッター、数値書式、および一部の統計データ（コール分類など）を表示するときの基準になります。管理者用のレポートは、英語で表示されます。

## Web ブラウザ

CAR プログラムでは、次の Web ブラウザをサポートしています。

- Netscape Communicator 7.1 以降
- Microsoft Internet Explorer 6.0 以降

ネットワーク内の任意のユーザ コンピュータから、Cisco Unified CallManager の管理ページを実行しているサーバを参照し、管理特権を持つアカウントでログインします。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページに多数のユーザが同時にログインすると、Web ページのパフォーマンスが低下する可能性があります。同時にログインするユーザおよび管理者の数は、制限するようにしてください。

# CDR Analysis and Reporting の設定チェックリスト

表 1-1 に、CDR Analysis and Reporting の設定手順の概要を示します。

表 1-1 CAR の設定チェックリスト

設定手順	関連する手順およびトピック
<b>ステップ 1</b> 適切なサーバ上で、CDR のサービスをアクティブにします。	<a href="#">CAR のアクティブ化 ( P.2-2 )</a>
<b>ステップ 2</b> CDR レコードがフラット ファイルに書き込まれるようにするには、Cisco CallManager のサービス パラメータ CDREnabled と CallDiagnosticsEnabled を有効にする必要があります。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』
<b>ステップ 3</b> CAR 管理者、マネージャ、およびユーザを Cisco Unified CallManager の管理ページでセットアップします。	<a href="#">CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定 ( P.2-5 )</a>
<b>ステップ 4</b> レポートを生成するために、CAR システムの次のパラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• メールサーバを設定します。</li> <li>• ダイヤルプランを設定します。</li> <li>• ゲートウェイを設定します。</li> <li>• システム設定値を設定します。</li> </ul>	<a href="#">CAR システム パラメータの設定 ( P.3-2 )</a>
<b>ステップ 5</b> ジッタ、遅延、および喪失パケットについて、最高、高、中、低とみなす値の範囲を指定します。	<a href="#">QoS 値の定義 ( P.4-6 )</a>
<b>ステップ 6</b> 必要な場合には、時間の経過に伴って加算されていくコールのコストに関して、基本的な料金レートを設定します。時間帯および音声品質ファクタを適用することで、コストをさらに適正化することができます。	<a href="#">評価エンジンの設定 ( P.4-2 )</a>
<b>ステップ 7</b> [ Automatic Report Generation/Alert ] オプション ウィンドウを使用して、自動生成するレポートを有効にします。	<a href="#">レポートの自動生成と警告の設定 ( P.4-8 )</a> <a href="#">自動生成レポートのスケジュール ( P.1-12 )</a>
<b>ステップ 8</b> システム スケジューラを設定して、CAR が CDR をロードするタイミングを、日次、週次、月次のレポートとともにスケジュールリングします。	<a href="#">CAR システム スケジューラの設定 ( P.3-8 )</a>
<b>ステップ 9</b> CAR データベースの自動消去のパラメータを設定します。設定できるのは、システムで CAR データに使用する CAR データベースの割合 ( % )、および CAR データがデータベース サイズ制限を超えたときに、削除の対象となる CAR データの存続時間です。  データベースの自動消去は無効にできます。システムのデフォルトでは、消去が有効になっています。	<a href="#">自動データベース消去の設定 ( P.3-15 )</a>
<b>ステップ 10</b> 料金限度通知 ( 指定した 1 日間あたりの利用限度額をユーザが超過したことを示す ) および QoS 通知 ( 最高品質コールの割合が指定範囲を下回ったか、低品質コールの割合が指定した制限値を超えたことを示す ) を設定します。	<a href="#">通知限度の設定 ( P.4-11 )</a>
<b>ステップ 11</b> ユーザがローカライズ済みのユーザ レポートやマネージャ レポートの利用を希望する場合は、必要なロケールをインストールします。	『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』
<b>ステップ 12</b> データベースと事前生成レポートを含めて CAR をバックアップするには、バックアップユーティリティで CAR ターゲットを設定していることを確認します。	『Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド』

### 追加情報

P.1-17 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [CAR のレポートの概要 \(P.1-7\)](#)
- [ユーザ レポート \(P.1-8\)](#)
- [システム レポート \(P.1-9\)](#)
- [デバイス レポート \(P.1-10\)](#)
- [自動生成レポートのスケジュール \(P.1-12\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の基本操作 \(P.2-1\)](#)
- [CAR システムの設定 \(P.3-1\)](#)
- [CAR レポートの設定 \(P.4-1\)](#)
- [CAR ユーザ レポートの設定 \(P.5-1\)](#)
- [CAR システム レポートの設定 \(P.6-1\)](#)
- [CAR デバイス レポートの設定 \(P.7-1\)](#)
- [CDR 検索の設定 \(P.8-1\)](#)
- [CDR/CMR レコードのエクスポートの設定 \(P.9-1\)](#)
- [CAR レポートの結果 \(P.10-1\)](#)

### その他のシスコ マニュアル

- [Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド](#)
- [Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド](#)
- [Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド](#)





# CDR Analysis and Reporting の基本 操作

---

Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting (CAR) ツールは、QoS (Quality of Service)、トラフィック、ユーザのコール量、課金、およびゲートウェイに関する情報のレポートを生成します。

この章は次の内容で構成されています。

- [CAR のアクティブ化 \(P.2-2\)](#)
- [CDR のサービス パラメータの設定 \(P.2-3\)](#)
- [CDR のエンタープライズ パラメータの設定 \(P.2-4\)](#)
- [CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定 \(P.2-5\)](#)
- [CAR へのログイン \(P.2-6\)](#)
- [CAR からのログアウト \(P.2-7\)](#)
- [CAR マニュアルのオンライン ヘルプへのアクセス \(P.2-7\)](#)
- [関連トピック \(P.2-8\)](#)

## CAR のアクティブ化

CAR は一連の補完サービスで構成されており、これらのサービスは、Cisco Unified CallManager Serviceability の [ Service Activation ] ウィンドウでアクティブにすることができます。CAR を Cisco Unified CallManager Serviceability の [ Tools ] メニューから起動できるようにするには、次の手順に従って、CAR サービスをあらかじめアクティブにしておく必要があります。

### 手順

---

**ステップ 1** [ Tools ] > [ Service Activation ] を選択します。

[ Service Activation ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Server ] ドロップダウン リスト ボックスから、クラスタの最初のノードを選択します。

選択したサーバのサービス名、サービス タイプ、およびサービスのアクティベーション ステータスがウィンドウに表示されます。



**(注)** CAR サービスをアクティブにするのは、最初のノード上のみです。このノードに、Cisco Unified CallManager データベースが常駐します。

---

**ステップ 3** 次の CDR サービスの隣にあるチェックボックスをオンにします。

- Cisco CAR Web Service
- Cisco SOAP-CDROnDemand( オプション )HTTPS または SOAP インターフェイスを通じて CDR データにアクセスするサードパーティ製の課金アプリケーションを使用している場合は、このサービスをアクティブにします。



**ヒント** CDR サービスの隣にあるチェックボックスをオフにし、[ Save ] をクリックしてサービスを無効にします。Cisco CAR Web Service を無効にすると、Cisco Unified CallManager Serviceability の [ Tools ] メニューから、CAR が削除されます。

---

**ステップ 4** 必要な変更が完了したら、[ Save ] をクリックします。

---

### 追加情報

P.2-8 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## CDR のサービスパラメータの設定

CAR は、CAR および CDR のレポートを生成するために、CDR レコードと CMR レコードに含まれているデータを利用しています。CAR では、CDR リポジトリ ノード (最初のノード) 上にあるフラット ファイルから CDR レコードを入手できることが要件になります。CDR レコードを生成し、特定のシステムで使用できるようにするには、Cisco Unified CallManager の一定のサービスパラメータを有効にする必要があります。

それらのパラメータは、Cisco Unified CallManager の管理ページの[ サービスパラメータ設定( Service Parameters Configuration )]ウィンドウで設定できます。[ サービスパラメータ設定( Service Parameters Configuration ) ]ウィンドウにアクセスするには、Cisco Unified CallManager の管理ページを開き、[ システム ]>[ サービスパラメータ ]を選択します。[ 詳細 ]ボタンを選択して、サービスパラメータのすべてのリストを表示します。次に示すサービスパラメータは、CDR/CMR レコードに影響を及ぼすことがあります。

- システム パラメータ
  - **CDR Enabled Flag** : CDR を生成するかどうかを決定します。有効な値は、True (CDR を生成する) または False (CDR を生成しない) です。この必須フィールドのデフォルト値は False です。クラスタ内のすべてのサーバで、このパラメータを有効にします。
  - **CDR Log Calls With Zero Duration Flag** : 接続されなかったコール、または接続時間が 1 秒未満のコールに関する CDR のロギングを有効または無効にします。Cisco Unified CallManager は、このフラグの設定に関係なく、失敗したコール(転送ディレクティブの失敗や使用中のトランクを経由しようとしたコールなどが原因で結果的にリオーダーになったコール)をログに記録します。これは必須フィールドです。デフォルト値は False です。
- Clusterwide Parameters ( Device - General )
  - **Call Diagnostics Enabled** : 呼管理レコード (CMR、診断レコードとも呼ばれる) を生成するかどうかを決定します。有効な値は、Disabled (CMR を生成しない)、Enabled Only When CDR Enabled Flag is True (CDR Enabled Flag サービスパラメータが True に設定されている場合のみ CMR を生成する)、または Enabled Regardless of CDR Enabled Flag (CDR Enabled Flag サービスパラメータの設定値に関係なく CMR を生成する) です。これは必須フィールドです。デフォルト値は Disabled です。
  - **Display FAC in CDR** : コールに関連付けられた Forced Authorization Code (FAC) を CDR に表示するかどうかを決定します。この必須フィールドの有効な値は True (CDR に FAC を表示する) または False (CDR に FAC を表示しない) です。デフォルト値は False です。
  - **Show Line Group Member DN in finalCalledPartyNumber CDR Fields** : CDR の [ finalCalledPartyNumber ] フィールドに、コールに回答した回線グループメンバーの電話番号 (DN) またはハントパイロット DN を表示するかどうかを決定します。有効な値は、True (CDR の [ finalCalledPartyNumber ] にコールに回答した電話の DN を表示する) または False (CDR の [ finalCalledPartyNumber ] にハントパイロット DN を表示する) です。このパラメータは、機能インタラクション(転送、会議、コールバックなど)が含まれない、ハントリストを介してルーティングされる基本コールにのみ適用されます。機能インタラクションが含まれるコールの場合は、このパラメータの設定値に関係なく、ハントパイロット DN が [ finalCalledPartyNumber ] フィールドに表示されます。このパラメータは、Cisco Unified CallManager Attendant Console には適用されません。この必須フィールドのデフォルト値は False です。
- Clusterwide Parameters ( Device - Phone )
  - **Add Incoming Number Prefix to CDR** : Cisco Unified CallManager が、着信プレフィックス (National Number Prefix、International Number Prefix、Subscriber Number Prefix、および Unknown Number Prefix の各サービスパラメータで指定) をコールの CDR 内の発呼側番号に追加するかどうかを決定します。コールの送信先がゲートウェイの場合は、このパラメータが有効でも、Cisco Unified CallManager は CDR にプレフィックスを追加しません。この必須フィールドのデフォルト値は False です。

## CDR のエンタープライズパラメータの設定

これらの CDR パラメータは、Cisco Unified CallManager の管理ページの [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウで設定します。[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウにアクセスするには、Cisco Unified CallManager の管理ページを開き、[システム] -> [エンタープライズパラメータ] を選択します。

- CDR パラメータ
  - **CDR File Time Interval** : CDR データを収集する時間間隔を指定します。たとえば、この値を 1 に設定すると、各ファイルには 1 分間の CDR データ (有効に設定されている場合は、CDR と CMR) が格納されます。外部の課金サーバおよび CAR データベースは、その間隔が終了するまで (または CAR Loader のスケジュール設定に応じ、それ以降の時間まで)、各ファイルのデータを受信しません。このパラメータに設定する間隔を決める際には、どのくらい早く CDR データにアクセスする必要があるかを考慮してください。このパラメータを 60 に設定すると、各ファイルには 60 分間に相当するデータが格納されますが、60 分経過してレコードが CAR データベースに書き込まれるまで、そのデータは使用できません。CDR ファイルは、設定された課金サーバに送信されます。デフォルト値は 1 です。最小値は 1 で、最大値は 1440 です。この必須フィールドの単位は分です。
  - **Cluster ID** : クラスタの一意識別子を指定します。このパラメータは CDR で使用されるため、複数のクラスタから収集された CDR をソースまでトレースできます。デフォルト値は StandAloneCluster です。最大長は 50 文字で、A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9 の任意の文字で構成される有効なクラスタ ID を指定します。
- CCM Web サービスパラメータ
  - **Allowed CDRonDemand get\_file Queries Per Minute** : 1 分あたりにシステムで許容される、CDRonDemand get\_file クエリーの最大値を指定します。この必須フィールドのデフォルト値は 10 です。最小値は 1 で、最大値は 20 です。
  - **Allowed CDRonDemand get\_file\_list Queries Per Minute** : 1 分あたりにシステムで許容される、CDRonDemand get\_file\_list クエリーの最大値を指定します。この必須フィールドのデフォルト値は 20 です。最小値は 1 で、最大値は 40 です。

## CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定

どのユーザでも CAR 管理者になることができますが、Cisco Unified CallManager の管理ページで、該当のエンド ユーザを Cisco CAR 管理者ユーザグループ (Standard CAR Admin Users) に追加する必要があります。CAR 管理者として認識されたエンド ユーザは、CAR システムに対するフル コントロール権限を持っています。管理者はシステムとレポートに関連するすべてのパラメータを変更できます。CAR 管理者として認識されていないエンド ユーザは、指定された CAR レポートにのみアクセスできます。

CAR にログインするには、管理特権を持っている CAR ユーザを CAR にあらかじめ 1 名以上設定しておく必要があります。CAR 管理者、マネージャ、およびユーザを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CallManager の管理ページで、[ ユーザ管理 ] > [ エンドユーザ ] を選択して、エンド ユーザを追加します。この作業を実行する方法については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。マネージャを作成する場合は、[ マネージャのユーザ ID (Manager User ID) ] フィールドに必ず値を入力してください。



(注)

エンド ユーザを作成したら、パスワードのテキスト ボックスの近くにある、[ クレデンシャルの編集 ] ボタンをクリックしてユーザのパスワード資格情報を編集します。[ ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login) ] チェックボックスをオフにします。



ヒント

CAR の使用を開始する前に、管理特権を持つ CAR ユーザを CAR に少なくとも 1 名設定しておくことをお勧めします。CAR 管理者を設定していない場合、および別の CAR 管理者を設定する場合は、次の手順に進みます。

- ステップ 2** [ ユーザ管理 ] > [ ユーザグループ ] を選択して、[ 検索 ] をクリックします。

[ ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups) ] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** [ Standard CAR Admin Users ] をクリックします。

[ ユーザグループの設定 (User Group Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** [ グループにエンドユーザを追加 ] ボタンをクリックします。

- ステップ 5** グループに追加するユーザのチェックボックスをオンにし、[ 選択項目の追加 ] をクリックします。

ユーザが、[ グループ内のユーザ (Users in Group) ] グループ ボックスに表示されます。



ヒント

CAR 管理特権を無効にするには、[ グループ内のユーザ (Users in Group) ] グループ ボックスに含まれているユーザのチェックボックスをオンにし、[ 選択項目の削除 ] をクリックします。警告メッセージが表示されたら、[ OK ] をクリックします。管理特権は、ただちに無効になります。

### 追加情報

P.2-8 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## CAR へのログイン

CAR にログインするには、次の手順を実行します。

### 開始する前に

次の作業を実行します。

- CAR にログインする前に、Cisco CAR Web Service と Cisco SOAP-CDRonDemand Service が最初のノードで稼働していることを確認します。これらのサービスをアクティブにすると、CDR Analysis and Reporting オプションが Cisco Unified CallManager Serviceability の [ Tools ] メニューに表示されます。サービスをアクティブにする方法については、P.2-2 の「[CAR のアクティブ化](#)」を参照してください。
- P.2-5 の「[CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定](#)」の説明に従って、CAR 管理者、マネージャ、およびユーザを設定します。

### 手順

---

**ステップ 1** CAR にログインするには、次のいずれかの手順を実行します。

- CAR システムの管理者のみ: Cisco Unified CallManager Serviceability で、[ Tools ] [ CDR Analysis and Reporting ] を選択します。
- CAR のユーザまたは管理者: Web ブラウザで、<https://<Server-ip/name>:8443/car/Logon.jsp> と入力します。

**ステップ 2** CAR のログイン ウィンドウが表示されたら、[ User Name ] フィールドにユーザ ID を入力します。

**ステップ 3** [ Password ] フィールドに、パスワードを入力します。[ Login ] をクリックします。

CAR のウィンドウが表示されます。

ユーザ ID またはパスワードが正しくないと、Identity Management System ( IMS ) メッセージのいずれかが CAR に表示されます。リンクをクリックし、ユーザ ID とパスワードをもう一度入力して [ OK ] をクリックします。

CAR のウィンドウが表示されます。

---

### 追加情報

P.2-8 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## CAR からのログアウト

この項では、CAR からログアウトする方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** CAR のウィンドウで、[ Logout ] を選択します。

**ステップ 2** 「For security reasons, it is advisable to close the browser window on Logout. Do you want to close the browser window?」というプロンプトメッセージが表示されます。CAR のウィンドウ (ブラウザ) を閉じるには、[ OK ] をクリックします。[ キャンセル ] をクリックすると、CAR の ログイン ウィンドウが表示されます。

---

### 追加情報

P.2-8 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## CAR マニュアルのオンライン ヘルプへのアクセス

CAR マニュアルのオンライン ヘルプにアクセスするには、[ Help ] > [ Contents and Index ] (目次) または [ Help ] > [ For this page ] (表示されているページ固有の情報) を選択します。

### 追加情報

P.2-8 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [CAR のアクティブ化 \( P.2-2 \)](#)
- [CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定 \( P.2-5 \)](#)
- [CAR へのログイン \( P.2-6 \)](#)
- [CAR からのログアウト \( P.2-7 \)](#)
- [CAR マニュアルのオンライン ヘルプへのアクセス \( P.2-7 \)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の概要 \( P.1-1 \)](#)
- [CAR システムの設定 \( P.3-1 \)](#)
- [CAR レポートの設定 \( P.4-1 \)](#)
- [CAR ユーザ レポートの設定 \( P.5-1 \)](#)
- [CAR システム レポートの設定 \( P.6-1 \)](#)
- [CAR デバイス レポートの設定 \( P.7-1 \)](#)
- [CDR 検索の設定 \( P.8-1 \)](#)
- [CDR/CMR レコードのエクスポートの設定 \( P.9-1 \)](#)
- [CAR レポートの結果 \( P.10-1 \)](#)



## CAR システムの設定

---

CAR を使用してレポートの生成を開始する前に、システムを設定する必要があります。CAR では、ほとんどの値にデフォルト値が提供されていますが、この章で提供しているトピックを確認して、CAR のカスタマイズについて詳しく知っておいてください。

この章は次の内容で構成されています。

- [CAR システム パラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [CAR システム スケジューラの設定 \(P.3-8\)](#)
- [CAR システム データベースの設定 \(P.3-14\)](#)
- [イベント ログの生成 \(P.3-17\)](#)
- [関連トピック \(P.3-19\)](#)

## CAR システム パラメータの設定

デフォルト値を使用する必要がある場合、レポートを生成する前に、数多くのシステムパラメータをカスタマイズする必要があります。この項では、システムパラメータについて説明します。シスコではカスタマイズすることを推奨していますが、すべてのシステムパラメータにデフォルト値が用意されているため、カスタマイズは必須ではありません。

この項では、次のトピックを取り上げます。

- [メールサーバのパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [ダイヤルプランの設定 \(P.3-3\)](#)
- [CAR ダイヤルプランのデフォルト値の復元 \(P.3-4\)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.3-5\)](#)
- [システム設定値の設定 \(P.3-7\)](#)

### メールサーバのパラメータの設定

電子メール警告とレポートを電子メールで送信するには、メールサーバの構成情報を指定する必要があります。CAR は、構成情報を使用して電子メールサーバに正常に接続します。

この項では、電子メールサーバの情報を指定する方法について説明します。

#### 手順

---

**ステップ 1** [ System ] > [ System Parameters ] > [ Mail Parameters ] を選択します。

[ Mail Parameters ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Mail ID ] フィールドに、電子メール送信時に [ From ] フィールドで使用される電子メール ID を入力します。

**ステップ 3** [ Password ] フィールドに、電子メールシステムが動作しているサーバにアクセスするためのパスワードを入力します。



**(注)** CAR では、ユーザ ID とパスワードを認証しません。メールサーバ上で認証を無効にするか、有効なユーザ ID とパスワードを入力する必要があります。

**ステップ 4** [ Confirm Password ] フィールドに、[ステップ 3](#) と同じパスワードを確認のために入力します。

**ステップ 5** [ Mail Domain ] フィールドに、電子メールシステムが動作しているサーバのドメイン名を入力します。

**ステップ 6** [ Mail Server Name ] フィールドに、電子メールシステムが動作しているサーバの名前または IP アドレスを入力します。

**ステップ 7** 変更を適用するには、[ Update ] ボタンをクリックします。

---

#### 追加情報

[P.3-19 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## ダイヤル プランの設定

CAR のデフォルト ダイヤル プランは、北米番号計画 (NANP) です。コールの分類がレポート内で正しく表示されるようにするには、ダイヤル プランが適切に設定されていることを確認します。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページのデフォルトである NANP を変更した場合や、NANP の範囲外にいる場合は、Cisco Unified CallManager のダイヤル プランに従って、CAR でダイヤル プランを設定する必要があります。ダイヤル プランを設定するには、条件が少なくとも 1 つ存在する必要があります。ダイヤル プランについては、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified CallManager システム ガイド』を参照してください。

ダイヤル プランを設定するには、発信コールを分類するためのパラメータを定義します。コールの分類には、国際、ローカル、長距離、オンネットなどがあります。たとえば、現在の地域の市内電話番号の長さが 6 桁である場合は、ダイヤル プランの行に次のように指定します。

Condition	No of Digits	Pattern	Call Type
=	6	!	Local

この項では、CAR のダイヤル プランの設定を更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ System ] > [ System Parameters ] > [ Dial Plan Configuration ] を選択します。

[ Dial Plan Configuration ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Toll Free Numbers ] フィールドに、ダイヤル プランに含まれる、無料で発信できる番号を入力します。

**ステップ 3** 次のフィールドを使用して、表に含まれている値を更新します。

- [ Condition ]: ルールの条件を選択します。[ No of Digits ] フィールドに指定した値に対して、> は大きいこと、< は小さいこと、= は等しいことを表します。
- [ No Of Digits ]: このルールの適用対象となる電話番号の桁数を選択します。桁数がルールと無関係である場合は、NA と指定します。
- [ Pattern ]: コール分類に使用される、次のパターンを入力します。
  - G: ルールで指定されているとおりに分類されることを表します (G は、P3-5 の「[ゲートウェイの設定](#)」で指定するゲートウェイ エリア コードのワイルドカードと同等です)。
  - T: CAR に設定されているフリーダイヤル番号を取得します。
  - !: 複数の桁がある (1234 や 5551234 など、番号の長さが 1 より大きい) ことを表します。
  - X: 1 桁の番号を表します (0、1、9 など)。
- [ Call Type ]: 条件を満たしている場合のコール タイプを選択します。

**ステップ 4** 行をさらに追加するには、行を追加する場所の下にある行のチェックボックスをオンにし、[ Add Rows ] をクリックします。選択した行の上に、行が追加されます。行を削除するには、削除する行のチェックボックスをオンにして、[ Delete Rows ] リンクをクリックします。



(注) CAR では、ダイヤルされる番号を基準にしてコールを分類し、CDR に格納します。ダイヤルされる番号が (番号変換が原因で) CDR に書き込まれる番号と異なる場合は、CAR でダイヤルプランを設定するときに、番号が CDR にどのように記録されるかを基準にする必要があります。

**ステップ5** 変更を適用するには、[ Update ] ボタンをクリックします。

### 追加情報

P.3-19 の「関連トピック」を参照してください。

## CAR ダイヤルプランのデフォルト値の復元

デフォルトのダイヤルプランに CAR で変更を加えた場合は、北米番号計画 (NANP) に基づいたデフォルト値に戻すことができます。

表 3-1 に、デフォルトの NANP の値を示します。

表 3-1 CAR ダイヤルプランのデフォルト値

Condition	No of Digits	Pattern	Call Type
=	5	!	OnNet
=	7	!	Local
=	10	T!	Others
=	10	G!	Local
=	10	!	Long Distance
=	11	T!	Others
=	11	XG!	Local
=	11	!	Long Distance
>	3	011!	International

次に、表 3-1 の表にあるデフォルト値の説明を示します。

- 1 行目：ダイヤルされた桁数が 5 でパターンが ! (1 桁以上の数字、この場合は 5 桁の数字) である場合、コールは OnNet (オンネット) として分類されます。
- 2 行目：ダイヤルされた桁数が 7 でパターンが ! (1 桁以上の数字、この場合は 7 桁の数字) である場合、コールは Local (ローカル) として分類されます。
- 3 行目：ダイヤルされた桁数が 10 でパターンが T! (1 桁以上の数字、この場合は、フリーダイヤル番号コードで始まる 10 桁の数字) である場合、コールは Others (その他) として分類されます。
- 4 行目：ダイヤルされた桁数が 10 でパターンが G! (1 桁以上の数字、この場合は、ゲートウェイコードで始まる 10 桁の数字) である場合、コールは Local (ローカル) として分類されます。
- 5 行目：ダイヤルされた桁数が 10 でパターンが ! (1 桁以上の数字、この場合は 10 桁の数字) である場合、コールは Long Distance (長距離) として分類されます。
- 6 行目：ダイヤルされた桁数が 11 でパターンが T! (1 桁以上の数字、この場合は、フリーダイヤル番号コードで始まる 11 桁の数字) である場合、コールは Others (その他) として分類されます。

- 7 行目：ダイヤルされた桁数が 11 でパターンが XG! (1 桁以上の数字、この場合は、1 つの数字とそれに続くゲートウェイコードで始まる 11 桁の数字)である場合、コールは Local (ローカル)として分類されます。
- 8 行目：ダイヤルされた桁数が 11 でパターンが! (1 桁以上の数字、この場合は 11 桁の数字)である場合、コールは Long Distance (長距離)として分類されます。
- 9 行目：ダイヤルされた桁数が 3 より大きく、011 で始まる場合、コールは International (国際)として分類されます。

これらの条件を 1 つも満たしていない場合、コールは Others (その他)として分類されます。この項では、CAR で NANP ダイヤル プランの値を復元する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ System ] > [ System Parameters ] > [ Dial Plan Configuration ] を選択します。

[ Dial Plan Configuration ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Restore Defaults ] ボタンをクリックします。

復元内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Cisco CAR スケジューラ サービスを再起動します。サービスの再起動については、『Cisco Unified CallManager Serviceably アドミニストレーションガイド』を参照してください。

### 追加情報

P.3-19 の「関連トピック」を参照してください。

## ゲートウェイの設定



### ヒント

Cisco Unified CallManager システムの既存ゲートウェイについて、CAR でゲートウェイを設定します。また、ゲートウェイを Cisco Unified CallManager の管理ページに追加した場合は、その新しいゲートウェイを CAR で設定します。ゲートウェイを Cisco Unified CallManager システムから削除した場合、それらのゲートウェイ (および指定した設定値) は、CAR から自動的に削除されます。

CAR はエリアコード情報を使用して、コールがローカルか長距離かを判別します。CAR が使用状況レポートを生成するために使用できる各ゲートウェイのポート数の情報を提供する必要があります。



### (注)

「G」は、ダイヤルプランの設定で使用するゲートウェイ エリアコードのワイルドカードとして機能します。

この項では、CAR でゲートウェイを設定する方法について説明します。

## 手順

**ステップ 1** [ System ] > [ System Parameters ] > [ Gateway Configuration ] を選択します。

[ Gateway Configuration ] ウィンドウが表示されます。



**(注)** Cisco Unified CallManager の管理ページでゲートウェイを設定していない場合は、システム用のゲートウェイを設定していないことを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- すべてのゲートウェイのエリア コードを更新するには、[ Area Code ] フィールドにエリア コードを入力し、[ Set Area Code ] ボタンをクリックします。

変更内容を保存するには [ Update ] をクリックする必要があることを示すメッセージが表示されます。[ OK ] をクリックします。

- 特定のゲートウェイ エリア コードを更新するには、設定する各ゲートウェイのエリア コードのフィールドに、そのゲートウェイのエリア コードを入力します。

**ステップ 3** [ Max No. of Ports ] フィールドに、設定する各ゲートウェイのポートの数を入力します。Max No of Ports の範囲は、1 ~ 1000 です。



**(注)** Cisco Unified CallManager の管理ページでゲートウェイを追加したときに、該当ゲートウェイについて指定した値が CAR で使用されます。したがって、ゲートウェイを Cisco Unified CallManager の管理ページで追加したときに指定した詳細情報によっては、ゲートウェイにすでにエリア コードが設定されている場合や、最大ポート数に 0 が設定されている場合があります。CAR では、0 は最大ポート数の値として許容されません。値 0 が指定されているすべてのゲートウェイについて、最大ポート数を変更するように求められます。

**ステップ 4** 変更を適用するには、[ Update ] ボタンをクリックします。

CAR では、設定済みの任意の (すべての) ゲートウェイを対象としてレポートを実行できます。

## 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## システム設定値の設定

CAR ではデフォルトのシステム設定値が提供されていますが、システム パラメータの値を指定することで、システムをカスタマイズできます。

この項では、システム パラメータの値を指定する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ System ] > [ System Parameters ] > [ System Preferences ] を選択します。

[ System Preferences ] ウィンドウが表示されます。[ Parameter Name ] リストに、使用可能なシステム パラメータのリストが表示されます。

**ステップ 2** [ Parameter Value ] フィールドに、表 3-2 の説明に従って適切な値を入力します。

表 3-2 システム設定のパラメータ

パラメータ	説明
COMPANY_NAME	レポートのヘッダー情報として使用される会社名を入力します。入力する会社名は 64 文字以下にしてください。

**ステップ 3** [ Update ] ボタンをクリックします。

## CAR システム スケジューラの設定

CAR システム スケジューラは、次の機能を提供します。

- [CDR のロード スケジュールの設定 \(P.3-8\)](#)
- [日報のスケジューリング \(P.3-10\)](#)
- [週報のスケジューリング \(P.3-11\)](#)
- [月次報告のスケジューリング \(P.3-12\)](#)



(注)

CDR データを大量にロードすると、Cisco Unified CallManager サーバのパフォーマンスが低下する場合があります。

### 追加情報

[P.3-19 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## CDR のロード スケジュールの設定

デフォルトでは、CDR データは 1 日 24 時間週 7 日持続的にロードされます。ロードされるのは CDR レコードだけです。この項では、ロードのスケジュールをカスタマイズする方法、カスタマイズした場合にデフォルトのロード スケジュールに戻す方法、および CDR のロードを無効にする方法について説明します。

CDR のロードを無効にするのは、システムのインストールやアップグレードを実施する場合です。CDR をロードすると Cisco Unified CallManager のリソースが減少するため、他の操作が完了するまで、CDR のロードを一時的に停止することができます。CDR のロードを無効にすると、CDR データが更新されない状態になります。できる限り早く CDR のロードを再開するようにしてください。CAR ツールは、Cisco Unified CallManager での CDR の生成には影響を及ぼしません。



ヒント

手動で CAR データを削除し、データベースに CDR をリロードするには、[P.3-14 の「手動での CAR データベースの消去とリロード」](#)を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** [ System ] > [ Scheduler ] > [ CDR Load ] を選択します。

[ CDR Load ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のオプションのいずれかを選択します。

- [ Disable Loader ]: CDR データのロードを無効にするには、[ Disable Loader ] チェックボックスをオンにし、[ Update ] ボックスをクリックします。

CDR のロードを有効にするまで、CDR データが CAR にロードされなくなります。変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR スケジューラ サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。

CDR データのロードを有効にするには、[ Disable Loader ] チェックボックスをオフにし、[ステップ 3](#) に進んでロードのパラメータを設定します。

- [ Continuous Loading 24/7 ]: CDR ロードを有効にして CDR および CMR の CAR データベースへのロードを 1 日 24 時間週 7 日持続的に実行するには、この [ Continuous Loading 24/7 ] チェックボックスをオンにし、[ Update ] ボックスをクリックします。これは CDR ロード スケジュールのデフォルト設定です。

CAR スケジューラ サービスが一旦停止し、CAR ロードがすぐに (1 ~ 2 分以内) 起動するように設定されます。CAR スケジューラ サービスが再起動します。処理する新規ファイルが存在しない場合、CDR ロードはスリープし、新規ファイルのロードを定期的にチェックします。



(注) CDR ファイルおよび CMR ファイルの処理に関する詳細情報は、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「CDR Repository Manager の設定」の章を参照してください。

- [ Load CDR only ]: CDR レコードのみを CAR データベースにロードするには、この [ Load CDR only ] チェックボックスをオンにし、[ Update ] ボックスをクリックします。ステップ 3 に進み、ロードのパラメータを設定します。このオプションを選択しただけでは、CMR レコードは CAR データベースにロードされません。これは CDR ロード スケジュールのデフォルト設定です。

[ Load CDR only ] オプションを選択しているときに、ロードせずにスキップする CMR レコードにアクセスする必要がある場合は、この [ Load CDR only ] オプションを無効にしてから [ Reload all CDR ] オプションを [ CDR Load ] ウィンドウから選択するか、あるいは「processed」ディレクトリから「preserved」ディレクトリに CMR ファイルを手動で移動します。後者のオプションは、Cisco TAC のサポートのもとに使用することをお勧めします。



(注) デフォルトのロード スケジュールの [ Continuous Loading 24/7 ] に戻すには、[ Restore Defaults ] ボックスをクリックします。変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、[ Control Center - Feature Services ] ウィンドウで CiscoCAR スケジューラ サービスを一旦停止し再起動します。

**ステップ 3** [ Load CDR & CMR ] 領域で、表 3-3 の説明に従ってフィールドの値を入力します。

表 3-3 Load CDR & CMR の値

フィールド	値
Time	CDR フラット ファイルからの CDR データのロードを CAR が開始する時刻を選択します。
Loading Interval	レコードをロードする間隔を選択します。間隔の範囲は、15 分ごと ~ 24 時間ごとです。
Duration	CDR データをロードする期間の長さを、分単位で入力します。CDR フラット ファイルのサイズによっては、CDR をロードしているときに CAR のパフォーマンスが低下する場合があります。ロードを許可する期間は限定できますが、限定した場合、設定した期間では CDR データが一部しかロードされない可能性があります。設定する期間制限値は、必ず実行間隔に合わせて調整してください。たとえば、CDR データを 15 分ごとにロードする場合は、ロード期間が 15 分を超えることはできません。

無制約ロードを使用すると、CDR データを持続的にロードする時間帯を設定できます。指定した時間帯に CDR が自動的にロードされるわけではありません。指定した時間帯に CDR データの無制約ロードが実行されるのは、[ Load CDR & CMR ] 領域の設定で指定した時間帯にロードが開始された場合のみです。無制約ロードの時間帯に CDR データのロードが開始された場合、ロードは無制約ロードの時間帯が終了するまで継続し、さらに [ Load CDR & CMR ] 領域の [ Duration ] フィールドで設定した期間が終了するか、または処理する新しいファイルがなくなるまで継続します。

無制約ロードは、スケジュール付きのロードで設定されたどの値よりも優先されます。CDR データの無制約ロードを実行しない場合は、[ From ] と [ To ] の値を 00:00 に設定します。

**ステップ 4** [ Uninhibited Loading of CDR ] 領域で、表 3-4 の説明に従って次のフィールドの値を入力します。

表 3-4 Uninhibited Loading of CDR の値

フィールド	値
From	CDR データの継続的ロードを開始する時刻(時間と分)を選択します。
To	CDR データの継続的ロードを終了する時刻(時間と分)を選択します。

**ステップ 5** [ Update ] チェックボックスをオンにします。

指定した時刻、間隔、および期間に基づいて、CDR データがロードされるようになります。変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR スケジューラ サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。

#### 追加情報

[P.3-19 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## 日報のスケジューリング

日報スケジューラでは、CAR 日報の実行時刻と保管期間をスケジューリングします。

#### 開始する前に

Automatic Generation/Alert オプションを使用して生成するレポートを指定します。詳細については、[P.4-8 の「レポートの自動生成と警告の設定」](#)を参照してください。

この項では、自動日報の実行時刻と保管期間をスケジューリングする方法について説明します。

#### 手順

**ステップ 1** [ System ] > [ Scheduler ] > [ Daily ] を選択します。

[ Daily Scheduler ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Time ] ドロップダウン リストボックスから、日報を生成する時刻(時間と分)を選択します。

24 時間制で時間を表します。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

**ステップ3** [ Life ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 0 ~ 12 日の範囲で選択します。



**ヒント** レポートの保管期間を 00 に設定すると、レポートは生成されません。

**ステップ4** [ Update ] ボタンをクリックします。

Automatic Generation/Alert オプションで生成間隔を Daily に設定し、有効にしたレポートは、毎日指定した時刻に自動的に生成され、指定した日数が経過すると削除されます。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR スケジューラ サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。



**ヒント** デフォルト値に戻すには、[ Restore Defaults ] ボタンをクリックします。デフォルトでは、日報は毎日午前 1 時に実行され、2 日後に消去されます。

#### 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 週報のスケジューリング

週報スケジューラでは、自動週報の実行日時と保管期間をスケジューリングします。

#### 開始する前に

Automatic Generation/Alert オプションを使用して、生成するレポートを指定します。詳細については、P.4-8 の「[レポートの自動生成と警告の設定](#)」を参照してください。

この項では、自動週報の実行日時と保管期間をスケジューリングする方法について説明します。

#### 手順

**ステップ1** [ System ] > [ Scheduler ] > [ Weekly ] を選択します。

[ Weekly Scheduler ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [ Day of Week ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する曜日を選択します。

**ステップ3** [ Time ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する時刻( 時間と分 )を選択します。

24 時間制で時間を表します。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

**ステップ4** [ Life ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 00 ~ 12 週の範囲で選択します。選択したオプションは、レポートをディスクに保管する週数を示します。



**ヒント** レポートの保管期間に 00 を選択すると、レポートは生成されません。

#### ステップ5 [ Update ] ボタンをクリックします。

Automatic Generation/Alert オプションで生成間隔を Weekly に設定し、有効にしたレポートは、毎週指定した時刻に自動的に生成され、指定した週数が経過すると削除されます。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、[ Control Center - Feature Services ] ウィンドウで CAR スケジューラ サービスを一旦停止し再起動します。



**ヒント** デフォルト値に戻すには、[ Restore Defaults ] ボタンをクリックします。デフォルトでは、週報は毎週日曜日の午前 4 時に実行され、4 週間後に消去されます。

#### 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 月次報告のスケジューリング

月次報告スケジューラでは、CAR 月次報告の実行日時と保管期間をスケジューリングします。

#### 開始する前に

Automatic Generation/Alert オプションを使用して、生成するレポートを指定します。詳細については、P.4-8 の「[レポートの自動生成と警告の設定](#)」を参照してください。

この項では、自動月次報告の実行日時と保管期間をスケジューリングする方法について説明します。

#### 手順

**ステップ1** [ System ] > [ Scheduler ] > [ Monthly ] を選択します。

[ Monthly Scheduler ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [ Monthly Bill Generation ] 行にある [ Day of Month ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する日付を選択します。

この値を、特定の月に発生しない日付 (29、30、31 など) に設定した場合、レポートは該当月の末日に生成されます。

**ステップ3** [ Monthly Bill Generation ] 行にある [ Time ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する時刻 (時間と分) を選択します。

24 時間制で時間を表します。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

**ステップ 4** [ Monthly Bill Generation ] 行にある [ Life ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 00 ~ 12 か月の範囲で選択します。選択したオプションは、レポートをディスクに保管する月数を示します。



**ヒント** 00 を選択すると、レポートは生成されません。

**ステップ 5** [ Other Monthly Reports ] 行にある [ Day of Month ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する日付を選択します。

この値を、特定の月に発生しない日付 (29、30、31 など) に設定した場合、レポートは該当月の末日に生成されます。

**ステップ 6** [ Other Monthly Reports ] 行にある [ Time ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する時刻 (時間と分) を選択します。

24 時間制で時間を表します。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

**ステップ 7** [ Other Monthly Reports ] 行にある [ Life ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 00 ~ 12 か月の範囲で選択します。選択したオプションは、レポートをディスクに保管する月数を示します。



**ヒント** 00 を選択すると、レポートは生成されません。

**ステップ 8** [ Update ] ボタンをクリックします。

Automatic Generation/Alert オプションで生成間隔を Monthly に設定し、有効にしたレポートは、毎月指定した時刻に自動的に生成され、指定した月数が経過すると削除されます。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、[ Control Center - Feature Services ] ウィンドウで CAR スケジューラ サービスを一旦停止し再起動します。



**ヒント** デフォルト値に戻すには、[ Restore Defaults ] ボタンをクリックします。デフォルトでは、月次請求書レポートは毎月 1 日の午前 3 時に実行され、2 か月後に消去されます。その他の月次報告は、毎月 1 日の午前 2 時に実行され、2 か月後に消去されます。

## 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## CAR システム データベースの設定

CAR では、CAR データベースのサイズが最大レコード数の何 % を超えたときに、通知するように設定できます。メッセージと最大レコード数を設定し、警告を発行する割合(%)を指定できます。

CAR データベースのサイズが、最高水準点と最低水準点の間で維持されるようにシステムを設定できます。これらの値は、[ Configure Automatic Database Purge ] ウィンドウで設定します。データベースのサイズが最低水準点に達すると、ユーザに警告が送信されます。データベースのサイズが最高水準点に達すると、削除の存続時間に基づいてレコードが削除され、電子メールが送信されます。

システム データベースの情報を設定するには、次の各項を参照してください。

- [手動での CAR データベースの消去とリロード \(P.3-14\)](#)
- [自動データベース消去の設定 \(P.3-15\)](#)

### 手動での CAR データベースの消去とリロード

この項では、選択したレコードを CAR データベースから手動で消去する方法、およびすべての CAR データを削除して、データベースに新しい CAR データをリロードする方法について説明します。ダイヤルプランのアップデート、ユーザとデバイスとのアソシエーションの変更、コールレートの変更などの後に、データベースをリロードしてコールを分類し直す必要が生じることがあります。

#### 手順

**ステップ 1** [ System ] > [ Database ] > [ Manual Purge ] を選択します。

[ Manual Database Purge ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の操作のいずれかを選択します。

- 既存の CAR データを削除して CAR データベースをリロードするには、[ Reload All Call Detail Records ] ボタンをクリックします。

レコードの削除によって、システムのパフォーマンスに影響が及ぶ場合があることを通知するメッセージが表示されます。リロード プロセスを続行するには、[ OK ] をクリックします。

5 分以内に CAR データベースへの CDR のロードが開始され、最大で 6 時間継続されます。リロードの進捗状況を監視するには、[P.3-17](#) の「[イベント ログの生成](#)」の説明に従って、CDR Load イベント ログを生成します。

システムに新しいレコードがロードされた後は、[P.3-8](#) の「[CDR のロード スケジュールの設定](#)」で設定したスケジュールに従ってレコードがロードされます。デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時から午前 5 時までロードされます。

- 選択した CAR レコードを手動で消去するには、[ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** [ Select Table ] フィールドで、データベース内の消去の対象になるテーブルを選択します。

手動消去が許可されているテーブル、テーブルに含まれているレコードの合計数、テーブルに含まれている最新および最古のレコードを表示するには、[ Table Information ] ボタンをクリックします。

[ Table Information ] ウィンドウが表示されます。[ Manual Database Purge ] ウィンドウに戻るには、[ Close ] ボタンをクリックします。

**ステップ 4** [ Delete Records ] フィールドで、次のいずれかのオプション ボタンをクリックして、消去対象のレコードを特定するための日付を選択します。

- Older than
- Between

削除する CAR レコードの日付範囲を選択します。

**ステップ 5** 指定した日付より古いレコード、または指定した日付範囲に含まれているレコードをすべて削除するには、[ **Purge** ] ボタンをクリックします。

プロンプトに、指定したレコードを完全に削除しようとしていることが示されます。

**ステップ 6** レコードを消去するには、[ **OK** ] ボタンをクリックします。消去操作を取り消すには、[ **キャンセル** ] ボタンをクリックします。

[ **OK** ] をクリックすると、選択したテーブルからレコードが消去されます。レコードが正常に削除されると、テーブルから削除されたレコードの数がステータス メッセージに示されます。

#### 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 自動データベース消去の設定

この項では、CAR データベースの自動消去をスケジュールリングおよび無効にする方法について説明します。デフォルトでは、データベースの自動消去が有効になっています。

#### 手順

**ステップ 1** [ **System** ] > [ **Database** ] > [ **Configure Automatic Purge** ] を選択します。

[ **Configure Automatic Database Purge** ] ウィンドウが表示されます。



(注) このウィンドウにあるフィールドの値をデフォルトに戻すには、[ **Restore Defaults** ] ボタンをクリックします。

**ステップ 2** [ **Low Water Mark** ] ドロップダウン リスト ボックスから、6 GB の CAR データベースのうち、システムが CAR データに使用する割合の下限值 (%) を選択します。



**ヒント** CAR データベースのサイズが最低水準点または最高水準点に到達したか、CAR データベースのサイズが 200 万レコードを超えた場合、システムからユーザに通知されます。電子メール警告の設定については、P.4-10 の「[電子メールによる警告の有効化と無効化](#)」を参照してください。

**ステップ 3** [ **High Water Mark** ] ドロップダウン リスト ボックスから、6 GB の CAR データベースのうち、システムが CAR データに使用する割合の上限値 (%) を選択します。

**ステップ 4** [ Min Age of Call Detail Records ] フィールドに、CAR が CAR データベースから CDR を消去するときに使用する最短日数を入力します。1 ~ 180 の数値を入力します。

データベースのサイズが最高水準点を超えるか、または CAR データベース内の CDR 数が 200 万レコードを超えると、CAR はこのフィールドに指定された日数が経過した CDR を削除します。

**ステップ 5** [ Max Age of Call Detail Records ] フィールドに、CDR を CAR データベースに保管する最長日数を入力します。1 ~ 180 の数値を入力します。

CAR は、指定された日数が経過した CDR をすべて削除します。

**ステップ 6** [ Update ] ボタンをクリックします。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Cisco CAR スケジューラ サービスを再起動します。



**ヒント** CAR が CDR を CAR データベースにロードするときに、CAR スケジューラは最高水準点と最低水準点、および 200 万レコードの制限を確認します。いずれかのしきい値を超えると、CAR はすぐに**ステップ 4** で指定された日数が経過したレコードを削除します。

#### 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## イベント ログの生成

CAR は、さまざまなアクティビティのステータスの追跡に使用できるログを提供します。CAR スケジューラが開始するイベント、たとえば、自動生成レポート、CDR のロード、レポート削除、データベースの内容消去などが、イベント ログによって追跡されます。

イベント ログは、CAR スケジューラが制御するアクティビティのステータスについて、レポートを提供します。イベント ログ レポートには、タスクが開始されたかどうか、正常に完了したかどうか、進行中であるかどうかを示されます。

この項では、イベント ログ レポートを生成する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ System ] > [ Log Screens ] > [ Event Log ] を選択します。

[ Event Log ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 毎日 1 回実行されるジョブを選択するには、[ Daily ] オプション ボタンをクリックします。週 1 回実行されるジョブを選択するには、[ Weekly ] オプション ボタンをクリックします。月 1 回実行されるジョブを選択するには、[ Monthly ] オプション ボタンをクリックします。

**ステップ 3** [ List of Jobs ] 領域で、情報を取得するタスクを選択します。

**ステップ 4** 選択したタスクを [ Selected Jobs ] 領域に追加するには、右矢印アイコンをクリックします。

**ステップ 5** [ Selected Jobs ] 領域からタスクを削除するには、削除するタスクを選択し、左矢印アイコンをクリックします。

**ステップ 6** 実行頻度の異なるタスクを追加するには、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。たとえば、日報と、月 1 回または週 1 回のタスクを含んだレポートを一緒に指定することができます。

**ステップ 7** レポートに含めるステータスを選択します。[表 3-5](#) の説明に従って、ステータスを少なくとも 1 つ 選択する必要があります。



**(注)** システムのデフォルトでは、すべてのジョブ ステータスが選択されています。

**表 3-5 イベント ログ レポートのステータス**

ステータス	説明
Completed	このチェックボックスをオンにすると、完了したタスクがイベント ログ レポートに記録されます。
In Progress	このチェックボックスをオンにすると、処理中のタスクがイベント ログ レポートに記録されます。
Unsuccessful	このチェックボックスをオンにすると、失敗したタスクがイベント ログ レポートに記録されます。

**ステップ 8** [ From ] と [ To ] の値を選択して、日付範囲を選択します。

**ステップ9** イベント ログ レポートを生成するには、[OK] ボタンをクリックします。

イベント ログに、選択したタスクに関する情報が表示されます。

表 3-6 で、イベント ログ レポートの出力について説明します。

**表 3-6 イベント ログ レポートの出力パラメータ**

パラメータ	説明
SI No	シリアル番号
Jobs	タスクの名前
Start Time	タスクが開始された時刻
End Time	タスクが終了した時刻
Status	失敗、処理中、完了のいずれか
Date	タスクがスケジューリングされた日付

**ステップ10** 画面を右クリックし、[印刷] を選択して、ログを印刷します。

#### 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [メールサーバのパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [ダイヤルプランの設定 \(P.3-3\)](#)
- [CAR ダイヤルプランのデフォルト値の復元 \(P.3-4\)](#)
- [CDR のロード スケジュールの設定 \(P.3-8\)](#)
- [日報のスケジューリング \(P.3-10\)](#)
- [週報のスケジューリング \(P.3-11\)](#)
- [月次報告のスケジューリング \(P.3-12\)](#)
- [CAR システム データベースの設定 \(P.3-14\)](#)
- [自動データベース消去の設定 \(P.3-15\)](#)
- [イベント ログの生成 \(P.3-17\)](#)
- [レポートの自動生成と警告の設定 \(P.4-8\)](#)
- [通知限度の設定 \(P.4-11\)](#)
- [ゲートウェイ別 QoS レポートの設定 \(P.6-6\)](#)
- [ゲートウェイ詳細レポートの設定 \(P.7-2\)](#)
- [ゲートウェイ要約レポートの設定 \(P.7-4\)](#)
- [ゲートウェイ使用状況レポートの設定 \(P.7-6\)](#)





# CAR レポートの設定

次のパラメータを定義するには、レポートの設定を使用します。

- コールの評価パラメータ：接続時間、時刻、音声品質



**(注)** コールの評価パラメータは、CAR のロード中に使用されます。CAR データベース内の古い CDR レコードに対して、これらのパラメータの新しい値を使用する場合は、すべての CDR を CAR データベースにリロードする必要があります。

- Quality of Service (QoS; サービス品質)
- 警告付きレポートの自動生成
- 通知限度

この章は次の内容で構成されています。

- [評価エンジンの設定 \(P.4-2\)](#)
- [QoS 値の定義 \(P.4-6\)](#)
- [レポートの自動生成と警告の設定 \(P.4-8\)](#)
- [通知限度の設定 \(P.4-11\)](#)
- [関連トピック \(P.4-12\)](#)

## 開始する前に

CAR を使用してレポートの生成を開始する前に、システムを設定する必要があります。[P.3-1 の「CAR システムの設定」](#)を参照してください。

## 評価エンジンの設定

CAR を使用すると、時間の経過に伴って加算されていくコールのコストに対して、基本的な料金レートを設定できます。時間帯および音声品質ファクタを適用することで、コストをさらに適正化することができます。通常、この機能は加入者にサービス料金を請求することが必要になるサービスプロバイダーが使用します。組織によっては、アカウントリングや予算編成の目的でこの情報を使用し、組織内のユーザと部門の課金コストを決定することもできます。

これらの評価パラメータを使用するレポートとしては、個別の課金情報、部門の課金情報、料金別の上位 N 件、接続時間別の上位 N 件、およびコール数別の上位 N 件があります。



(注)

料金ベースやブロックのデフォルト値を変更しない場合は、ブロックあたりのデフォルト基本料金が 0 になるため、コストは常に 0 のままになります。

コールの料金は、コールの基本料金、時刻に応じた乗数、および音声品質に応じた乗数を乗算したもので構成されます。コールの基本料金は、[ Report Config ] > [ Rating Engine ] > [ Duration ] ウィンドウで設定できます。次のリストを参照してください。

- 基本料金 = コスト ( 装置の数 ) × 「ブロックの数」セクションで指定した接続時間ブロックに適用される。
- ブロックの数 = コールの接続時間の合計数 ( 秒単位 )、基本料金の適用対象になる。

時刻に応じた乗数は、[ Report Config ] > [ Rating Engine ] > [ Time of Day ] ウィンドウで設定できます。この設定値の基準になるのは、コールの接続時刻です。

音声品質に応じた乗数は、[ Report Config ] > [ Rating Engine ] > [ Voice Quality ] ウィンドウで設定できます。

この項では、次のトピックを取り上げます。

- [基本レートと接続時間の設定 \( P.4-2 \)](#)
- [コール コストへの時刻の算入 \( P.4-3 \)](#)
- [コール コストへの音声品質の算入 \( P.4-5 \)](#)

### 基本レートと接続時間の設定

コールのコストの基準を確立するには、すべてのコールについて基本レートを指定する必要があります。たとえば、現在のサービスプロバイダーが 1 分につき 6 セントのレートで 10 秒ごとに課金している場合は、すべてのコールに課される基本レートを、10 秒につき 1 セントとして設定します。

この項では、基本料金と接続時間の値を確立する方法について説明します。



(注)

デフォルトの基本料金値を使用する場合は、レポートにコストが提示されません。システムにはデフォルト値が設定されていますが、このデフォルトのままにした場合、Rating Engine は無効のままになり、コストを提示しません。

## 手順

**ステップ 1** [ Report Config ] > [ Rating Engine ] > [ Duration ] を選択します。

[ Call Duration ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ To ( seconds ) ] フィールドに、基本料金の適用対象となる秒数を入力します。たとえば、6 秒ごとに課金される場合は、6 をこのフィールドに入力します。コールの接続時間にかかわらず、1 分間ごとの単純レートで課金される場合は、60 をこのフィールドに入力して、料金が接続時間 ( 分 ) 全体に基づいて計算されるようにします。

**ステップ 3** [ Base Charge/Block ] フィールドに、[ To ( seconds ) ] フィールドに指定した秒数に課される基本コストを入力します。たとえば、1 分あたり 6 セントの料金を 6 秒ごとに課される場合は、0.006 をこのフィールドに入力します。接続時間 ( 分 ) 全体に対して 1 分間につき 7 セントの料金を課される場合 ( 細分課金なし ) は、0.07 をこのフィールドに入力します。

上の例では、6 秒ごとに課金されていてコストが 6 秒ごとに 0.006 である場合、7 秒間のコールのコストは 0.012 になります。根拠は、6 秒ごとに 0.006 のコストがかかり、0 ~ 6 秒までのブロックが 2 個発生していることです。

同様に、接続時間 ( 分 ) 全体に対して課金され、コストが 1 分間につき 7 セントである場合、3 分間のコールには 21 セントがかかります。根拠は、60 秒ごとに 7 セントのコストがかかり、1 分間のブロックが 3 個発生していることです。

**ステップ 4** [ Update ] ボタンをクリックします。



**ヒント** デフォルト設定に戻すには、[ Restore Defaults ] ボタンをクリックします。コールの料金やブロックをデフォルトの 0 に戻すと、コール コストの特定に使用されるその他の係数は、実質上無効になります。

## 追加情報

P.4-12 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## コール コストへの時刻の算入

コールのコストをさらに細かく定義するには、特定の時間帯に応じた乗数を指定します。たとえば、昼間のコールに対して加入者に割増料金を課す場合は、[ Call Duration ] ウィンドウで指定した 1 ブロックあたりの基本料金に対して、乗数を適用できます。

この項では、コールのコストが割増になる特定の時間帯を規定する方法について説明します。



**(注)** 時刻によるコール コストの割増がない場合は、デフォルト値を使用できます。デフォルトの乗数は 1 になっているため、時刻によるコール コストの割増は発生しません。

## 手順

**ステップ 1** [ Report Config ] > [ Rating Engine ] > [ Time of Day ] を選択します。

[ Time of Day ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 行を追加するには、[ Add Rows ] リンクをクリックします。

システムは、00:00:00 ~ 23:59:59 の行を追加します。

**ステップ 3** 行をさらに追加するには、新しい行を追加する場所の下にある行のチェックボックスをオンにし、[ Add Rows ] リンクをクリックします。



**(注)** 行を削除するには、削除する行のチェックボックスをオンにして、[ Delete Rows ] リンクをクリックします。

**ステップ 4** [ From ] と [ To ] の時刻範囲に、時、分、秒を 24 時間制で入力します。デフォルトの時刻範囲は、24 時間 (00:00:00 ~ 23:59:59) です。1 つの時刻範囲 (午前 8 時 ~ 午後 5 時) を設定するには、3 つの時刻範囲 (最初の 00:00:00 ~ 07:59:59、2 番目の 08:00:00 ~ 16:59:59、3 番目の 17:00:00 以降) を規定する必要があります。



**(注)** 時刻をコール コストに算入する場合は、12 時間制ではなく軍用時間 (24 時間制) を使用する必要があります。

**ステップ 5** Multiplication Factor を入力します。この値は、指定した時刻範囲にコールが発生した場合に、1 ブロックあたりの基本料金に掛ける数値を指定するものです。たとえば、午前 8 時 ~ 午後 5 時の間に発生したコールの料金を倍にする割増料金を課す場合、乗数は 2.00 になります。乗数が 1.00 である場合は、コールのコストに影響しません。

**ステップ 6** 時刻および乗数を追加するには、[ Update ] ボタンをクリックします。



**ヒント** デフォルト設定に戻すには、[ Restore Defaults ] ボタンをクリックします。

## 追加情報

P.4-12 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## コール コストへの音声品質の算入

コールのコストをさらに細かく定義するには、コールの音声品質に応じた乗数を指定します。たとえば、最高の音声品質のコールを利用する加入者に割増料金を課す場合は、[ Call Duration ] ウィンドウで指定した 1 ブロックあたりの基本料金に対して、音声品質に応じたさまざまな乗数を適用できます。1.00 以外の乗数を使用すると、さまざまな音声品質のコールを区別する場合にも役立ちます。

この項では、特定の音声品質のコールに対して追加コストを課す場合に、コール コストを規定する方法について説明します。



(注)

音声品質を高めるためにコール コストを増やしたくない場合は、デフォルト値を使用できます。デフォルトの乗数は 1.00 になっているため、音声品質によるコール コストの割増は発生しません。

### 手順

**ステップ 1** [ Report Config ] > [ Rating Engine ] > [ Voice Quality ] を選択します。

[ Voice Quality ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Multiplication Factor ] フィールドに、指定した音声品質カテゴリのコールが発生した場合に 1 ブロックあたりの基本料金に掛ける数値を入力します。音声品質カテゴリ ( Good、Acceptable、Fair、Poor ) については、P.4-6 の「QoS 値の定義」で説明しています。

### 例

音声品質 ( Good ): 乗数 1.2

音声品質 ( Acceptable ): 乗数 1.0

音声品質 ( Fair ): 乗数 1.0

音声品質 ( Poor ): 乗数 0.8

最高品質のコールには、高品質コールまたは中品質コールの 1.2 倍の料金が課されます。低品質のコールには、高品質コールまたは中品質コールの 0.8 倍の料金が課されます。



(注)

最高品質コールの乗数 >= 高品質コールの乗数 >= 中品質コールの乗数 >= 低品質コールの乗数にしてください。

**ステップ 3** 音声品質に応じた乗数を設定するには、[ Update ] ボタンをクリックします。



ヒント

デフォルト設定に戻すには、[ Restore Defaults ] ボタンをクリックします。

### 追加情報

P.4-12 の「関連トピック」を参照してください。

## QoS 値の定義

CAR は、QoS レポートを生成します。これらのレポートで提示されるデータを格付けするために、CAR では、音声品質について設定した事前定義の値を使用します。ジッタ、遅延、および喪失パケットについて、最高、高、中、低に該当する値の範囲を指定します。コールがこの4つの音声品質カテゴリに設定されるどの基準も満たさない場合、そのコールは NA（該当なし）に分類されます。同様に、CMR データを生成するようにシステムが設定されていない（または CMR が不良の）場合は、CMR は NA（該当なし）に分類されます。

パラメータの値を無視するには、NA と入力します。たとえば、ジッタなどの QoS パラメータを NA にして、QoS を最高に定義します。これは、遅延の値と喪失パケットの値のみに基づいて QoS が決まることを意味します。3つのパラメータの値を、すべて NA にすることはできません。Infinity は、それぞれのパラメータの最大値を表します。ジッタの値が 500 ~ Infinity である場合は低品質とみなす、というルールを指定すると、ジッタが 500 を超えるコールは低品質として分類されます。



**(注)** 「NA」および「Infinity」という分類では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

この項では、QoS の値を定義する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ Report Config ] > [ Define QoS ] を選択します。

[ Define Quality of Service ] ウィンドウが表示されます。表 4-1 に、QoS のデフォルト値を示します。

表 4-1 QoS のデフォルト値

QoS パラメータ	デフォルト
Lost Packets	Good : 0.00 ~ 15.00 Acceptable : 15.01 ~ 30.00 Fair : 30.01 ~ 45.00 Poor : 45.01 ~ Infinity
Jitter	Good : 0 ~ 20 Acceptable : 21 ~ 100 Fair : 101 ~ 150 Poor : 151 ~ Infinity
Latency	デフォルト値なし

**ステップ 2** 行を追加するには、新しい行を追加する場所の下にある行のチェックボックスをオンにし、[ Add Rows ] リンクをクリックします。

チェックボックスをオンにした行の上に新しい行が追加され、チェックボックスはオフになります。

これらの行は、QoS レポートで状態を最高、高、中、低に格付けするときに、CAR で使用される値を表します。設定する値ごとに、上限値と下限値を [ From ] カラムと [ To ] カラムに入力します。



**(注)** 行を削除するには、削除する行のチェックボックスをオンにして、[ Delete Rows ] リンクをクリックします。

---

**ステップ 3** 設定した値ごとに、[ Quality of Service ] を選択します。

**ステップ 4** [ Update ] ボタンをクリックします。



**ヒント** デフォルトの QoS 値に戻すには、[ Restore Defaults ] ボタンをクリックします。

---

#### 追加情報

P.4-12 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## レポートの自動生成と警告の設定

CAR は、スケジュールに基づいて自動的にレポートを生成します。レポート生成には、日次、週次、月次の要約レポート、QoS レポート、トラフィック レポート、デバイスやルート プランの使用状況レポートなど、定期的に確認する必要のあるレポートを含めることができます。



(注)

ゲートウェイ、ルートグループ、ルートリスト、およびルートパターンが多数ある大規模な構成では、すべての使用状況レポート(ゲートウェイの使用状況、回線グループの使用状況、ルートグループの使用状況、ルートリストの使用状況、およびルートパターンの使用状況)を有効にすると、システムの CPU 使用率が上昇し、レポートの生成時間が長くなります。また、システムのパフォーマンスにも影響します。自動生成は、ゲートウェイの使用状況についてのみ有効にすることをお勧めします。これは、通常、大規模なシステムでもゲートウェイの数は少ないためです。どの使用状況レポートも、5 個以下のゲートウェイ、ルートグループ、ルートリスト、またはルートグループを選択して、すべてオンデマンドで生成することができます。

レポートを自動生成するプロセスは、次の 2 つの手順で構成されます。

- まず、生成するレポートを有効にします。P.4-8 の「[レポート自動生成の有効化とカスタマイズ](#)」を参照してください。
- 次に、レポートを生成する日時をスケジューリングします(CAR では、デフォルトのスケジュールを提供しています。デフォルトのスケジュールをそのまま使用できる場合は、自動生成するレポートを有効にするだけで済みます)。P.3-8 の「[CAR システム スケジューラの設定](#)」を参照してください。

CAR は、さまざまなイベントについて電子メール警告を提供します。システムで電子メール警告を有効にするプロセスは、2 つの手順で構成されます。

- まず、電子メール警告を有効にします。P.4-10 の「[電子メールによる警告の有効化と無効化](#)」を参照してください。
- 次に、警告基準を満たしたときに送信される電子メールを設定します。

この項では、次のトピックを取り上げます。

- [レポート自動生成の有効化とカスタマイズ \(P.4-8\)](#)
- [電子メールによる警告の有効化と無効化 \(P.4-10\)](#)

### レポート自動生成の有効化とカスタマイズ

この項では、1 つまたはすべてのレポートの自動生成を有効または無効にする方法について説明します。また、レポートパラメータをカスタマイズしてメーリング オプションを有効にすることで、レポートが作成されたときにそれらを電子メールで送信することもできます。レポートをメール送信する場合、CAR は、CAR 管理者のメール ID と [ Mail Parameters ] ウィンドウで設定されたメールアドレスを使用して電子メール アドレスを生成します。つまり、メールアドレスは <CAR 管理者のメール ID> @ < [ Mail Parameters ] ウィンドウで設定されたドメイン > になります。

Cisco Unified CallManager の新規インストールの場合は常に、事前に電子メール警告とレポートの自動生成を有効にしておく必要があります。すべてのレポートおよび警告のデフォルトのステータスは**無効**です。

Cisco Unified CallManager を Release 5.x からさらに新しいリリースにアップグレードする場合は常に、CAR スケジューラ サービスがアクティブのときにだけ、tbl\_pregenmail\_option テーブルのデータが移行されます。



(注)

それ以外のバージョンの Cisco Unified CallManager にアップグレードする場合は、システム リソースを節約するために、アップグレードの処理中はすべてのレポートと警告を無効にします。アップグレード完了後に、レポートと警告を有効化することを忘れないでください。

自動生成を有効にできるレポートについては、[P.1-12](#) の「[自動生成レポートのスケジュール](#)」で説明しています。

#### 手順

**ステップ 1** [ Report Config ] > [ Automatic Generation/Alert ] を選択します。

[ Automatic Report Generation/Alert ] オプション ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Reports [ Report Generation Interval ] ボックスで、システム スケジューラで定義したスケジュールに基づいて自動生成するレポートを選択します。[P.3-8](#) の「[CAR システム スケジューラの設定](#)」を参照してください。

**ステップ 3** [ Status ] フィールドで、[ Enabled ] または [ Disabled ] を選択します。

**ステップ 4** レポートをカスタマイズする場合、および生成されたレポートを電子メールで送信する場合は、[ Customize Parameters ] ボタンをクリックします。

[ Customize Parameters ] ウィンドウが表示されます。



(注) 各レポートのカスタマイズオプションは、レポートのタイプに応じてそれぞれ異なります。

**ステップ 5** システムに電子メールで送信するレポートのタイプに応じて、[ CSV ] オプション ボタンまたは [ PDF ] オプション ボタンを選択します。

**ステップ 6** レポートがすべての CAR 管理者にメールで送信されるようにするには、[ Mailing Option ] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** 指定した値を保存するには、[ Update ] ボタンをクリックします。

[ Customize Parameters ] ウィンドウが閉じます。

**ステップ 8** その他のレポートを有効にする場合やカスタマイズする場合は、[ステップ 4](#) ~ [ステップ 7](#) を繰り返します。

**ステップ 9** [ Update ] ボタンをクリックします。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR スケジューラ サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。

#### 追加情報

[P.4-12](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 電子メールによる警告の有効化と無効化

この項では、ChangeLimitNotification 警告または QoSNotification 警告をユーザにメール送信できるようにする方法について説明します。



(注) QoS 通知および料金限度通知の設定については、[P.4-11](#) の「[通知限度の設定](#)」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** [ Report Config ] > [ Automatic Generation/Alert ] を選択します。

[ Automatic Report Generation/Alert ] オプション ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Alerts by Mail ] ボックスで、有効または無効にする警告を選択します。

**ステップ 3** [ Status ] フィールドで、[ Enabled ] または [ Disabled ] を選択します。

**ステップ 4** [ Update ] ボタンをクリックします。

**ステップ 5** 電子メールによる警告を有効または無効にするには、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR スケジューラ サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。

### 追加情報

[P.4-12](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 通知限度の設定

QoS および 1 日あたりの料金については、限度を指定できます。これらの上限値を超えた場合、管理者に電子メールで警告が送信されます。この警告は、Cisco Unified CallManager の管理ページで CAR 管理者として指定されたすべてのユーザに送信されます。P.2-5 の「[CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定](#)」を参照してください。

この項では、QoS および 1 日あたりの料金に通知限度を指定する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** [ Report Config ] > [ Notification Limits ] を選択します。

[ Set Limits for Notification ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Daily QoS Parameters ] 領域に、最高品質コールと低品質コールのしきい値を入力します。

しきい値は、すべてのコールにおける割合 (%) の形で適用されます。このしきい値を超えると、管理者に電子メール警告が送信されます。最高品質コールのデフォルトは、20 % 未満です。これは、最高品質コールが 1 日間のすべてのコールの 20 % 未満であった場合、警告が送信されることを意味します。低品質コールのデフォルトは、30 % 超過です。これは、低品質コールが 1 日間のすべてのコールの 30 % を超えた場合、警告が送信されることを意味します。

**ステップ 3** [ Daily Charge Limit ] 領域に、( ドル、フラン、ポンドなどの ) 通貨を単位とする数値を入力します。システム内のいずれかのユーザの料金がこの値を超えた場合は、管理者に電子メール警告が送信されます。

**ステップ 4** [ Update ] ボタンをクリックします。

変更内容は、ただちに有効になります。新しい値は、次回に警告が送信されるときに使用されます。

---

### 追加情報

P.4-12 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [CAR システム パラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [レポート自動生成の有効化とカスタマイズ \(P.4-8\)](#)
- [メール サーバのパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [電子メールによる警告の有効化と無効化 \(P.4-10\)](#)
- [メール サーバのパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [CAR システム スケジューラの設定 \(P.3-8\)](#)
- [評価エンジンの設定 \(P.4-2\)](#)
- [QoS 値の定義 \(P.4-6\)](#)
- [CAR システム データベースの設定 \(P.3-14\)](#)
- [基本レートと接続時間の設定 \(P.4-2\)](#)
- [コール コストへの時刻の算入 \(P.4-3\)](#)
- [コール コストへの音声品質の算入 \(P.4-5\)](#)



## CAR ユーザ レポートの設定

CAR には次の 3 レベルのユーザに対応したレポート機能があります。

- 管理者：ロード バランシング、システム パフォーマンス、およびトラブルシューティングに役立つシステム レポートを生成します。
- マネージャ：予算編成またはセキュリティを目的とする場合や、コールの音声品質を判断する場合のコール モニタリングに役立つユーザ、部門、および QoS に関するレポートを生成します。
- ユーザ：自分のコールに関する課金情報レポートを生成します。

この章は次の内容で構成されています。

- [課金情報の設定 \(P.5-2\)](#)
- [上位 N 件のレポートの設定 \(P.5-5\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Assistant 使用状況レポートの設定 \(P.5-12\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス レポート \(P.5-15\)](#)
- [レポートのメール送信 \(P.5-16\)](#)
- [ユーザの検索 \(P.5-18\)](#)
- [関連トピック \(P.5-19\)](#)



(注)

ユーザの職責によっては、この章で説明する各レポートへのアクセス権が与えられていない場合があります。

## 課金情報の設定

個別の課金情報は、管理者の指定した日付範囲におけるコール情報を提供します。システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。管理者である場合、詳細については P.3-8 の「CAR システム スケジューラの設定」を参照してください。

部門の課金情報は、コール情報と QoS 評価を提供します。マネージャである場合は、マネージャへのレポート対象となるすべてのユーザ、または選択した特定のユーザによって発信されたコールについて、要約レポートまたは詳細レポートを生成できます。

CAR 管理者である場合は、システム内の一部またはすべてのユーザが発信したコールについて、要約レポートまたは詳細レポートを生成できます。このレポートは、すべてのコールをシステム全体のユーザ レベルごとに追跡するのに役立ちます。

この項では、次の手順について説明します。

- 個別の課金情報レポートの設定 (P.5-2)
- 部門の課金情報レポートの設定 (P.5-3)

### 個別の課金情報レポートの設定

この項では、ユーザ、マネージャ、および管理者に関する要約情報や詳細情報を、表示またはメールで送信する方法について説明します。

#### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかを実行します。

- ユーザまたはマネージャである場合は、[ Bills ] > [ Individual ] を選択します。
- CAR 管理者である場合は、[ User Reports ] > [ Bills ] > [ Individual ] を選択します。

[ Individual Bill ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Report Type ] フィールドで、[ Summary ] または [ Detail ] を選択します。

要約レポートは、選択した期間のすべてのコールの要約を提供します (発信されたコールの合計数および発生した料金)。詳細レポートは、選択した期間のすべてのコールのコール タイプを提供します ([ Internal ] [ Local ] [ Long Distance ] [ International ] または [ On Net ] )。

**ステップ 3** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成されたレポートを選択し (使用可能な場合) [ステップ 6](#) に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、[ステップ 4](#) に進みます。



**(注)** CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャまたはユーザとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リスト ボックスに表示されません。

CAR 管理者としてログインしている場合だけ、生成済みのレポートを選択できます。CAR 管理者以外のユーザ (マネージャ レベルのユーザと個々のユーザ) は、スクロール ダウン リストにある生成済みレポートを表示できません。

**ステップ 4** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 6** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.5-19 の「関連トピック」を参照してください。

## 部門の課金情報レポートの設定



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、部門の課金に関する要約情報や詳細情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

#### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかを実行します。

- マネージャである場合は、[ Bills ] > [ Department ] を選択します。
- CAR 管理者である場合は、[ User Reports ] > [ Bills ] > [ Department ] を選択します。

[ Department Bill ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Report Type ] フィールドで、[ Summary ] または [ Detail ] を選択します。

要約レポートは、選択した期間のすべてのコールの要約です。要約には、コールの分類 ([ On Net ] [ Internal ] [ Local ] [ Long Distance ] [ International ] [ Incoming ] [ Tandem ] [ Others ])、QoS 情報、発信されたコールの合計数、および発生した料金が含まれます。詳細レポートは、選択した期間のすべてのコールについて、コールの日付、コールの発信時刻、発信元番号 (発信番号)、送信先番号 (着信番号)、コールの分類 ([ On Net ] [ Internal ] [ Local ] [ Long Distance ] [ International ] [ Incoming ] [ Tandem ] または [ Others ])、QoS 情報、コールの接続時間 (秒)、および CAR の評価エンジンの設定に基づいたコールの料金に関する情報を提供します。

**ステップ 3** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し (使用可能な場合)、[ステップ 13](#) に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、[ステップ 4](#) に進みます。



(注) CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リストボックスに表示されません。

**ステップ 4** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 5** マネージャである場合は、[ステップ 6](#)に進みます。CAR 管理者である場合は、[ステップ 10](#)に進みます。

**ステップ 6** すべての直接レポートを選択するには、[ Select All Reportees ] チェックボックスをオンにします。

[ List of Reportees ] に、直接レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポート対象者を個別に選択するには、[ List of Reportees ] に示されているレポートを選択します。

**ステップ 8** [ Add ] ボタンをクリックします。

部門の課金情報に含まれるのは、[ Selected Reportees ] にリストされているユーザのみです。

**ステップ 9** 特定ユーザのレポート対象者を表示するには、ユーザを選択して[ Down ] ボタンをクリックします。

選択したユーザに対するすべてのレポート対象者が表示されます。

**ステップ 10** CAR 管理者である場合は、[ Select All Users ] チェックボックスをオンにして、すべてのユーザを含めます。マネージャである場合は、[ステップ 12](#)に進みます。

**ステップ 11** 個々のユーザを選択するには、レポートに含めるユーザのユーザ ID を [ User ID ] フィールドに入力します。[ Add ] ボタンをクリックします。

また、提供されている検索機能を使用することもできます。検索機能の使用方法については、[P.5-18](#)の「[ユーザの検索](#)」を参照してください。

**ステップ 12** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 13** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 14** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16](#)の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

[P.5-19](#)の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 上位 N 件のレポートの設定

料金別の上位 N 件は、指定した日付範囲の間に課金が多かった上位のユーザを最高のものから順番にレポートします。マネージャである場合は、指定した期間中に、マネージャへのレポート対象となるユーザが発信したすべてのコールで課金の大きいものが、最高のものから順番にリストされます。CAR 管理者である場合、このレポートには、指定した期間中にシステム上のすべてのユーザが発信したすべてのコールで課金の大きいものが、最高のものから順番に示されます。それぞれの上位 N 件レポートに 2 ~ 3 のオプションを指定することで、上位 N 件のユーザ、送信先、コール、または内線を表示できます。

接続時間別の上位 N 件は、指定する期間中にコールの接続時間が長かった上位のユーザを最長のものから順番にレポートします。マネージャの場合、レポートには選択した日付範囲の間にコール時間が長かった、マネージャへのレポート対象者になっている上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。CAR 管理者の場合、レポートには選択した日付範囲の間にコール時間が長かった上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。

コール数別の上位 N 件は、指定する期間中に発着信回数が多かった上位のコールをユーザ別に最多のものから順番にレポートします。マネージャの場合、レポートには選択した日付範囲の間にコール数が多かった上位のコールがユーザ別に最多のものから順番にリストされます。CAR 管理者の場合、レポートには回数が多かった上位のコールがシステム内のユーザごとに最多のものから順番にリストされます。

この項では、次のトピックを取り上げます。

- [料金別上位 N 件のレポートの設定 \(P.5-5\)](#)
- [コール数別上位 N 件のレポートの設定 \(P.5-10\)](#)
- [コール数別上位 N 件のレポートの設定 \(P.5-10\)](#)

## 料金別上位 N 件のレポートの設定

この項では、コストを基準として分類した上位 N 件のコールについて、レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかを実行します。

- マネージャである場合は、[ Top N ] > [ By Charge ] を選択します。
- CAR 管理者である場合は、[ User Reports ] > [ Top N ] > [ By Charge ] を選択します。

[ Top N Charge ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Select Call Types ] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。これらのチェックボックスが表示されるのは、[ステップ 4](#) の説明に従って、[ Available Reports ] ドロップダウン リスト ボックスから [ Generate New Report ] を選択した場合のみです。[表 5-1](#) で、コール タイプについて説明します。



**ヒント** すべてのチェックボックスをオンにするには、[ Select All ] をクリックします。すべてのチェックボックスをオフにするには、[ Clear All ] をクリックします。

表 5-1 料金別上位 N 件のコールタイプ

コールタイプ	説明
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウで On Net に設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 3** [ Report Type ] フィールドで、表 5-2 の説明に従ってレポートタイプを選択します。

表 5-2 料金別上位 N 件のレポートタイプ

レポートタイプ	説明
By Individual Users	このレポートには、課金の多かった上位のユーザが最高のものから順番にリストされます。
By Destinations	このレポートには、課金の多かった上位の送信先が最多のものから順番にリストされます。
By All Calls	このデフォルト レポートには、課金の多かった上位のコールが最多のものから順番にリストされます。



(注) 料金別上位 N 件の送信先レポートには、課金の多かった上位の送信先が最高のものから順番に示されます。同じ送信先番号へのコールでもコール分類が異なる場合は(たとえば、一部は [ Internal ] で他の一部は [ Incoming ] )、これらのレポートでは個別に処理され一覧されません。

**ステップ 4** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し(使用可能な場合)、**ステップ 8**に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、**ステップ 5**に進みます。



(注) CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リストボックスに表示されません。

**ステップ 5** レポートに表示するレコードの数を [ No of Records ] フィールドに入力します。デフォルト値は 5 です。

**ステップ 6** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 7** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 8** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 9** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16](#)の「**レポートのメール送信**」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

[P.5-19](#)の「**関連トピック**」を参照してください。

## 接続時間別上位 N 件のレポートの設定

この項では、接続時間を基準として分類した上位 N 件のコールに関するレポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

## 手順

**ステップ 1** 次のいずれかを実行します。

- マネージャである場合は、[ Top N ] > [ By Duration ] を選択します。
- CAR 管理者である場合は、[ User Reports ] > [ Top N ] > [ By Duration ] を選択します。

[ Top N Duration ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Select Call Types ] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。これらのチェックボックスが表示されるのは、[ステップ 4](#) の説明に従って、[ Available Reports ] ドロップダウン リスト ボックスから [ Generate New Report ] を選択した場合のみです。[表 5-3](#) で、コール タイプについて説明します。

**表 5-3 接続時間別上位 N 件のコール タイプ**

コール タイプ	説明
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウで On Net に設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。 <a href="#">P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」</a> を参照してください。
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 3** [ Report Type ] フィールドで、[表 5-4](#) の説明に従ってレポート タイプを選択します。

表 5-4 接続時間別上位 N 件のレポート タイプ

レポート タイプ	説明
By Individual Users	このレポートには、接続時間の長かった上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。
By Destinations	このレポートには、接続時間の長かった上位の送信先が最長のものから順番にリストされます。
By All Calls	このレポートには、接続時間の長かった上位のコールが最長のものから順番にリストされます。



**(注)** 接続時間別上位 N 件の送信先レポートには、コールの接続時間が長かった上位の送信先が最高のものから順番に示されます。同じ送信先番号へのコールでもコール分類が異なる場合は（たとえば、一部は [ Internal ] で他の一部は [ Incoming ] ）、これらのレポートでは個別に処理され一覧されます。

**ステップ 4** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、**ステップ 8**に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、**ステップ 5**に進みます。



**(注)** CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リストボックスに表示されません。

**ステップ 5** レポートに表示するレコードの数を [ No of Records ] フィールドに入力します。デフォルト値は 5 です。

**ステップ 6** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 7** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 8** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 9** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.5-19 の「関連トピック」を参照してください。

## コール数別上位 N 件のレポートの設定

この項では、回数を基準として分類した上位 N 件のコールについて、レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかを実行します。

- マネージャである場合は、[ Top N ] > [ By Number of Calls ] を選択します。
- CAR 管理者である場合は、[ User Reports ] > [ Top N ] > [ By Number of Calls ] を選択します。

[ Top N Number of Calls ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Select Call Types ] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。これらのチェックボックスが表示されるのは、[ステップ 4](#) の説明に従って、[ Available Reports ] ドロップダウン リスト ボックスから [ Generate New Report ] を選択した場合のみです。[表 5-5](#) で、コール タイプについて説明します。

表 5-5 コール数別上位 N 件のコール タイプ

コール タイプ	説明
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウで On Net に設定されている場合はすべて On Net コールに分類できません。 <a href="#">P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」</a> を参照してください。
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイを使用しない）クラスター内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN；公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 3** [ Report Type ] フィールドで、[表 5-6](#)の説明に従ってレポートタイプを選択します。

**表 5-6 コール数別上位 N 件のレポートタイプ**

レポートタイプ	説明
By Individual Users	このレポートには、コール数の多かった上位のユーザが最多のものから順番にリストされます。
By Extensions	このレポートには、グループ（マネージャの場合）またはシステム（CAR 管理者の場合）でコールの発着信回数が多かった上位の内線が、最多のものから順番にリストされます。

**ステップ 4** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 8](#)に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、[ステップ 5](#)に進みます。



**(注)** CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リストボックスに表示されません。

**ステップ 5** レポートに表示するレコードの数を [ No of Records ] フィールドに入力します。デフォルト値は 5 です。

**ステップ 6** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 7** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 8** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 9** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16](#)の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

[P.5-19](#)の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## Cisco Unified CallManager Assistant 使用状況レポートの設定

CAR は、次の Cisco Unified CallManager ユーザに関するコール完了使用状況レポートを提供します。ユーザには、マネージャおよびマネージャのコールを管理する設定済み / 割り当て済みのアシスタントが該当します。CAR 管理者だけが Cisco Unified Communications Manager Assistant レポートを生成できます。Cisco Unified CallManager メニューを使用すると、姓や名の一部または全体を条件とした簡単な検索機能を使用して、マネージャまたはアシスタントのすべてまたは一部を選択できます。これらのレポートは、PDF 形式または CSV 形式でオンデマンドで生成し、電子メールで送信することができます。また、時刻範囲を選択して、詳細レベルまたは要約レベルのレポートを生成することもできます。

マネージャ レポートに含まれている可能性があるのは、マネージャが自分で処理したコールのみ、アシスタントがマネージャの代理で処理したコールのみ、またはこれらの両方の条件を満たすコールです。マネージャの要約レポートには、各タイプのコール数およびコールの合計数が、アシスタント（およびマネージャ）ごとの接続時間とともに示されます。マネージャの詳細レポートには、日付、発信時刻、発信元番号、送信先番号、コールの分類、および接続時間がコールごとにすべてのアシスタント（およびマネージャ）について示され、マネージャの最終的な接続時間合計が示されます。

アシスタント レポートに含まれている可能性があるのは、アシスタントが自分で処理したコールのみ、アシスタントがマネージャの代理で処理したコールのみ、またはこれらの両方の条件を満たすコールです。アシスタントの要約レポートには、各タイプのコール数およびコールの合計数が、マネージャ（およびアシスタント）ごとの接続時間とともに示されます。アシスタントの詳細レポートには、日付、発信時刻、発信元番号、送信先番号、コールの分類、および接続時間がコールごとにすべてのマネージャ（およびアシスタント）、およびアシスタントについて示され、アシスタントの累積接続時間の合計が示されます。

この項では、次の手順について説明します。

- [Cisco Unified CallManager Assistant のマネージャのコール使用状況レポートの設定 \(P.5-12\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Assistant のアシスタントのコール使用状況レポートの設定 \(P.5-13\)](#)

## Cisco Unified CallManager Assistant のマネージャのコール使用状況レポートの設定

この項では、Cisco Unified CallManager Assistant のマネージャのコール使用状況レポートを生成する方法について説明します。CAR 管理者だけがこれらのレポートを生成できます。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** [ User Reports ] > [ Cisco Unified CallManager Assistant ] > [ Manager Call Usage ] を選択します。

[ Call Usage for Manager ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Report Type ] ドロップダウン リストから、[ Summary ] または [ Detail ] のどちらかを選択します。

**ステップ3** [ Calls handled by ] ドロップダウン リスト ボックスから、[ Manager ] [ Assistant for Manager ] または [ Manager & Assistant for Manager ] を選択します。

**ステップ4** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ5** [ Select Manager(s) ] ボックスで、[ Select All Manager(s) ] チェックボックスをオンにし、マネージャの ID を入力します。または、[ Select Manager(s) ] リンクをクリックしてマネージャの ID を検索し、ID を [ Manager Id ] フィールドに入力します。

**ステップ6** [ Add ] をクリックします。

選択した ID が [ Selected Manager(s) ] ボックスに表示されます。

**ステップ7** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

レポートが表示されます。

**ステップ8** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。



**(注)** マネージャを Selected Manager(s) リストから削除するには、ID を選択して [ Remove ] をクリックします。リストからすべてのマネージャを削除するには、[ Remove All ] をクリックします。

#### 追加情報

[P.5-19 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## Cisco Unified CallManager Assistant のアシスタントのコール使用状況レポートの設定

この項では、Cisco Unified CallManager Assistant のアシスタントのコール使用状況レポートを生成する方法について説明します。CAR 管理者だけがこれらのレポートを生成できます。



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

#### 手順

**ステップ1** [ User Reports ] > [ Cisco Unified CallManager Assistant ] > [ Assistant Call Usage ] を選択します。

[ Call Usage for Assistant ] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [ Report Type ] ドロップダウン リストから、[ Summary ] または [ Detail ] のどちらかを選択します。
- ステップ 3** [ Calls handled by ] ドロップダウン リスト ボックスから、[ Assistant ] [ Assistant for Manager ] または [ Assistant & Assistant for Manager ] を選択します。
- ステップ 4** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。
- ステップ 5** [ Select Assistant(s) ] ボックスで、[ Select All Assistant(s) ] チェックボックスをオンにし、アシスタントの ID を入力します。または、[ Select Assistant(s) ] リンクをクリックしてアシスタントの ID を検索し、ID を [ Assistant Id ] フィールドに入力します。
- ステップ 6** [ Add ] をクリックします。
- 選択した ID が [ Selected Assistant(s) ] ボックスに表示されます。
- ステップ 7** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。
- ステップ 8** [ View Report ] ボタンをクリックします。
- レポートが表示されます。
- ステップ 9** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16](#) の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。



- (注)** アシスタントを Selected Assistant(s) リストから削除するには、ID を選択して [ Remove ] をクリックします。リストからすべてのアシスタントを削除するには、[ Remove All ] をクリックします。

#### 追加情報

[P.5-19](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## Cisco IP Phone サービス レポート

CAR 管理者だけが Cisco IP Phone サービス レポートを生成できます。選択した Cisco Unified IP Phone サービス、選択した各サービスに登録されているユーザの数、および選択した各サービスの使用率を示すレポートを生成できます。

特定の Cisco Unified IP Phone サービスの使用状況を示すレポートを生成するには、次の手順に従います。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** [ User Reports ] > [ Cisco IP Phone Services ] を選択します。

[ Cisco IP Phone Services ] ウィンドウに、システム内に設定されているすべての Cisco Unified IP Phone サービスのリストが表示されます。

**ステップ 2** [ List of Cisco IP Phone Services ] 領域で、レポートに含めるサービスを選択します。

**ステップ 3** 右矢印をクリックして、選択したサービスを [ Selected Cisco IP Phone Services ] ボックスに追加します。

このボックスにリストされているすべてのサービスが、生成するレポートに含まれます。

**ステップ 4** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

レポートが表示されます。

**ステップ 5** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16 の「レポートのメール送信」](#)で説明されている手順に従います。

### 追加情報

[P.5-19 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## レポートのメール送信

CAR では、すべてのレポートを電子メールで送信することができます。CAR の任意のレポート ウィンドウから、レポートをメールで送信できます。また、まずレポートを表示してから、その後で送信することもできます。

### 開始する前に

レポートを電子メールで送信するには、まず、有効な Mail Parameters を設定します。Mail Parameters を使用すると、システム内の電子メール サーバを使用して、CAR で電子メールを送信できるようになります。詳細については、P.3-2 の「[メールサーバのパラメータの設定](#)」を参照してください。また、生成するレポートの詳細も設定します。次の各項を参照してください。

- [課金情報の設定 \(P.5-2\)](#)
- [上位 N 件のレポートの設定 \(P.5-5\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス レポート \(P.5-15\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Assistant 使用状況レポートの設定 \(P.5-12\)](#)
- [CAR システム レポートの設定 \(P.6-1\)](#)
- [CAR デバイス レポートの設定 \(P.7-1\)](#)
- [CDR 検索の設定 \(P.8-1\)](#)

この項では、CAR レポートをメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 任意の CAR レポート ウィンドウで、またはレポートを表示した後に、[ Send Report ] ボタンをクリックします。

[ Mail To ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** レポートの送信先となるユーザの電子メール ID を入力します。

**ステップ 3** [ To ] ボタンをクリックすると、ユーザを検索できます。

[ User Search ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** [ First Name ] フィールドと [ Last Name ] フィールドにユーザの姓や名を入力し、[ Search ] ボタンをクリックします。

同じページに [ User Search Results ] ウィンドウが表示され、入力した検索条件に一致するすべてのユーザがリストされます。

**ステップ 5** レポートの送信先にするユーザの行で、[ Select ] リンクをクリックします。

選択したユーザが、[ Mail To ] ウィンドウの [ To ] フィールドに追加されます。このレポートのコピーの送信先にするユーザのリストに、ユーザをさらに追加するには、この手順を繰り返します。

**ステップ 6** ユーザをすべて追加したら、[ User Search ] ウィンドウの [ Close ] ボタンをクリックします。

[ Search Users ] ウィンドウにリストされているユーザが、[ Mail To ] ウィンドウの [ To ] フィールドにコピーされます。

**ステップ7** ユーザを [Cc] フィールドに追加するには、[Cc] ボタンをクリックし、[ステップ4 ~ ステップ6](#) で説明した手順に従います。

**ステップ8** [Subject] フィールドに、メッセージの題名を入力します (オプション)。

**ステップ9** [Message] 領域に、メッセージを入力します (オプション)。

**ステップ10** レポートを送信するには、[Send] ボタンをクリックします。

---

### 追加情報

P.5-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## ユーザの検索

CAR の多くのレポートでは、ユーザを検索できるように検索機能を提供しています。検索をサポートしている CAR レポートは、次のとおりです。

- ユーザレポート：部門の課金情報、個別の課金情報、料金別上位 N 件、接続時間別上位 N 件、コール数別上位 N 件、Cisco Unified CallManager Assistant、および Cisco IP Phone サービス
- システム レポート：QoS 詳細、内線別のトラフィック要約
- 生成可能なレポートは、すべて [ Send Report ] ボタンでメール送信することができます。

### 開始する前に

P.5-18 の「[ユーザの検索](#)」に示すいずれかのウィンドウを使用している必要があります。

この項では、ユーザを検索する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** [ Search Users ] リンクをクリックします。

[ User Search ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ First Name ] フィールドと [ Last Name ] フィールドにユーザの姓や名を入力し、[ Search ] ボタンをクリックします。

同じウィンドウに [ User Search Results ] ウィンドウが表示され、入力した検索条件に一致するすべてのユーザがリストされます。

**ステップ 3** 必要なユーザの行で、[ Select ] リンクをクリックします。

選択したユーザが、[ User Search ] ウィンドウの [ List of Users ] に追加されます。ユーザをさらに追加するには、この手順を繰り返します。

**ステップ 4** ユーザをすべて追加したら、[ User Search ] ウィンドウの [ Close ] ボタンをクリックします。

---

### 追加情報

P.5-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [CAR ユーザレポートの設定 \(P.5-1\)](#)
- [CAR システムレポートの設定 \(P.6-1\)](#)
- [CAR システムの設定 \(P.3-1\)](#)
- [CAR デバイスレポートの設定 \(P.7-1\)](#)
- [CDR 検索の設定 \(P.8-1\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスレポートの結果 \(P.10-9\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Assistant 使用状況レポートの設定 \(P.5-12\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Assistant のマネージャのコール使用状況レポートの設定 \(P.5-12\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Assistant のアシスタントのコール使用状況レポートの設定 \(P.5-13\)](#)
- [コール数別上位 N 件レポートの結果 \(P.10-5\)](#)
- [料金別上位 N 件のレポートの設定 \(P.5-5\)](#)
- [接続時間別上位 N 件のレポートの設定 \(P.5-7\)](#)
- [料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果 \(P.10-4\)](#)
- [コール数別上位 N 件のレポートの設定 \(P.5-10\)](#)
- [課金情報の要約レポートの結果 \(P.10-2\)](#)
- [課金情報の詳細レポートの結果 \(P.10-3\)](#)
- [個別の課金情報レポートの設定 \(P.5-2\)](#)

■ 関連トピック



## CAR システム レポートの設定

---

CAR には次の 3 レベルのユーザに対応したレポート機能があります。

- 管理者：ロード バランシング、システム パフォーマンス、およびトラブルシューティングに役立つシステム レポートを生成します。
- マネージャ：予算編成またはセキュリティを目的とする場合や、コールの音声品質を判断する場合のコール モニタリングに役立つユーザ、部門、および QoS に関するレポートを生成します。
- ユーザ：自分のコールに関する課金情報レポートを生成します。

この章は次の内容で構成されています。

- [QoS レポートの設定 \(P.6-2\)](#)
- [トラフィック レポートの設定 \(P.6-11\)](#)
- [FAC/CMC レポートの設定 \(P.6-17\)](#)
- [迷惑呼詳細レポートの設定 \(P.6-21\)](#)
- [優先コール要約の設定 \(P.6-22\)](#)
- [システム概要の設定 \(P.6-24\)](#)
- [CDR エラーの設定 \(P.6-25\)](#)
- [関連トピック \(P.6-26\)](#)



**(注)** ユーザの職責によっては、この章で説明する各レポートへのアクセス権が与えられていない場合があります。

---

## QoS レポートの設定

CAR 管理者だけが QoS 詳細レポートを生成します。このレポートは、指定した期間中に Cisco Unified CallManager ネットワークで発着信されたコールについて、QoS 評価を詳細に示します。

QoS 要約レポートは、マネージャまたは CAR 管理者が生成します。このレポートは、指定したコール分類および期間に関して、QoS グレードの分布を表す 2 次元の円グラフを提供します。また、コールを QoS ごとに要約した表も提供します。CDR と CMR に含まれているコール詳細、および P.4-6 の「QoS 値の定義」で指定した QoS パラメータが、コールに特定の音声品質カテゴリを割り当てるときの基準になります。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「CAR システム スケジューラの設定」を参照してください。

### QoS パラメータの演算子

表 6-1 で、QoS パラメータの演算子について説明します。

表 6-1 QoS パラメータの演算子

演算子	説明
>=	指定した値よりも大きいか等しいジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。
=	指定した値と等しいジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。
<=	指定した値よりも小さいか等しいジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。
N.A.	ジッタ、遅延、または喪失パケットのデータを排除するには、この演算子を選択します。
Between	ある値ともう 1 つの値の間にあるジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。この演算子を選択すると、2 番目のフィールドが表示され、開始値と終了値を設定することができます。

次の各項では、QoS 詳細レポート、要約レポート、ゲートウェイ レポート、およびコール タイプ レポートを設定する方法について説明します。

- [QoS 詳細レポートの設定 \(P.6-3\)](#)
- [QoS 要約レポートの設定 \(P.6-5\)](#)
- [ゲートウェイ別 QoS レポートの設定 \(P.6-6\)](#)
- [コール タイプ別 QoS レポートの設定 \(P.6-9\)](#)

## QoS 詳細レポートの設定



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、システムの QoS に関する詳細情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ System Reports ] > [ QoS ] > [ Detail ] を選択します。

[ QoS Detail ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Select Call Types ] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。[表 6-2](#) で、コール タイプについて説明します。

**表 6-2 QoS 詳細レポートのコール タイプ**

コール タイプ	説明
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウで On Net に設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。 <a href="#">P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」</a> を参照してください。
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

- ステップ3** [ Select QoS ]領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。P.4-6 の「QoS 値の定義」で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。

表 6-3 QoS 詳細レポートの音声品質

音声品質	説明
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれます。
Poor	これらのコールの QoS は、十分な品質とは言えません。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。

- ステップ4** QoS 情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

- ステップ5** [ Select Users ] フィールドで、すべてのユーザを選択するか、特定のユーザを検索します。すべてのユーザを選択するには、[ Select All Users ] チェックボックスをオンにします。個々のユーザを選択するには、ユーザ ID を [ User Id ] フィールドに入力し、[ Add ] ボタンをクリックします。



- (注) また、提供されている検索機能を使用することもできます。P.5-18 の「ユーザの検索」を参照してください。

- ステップ6** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

- ステップ7** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

- ステップ8** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.6-26 の「関連トピック」を参照してください。

## QoS 要約レポートの設定



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、システムの QoS に関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次の手順のいずれかを実行します。

- マネージャである場合は、[ QoS ] > [ Summary ] を選択します。
- CAR 管理者である場合は、[ System Reports ] > [ QoS ] > [ Summary ] を選択します。

[ QoS Summary ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、**ステップ 6**に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、**ステップ 3**に進みます。



**(注)** CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リストボックスに表示されません。

**ステップ 3** [ Select Call Types ] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。**表 6-4** で、コール タイプについて説明します。

**表 6-4 QoS 要約レポートのコール タイプ**

コール タイプ	説明
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウで On Net に設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。 <b>P.3-3 の「ダイヤル プランの設定」</b> を参照してください。
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話

表 6-4 QoS 要約レポートのコールタイプ (続き)

コールタイプ	説明
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 4** **ステップ 2** で [ Generate New Report ] を選択した場合は、レポートを生成する期間の日付範囲を入力します。

**ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 6** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.6-26 の「関連トピック」を参照してください。

## ゲートウェイ別 QoS レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ別 QoS レポートを生成します。このレポートは、選択したゲートウェイにおいて、指定した期間に、選択した QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を示します。



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、選択したすべてのゲートウェイについて、QoS 情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

**開始する前に**

P.3-5 の「**ゲートウェイの設定**」の手順に従って、ゲートウェイを設定します。

**手順**

**ステップ 1** [ System Reports ] > [ QoS ] > [ By Gateways ] を選択します。

[ QoS based on Gateways ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Generate Reports ] フィールドで、表 6-5 の説明に従って期間を選択します。

**表 6-5 Generate Report フィールド**

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 6 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を選択したゲートウェイごとに表示します。時間ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Week	ステップ 6 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を選択したゲートウェイごとに表示します。曜日ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Month	ステップ 6 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を選択したゲートウェイごとに表示します。該当月の日ごとの割合 (%) を示しています。

**ステップ 3** [ Jitter ] フィールドで、使用する演算子を選択し、ジッタの値を入力します。演算子の説明については、P.6-25 の「**追加情報**」を参照してください。

**ステップ 4** [ Latency ] フィールドで、使用する演算子を選択し、遅延の値を入力します。演算子の説明については、P.6-25 の「**追加情報**」を参照してください。

**ステップ 5** [ Lost Packets ] フィールドで、使用する演算子を選択し、喪失パケット数の値を入力します。演算子の説明については、P.6-25 の「**追加情報**」を参照してください。

**ステップ 6** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 7** レポートに含めるゲートウェイのタイプを選択するには、次のいずれかの作業を行います。

- システム内に設定されているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [ Gateway Types ] をクリックします。
- ツリー構造を展開し、選択可能なゲートウェイのタイプを表示するには、[ Gateway Types ] の隣にあるアイコンをクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターン / ハント パイロットを使用するゲートウェイを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] をクリックします。ツリー構造が展開され、設定済みのルート パターン / ハント パイロットに関連付けられているゲートウェイが表示されます。
- ツリー構造を展開し、選択可能なルート パターン / ハント パイロットを表示するには、[ Route Patterns/Hunt Pilots ] の隣にあるアイコンをクリックします。



(注) ウィンドウの左側のカラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] ボックスにルートパターン/ハントパイロットの名前の一部を入力して、特定のルートパターン/ハントパイロットを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン/ハントパイロットを検索します。

**ステップ 8** リストから、ゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が [ List of Gateways ] ボックスに表示されます。



(注) [ List of Gateways ] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

**ステップ 9** [ List of Gateways ] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 一度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。15 を超える数のゲートウェイを選択すると、「Select 15 or fewer gateways to generate new report.」(新規レポートの生成では、選択するゲートウェイの数を 15 以下にしてください。) というメッセージが表示されます。

**ステップ 10** 下矢印アイコンをクリックして、選択したゲートウェイを [ Selected Gateways ] リスト ボックスに移動します。

選択したゲートウェイが、[ Selected Gateways ] ボックスに表示されます。

**ステップ 11** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 12** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 13** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16](#) の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

[P.6-26](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## コール タイプ別 QoS レポートの設定

CAR 管理者だけがコール タイプ別 QoS レポートを生成します。このレポートは、選択したタイプのすべてのコールについて、指定した期間中のジッタ、遅延、および喪失パケットの情報を提供します。

この項では、特定のタイプのすべてのコールについて、QoS 情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** [ System Reports ] > [ QoS ] > [ By Call Types ] を選択します。

[ QoS based on Call Types ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Generate Report ] フィールドで、表 6-6 の説明に従って期間を選択します。

表 6-6 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 7 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) をコール タイプごとに表示します。時間ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Week	ステップ 7 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) をコール タイプごとに表示します。曜日ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Month	ステップ 7 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) をコール タイプごとに表示します。該当月の日ごとの割合 (%) を示しています。

**ステップ 3** [ Jitter ] フィールドで、使用する演算子を選択し、ジッタの値を入力します。演算子の説明については、P.6-25 の「追加情報」を参照してください。

**ステップ 4** [ Latency ] フィールドで、使用する演算子を選択し、遅延の値を入力します。演算子の説明については、P.6-25 の「追加情報」を参照してください。

**ステップ 5** [ Lost Packets ] フィールドで、使用する演算子を選択し、喪失パケット数の値を入力します。演算子の説明については、P.6-25 の「追加情報」を参照してください。

**ステップ 6** [ Select Call Types ] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 6-7 で、コール タイプについて説明します。

表 6-7 コールタイプ別 QoS パラメータ

コールタイプ	説明
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウで On Net に設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 7** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 8** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 9** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 10** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.6-26 の「関連トピック」を参照してください。

## トラフィック レポートの設定

CAR 管理者だけがトラフィック要約レポートを生成できます。レポートは、指定した期間のコール量に関する情報を提供します。選択したコールタイプと QoS 音声品質カテゴリだけが含まれます。



### ヒント

このレポートは、発生しているコールの数を時間または日単位で特定するために使用します。このレポートは、容量計画において高トラフィックパターンと低トラフィックパターンを識別するために役立ちます。

CAR 管理者だけが内線別トラフィック要約レポートを生成できます。レポートは、指定した期間および内線のセットのコール量に関する情報を提供します。選択したコールタイプと内線だけが含まれます。



### ヒント

このレポートを使用すると、部門やその他の基準、たとえばロビーの電話機や会議室の電話機などを基準として、特定のユーザグループによるコール使用状況を追跡できます。このレポートは、毎週1回生成するように設定できます。このレポートは、指定したユーザの使用率レベルを集計することで、使用率の高いユーザまたはグループを判別するために役立ちます。

次の各項では、トラフィック要約レポートと内線別トラフィック要約レポートを設定する方法について説明します。

- [トラフィック要約レポートの設定 \(P.6-11\)](#)
- [内線別のトラフィック要約レポートの設定 \(P.6-14\)](#)

## トラフィック要約レポートの設定

CAR 管理者だけがトラフィック要約レポートを生成します。レポートは、指定した期間のコール量に関する情報を提供します。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。詳細については、[P.3-8 の「CAR システム スケジュールの設定」](#)を参照してください。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、システムのトラフィックに関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ System Reports ] > [ Traffic ] > [ Summary ] を選択します。

[ Traffic Summary ] ウィンドウが表示されます。

## ■ トラフィック レポートの設定

**ステップ 2** [ Generate Report ] フィールドで、表 6-8 の説明に従って期間を選択します。

**表 6-8 Generate Report フィールド**

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 4 で指定する期間、ステップ 5 で指定するコール タイプ、ステップ 6 で指定する QoS 値に基づいて、特定の時間帯におけるシステムの平均コール数を表示します。
Day of Week	ステップ 4 で指定する期間、ステップ 5 で指定するコール タイプ、ステップ 6 で指定する QoS 値に基づいて、特定の曜日におけるシステムの平均コール数を表示します。
Day of Month	ステップ 4 で指定する期間、ステップ 5 で指定するコール タイプ、ステップ 6 で指定する QoS 値に基づいて、特定の日付におけるシステムの平均コール数を表示します。

**ステップ 3** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 8 に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、ステップ 4 に進みます。

**ステップ 4** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 5** [ Select Call Types ] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 6-9 で、コール タイプについて説明します。

**表 6-9 トラフィック要約のコール タイプ**

コール タイプ	説明
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウで On Net に設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール



**(注)** グラフや表が示しているコールは、1日あたりの平均コール数で構成されています。生成されるデータが比較的小さく、選択した日付範囲が広い場合は、レポートに非常に小さな値が示され、その値は0として扱われるため、グラフが表示されません。たとえば、曜日 (Day of Week) レポートはある月曜日から次の月曜日までの8日間を対象にして生成され、月曜日について示されるデータは両方の月曜日の平均コール数を表しています (各月曜日の全コール数の合計を2で割った値)。同様に時間帯 (Hour of Day) レポートで05-06に表示されるデータは、そのレポートの対象として選択した日付範囲の05時から06時までの間の1日あたりの平均コール数を示しています。

**ステップ6** [ Select QoS ]領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。P.4-6の「QoS 値の定義」で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。

表 6-10 QoS 詳細レポートの音声品質

音声品質	説明
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれます。
Poor	音声品質が低である場合は、これらのコールの QoS が十分とは言えないことを示します。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。

**ステップ7** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。

**ステップ8** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ9** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.6-26の「関連トピック」を参照してください。

## 内線別のトラフィック要約レポートの設定

CAR 管理者だけが内線別のトラフィック要約レポートを生成します。レポートは、指定した期間および内線のセットのコール量に関する情報を提供します。

この項では、ユーザの内線に基づいてトラフィック要約レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** [ System Reports ] > [ Traffic ] > [ Summary By Extension ] を選択します。

[ Traffic Summary based on Extension(s) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Generate Report ] フィールドで、表 6-11 の説明に従って期間を選択します。

表 6-11 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	<p>選択した日付範囲の特定の時間帯における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>
Day of Week	<p>選択した日付範囲の特定の曜日における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>
Day of Month	<p>選択した日付範囲の特定の日付における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>

**ステップ 3** [ Select Call Types ] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 6-12 で、コールタイプについて説明します。

表 6-12 内線別のトラフィック要約のコールタイプ

コールタイプ	説明
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウで On Net に設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール



(注) グラフや表が示しているコールは、1日あたりの平均コール数で構成されています。生成されるデータが比較的小さく、選択した日付範囲が広い場合は、レポートに非常に小さな値が示され、その値は0として扱われるため、グラフが表示されません。たとえば、曜日 (Day of Week) レポートはある月曜日から次の月曜日までの8日間を対象にして生成され、月曜日について示されるデータは両方の月曜日の平均コール数を表しています (各月曜日の全コール数の合計を2で割った値)。同様に時間帯 (Hour of Day) レポートで 05-06 に表示されるデータは、そのレポートの対象として選択した日付範囲の 05 時から 06 時までの間の1日あたりの平均コール数を示しています。

**ステップ 4** [ Select Extension(s) ] グループ ボックスで、すべての内線を選択するか、ユーザを条件として内線番号を検索します。



(注) 「!」や「X」などのワイルドカードパターンを入力して内線を検索できます。「!」は、各桁が0～9で構成されるn桁の数字を表し、「X」は0～9の範囲の1桁の数字を表します。

すべての内線を選択するには、[ Select All Extensions ] チェックボックスをオンにします。ユーザを条件として内線を選択するには、ユーザの内線番号を [ Extension ] フィールドに入力し、[ Add Extension ] ボタンをクリックします。また、P.5-18 の「ユーザの検索」の説明に従って、提供されている検索機能を使用することもできます。

## ■ トラフィック レポートの設定

**ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。

**ステップ 6** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

---

**追加情報**

P.6-26 の「関連トピック」を参照してください。

## FAC/CMC レポートの設定

CAR 管理者だけが Forced Authorization Code (FAC) レポート / クライアント証明書コード (CMC) レポートを生成できます。

次の各項では、FAC レポートと CMC レポートを設定する方法について説明します。

- [クライアント証明書コード レポートの設定 \(P.6-17\)](#)
- [許可コード名レポートの設定 \(P.6-18\)](#)
- [認証レベル レポートの設定 \(P.6-19\)](#)

### クライアント証明書コード レポートの設定

CAR 管理者だけがクライアント証明書コード レポートを生成できます。選択した各 CMC に関連するコールについて、発信元 (発信番号) と送信先 (着信番号)、発信日時 (コールが発信された日付と時刻) 接続時間 (コールの接続秒数) およびコールの分類を示すレポートを生成できます。

次の手順では、特定のクライアント証明書コードの使用状況を示すレポートを生成する方法について説明します。



**注意**

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

#### 手順

**ステップ 1** [ System Reports ] > [ FAC CMC ] > [ Client Matter Code ] を選択します。

[ Call Details for Client Matter Code ] ウィンドウに、システム内に設定されているすべてのクライアント証明書コードのリストが表示されます。

**ステップ 2** [ List of Client Matter Codes ] ボックスで、レポートに含めるコードを選択します。



(注) クライアント証明書コードは、100 個まで選択できます。

**ステップ 3** 選択したコードを [ Selected Client Matter Codes ] ボックスに追加するには、下矢印をクリックします。

レポートには、このボックスにリストされているすべてのコード (データを取得できるもの) が含まれます。

**ステップ 4** [ From Date ] と [ To Date ] のプルダウン リスト ボックスで、クライアント証明書コード情報を表示する日付範囲を入力します。

**ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ6** [ View Report ] をクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ7** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.6-26 の「関連トピック」を参照してください。

## 許可コード名レポートの設定

CAR 管理者だけが許可コード名レポートを生成できます。選択した各許可コード名に関連するコールについて、発信元（発信番号）、送信先（着信番号）、発信日時（コールが発信された日付と時刻）、接続時間（コールの接続秒数）、およびコールの分類を示すレポートを生成できます。



**(注)** セキュリティを確保するため、許可コードは表示されず、代わりに許可コード名（説明）が表示されます。

次の手順では、特定の許可コード名の使用状況を示すレポートを生成する方法について説明します。



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

#### 手順

**ステップ1** [ System Reports ] > [ FAC/CMC ] > [ Authorization Code Name ] を選択します。

[ Call Details for Authorization Code Name ] ウィンドウに、システム内に設定されているすべての許可コード名のリストが表示されます。

**ステップ2** [ List of Authorization Code Names ] ボックスで、レポートに含めるコード名を選択します。



**(注)** コード名は、30 個まで選択できます。

**ステップ3** 選択したコード名を [ Selected Authorization Code Names ] ボックスに追加するには、下矢印をクリックします。

レポートには、このボックスにリストされているすべてのコード名（データを取得できるもの）が含まれます。

**ステップ4** [ From Date ] と [ To Date ] のドロップダウン リスト ボックスで、許可コード名情報を表示する日付範囲を入力します。

**ステップ5** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ6** [ View Report ] をクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ7** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.6-26 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 認証レベル レポートの設定

CAR 管理者だけが認証レベル レポートを生成できます。選択した各認証レベルに関連するコールについて、発信元 ( 発信番号 )、送信先 ( 着信番号 )、発信日時 ( コールが発信された日付と時刻 )、接続時間 ( コールの接続秒数 )、およびコールの分類を示すレポートを生成できます。

次の手順では、特定の認証レベルの使用状況を示すレポートを生成する方法について説明します。



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

#### 手順

**ステップ1** [ System Reports ] > [ FAC/CMC ] > [ Authorization Level ] を選択します。

[ Call Details by Authorization Level ] ウィンドウに、システム内に設定されているすべての認証レベルのリストが表示されます。

**ステップ2** [ List of Authorization Levels ] ボックスで、レポートに含めるレベルを選択します。

**ステップ3** 選択したレベルを [ Selected Authorization Levels ] ボックスに追加するには、下矢印をクリックします。

レポートには、このボックスにリストされているすべてのレベル ( データを取得できるもの ) が含まれます。



(注) 生成されるのは、ルート パターンに関連付けられている FAC 認証レベル レポートのみです。

---

**ステップ4** [ From Date ] と [ To Date ] のドロップダウン リスト ボックスで、認証レベル情報を表示する日付範囲を入力します。

**ステップ5** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ6** [ View Report ] をクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ7** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

---

#### 追加情報

P.6-26 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 迷惑呼詳細レポートの設定

CAR 管理者だけが迷惑呼詳細レポートを生成します。このレポートは、特定の日付範囲で迷惑呼に関する次の詳細情報を表示します。表示される情報は、発信時刻、終了時刻、接続時間（秒）、発信元（発信番号）、送信先（着信番号）、発信元デバイス、送信先デバイス、およびコールの分類です。

この項では、迷惑呼詳細レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** [ System Reports ] > [ Malicious Call Details ] を選択します。

[ Malicious Call Details ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ From Date ] ドロップダウン リスト ボックスで、迷惑呼詳細を表示する範囲の開始年月日を選択します。

**ステップ 3** [ To Date ] ドロップダウン リスト ボックスで、迷惑呼詳細を表示する範囲の終了年月日を選択します。

**ステップ 4** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 5** レポートを表示するには、[ View Report ] をクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 6** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、P.5-16 の「[レポートのメール送信](#)」を参照してください。

### 追加情報

P.6-26 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

### その他のマニュアル

- *Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*

## 優先コール要約の設定

CAR 管理者だけが優先順位別コール要約レポートを生成します。このレポートには、選択する優先順位値に基づいて、時間、曜日、日付ごとのコール要約が表示されます。

この項では、優先順位別コール要約レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** [ System Reports ] > [ Precedence Call Summary ] を選択します。

[ Call Summary by Precedence ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Generate Reports ] フィールドで、表 6-13 の説明に従って期間を選択します。

表 6-13 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	<p>選択した日付範囲の特定の時間帯における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>
Day of Week	<p>選択した日付範囲の特定の曜日における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>
Day of Month	<p>選択した日付範囲の特定の日付における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>

**ステップ 3** [ Select Precedence Levels ] フィールドで、レポートに含める優先レベルのチェックボックスをオンにします。または、[ Select All ] をクリックして、すべての優先レベルのチェックボックスをオンにします。



(注) 優先レベルのチェックボックスをオフにするには、[ Clear All ] をクリックします。

- ステップ 4** [ From Date ] ドロップダウン リスト ボックスで、優先コール要約情報を表示する範囲の開始年月日を選択します。
- ステップ 5** [ To Date ] ドロップダウン リスト ボックスで、優先コール要約情報を表示する範囲の終了年月日を選択します。
- ステップ 6** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。
- ステップ 7** レポートを表示するには、[ View Report ] をクリックします。
- レポートが表示されます。
- ステップ 8** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.5-16 の「レポートのメール送信」](#)を参照してください。
- 

#### 追加情報

[P.6-26 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## システム概要の設定

CAR 管理者だけがシステム概要レポートを生成します。このレポートは、一連のシステム レポート全体を1つのレポートで提供します。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8の「CAR システム スケジューラの設定」を参照してください。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、Cisco Unified CallManager システムに関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ System Reports ]> [ System Overview ] を選択します。

[ System Overview ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、**ステップ 6**に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、**ステップ 3**に進みます。

**ステップ 3** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 4** [ List of Reports ] で、生成するレポートを強調表示し、右矢印をクリックして選択します。

選択したレポートが、[ Selected Reports ] リスト ボックスに表示されます。



### ヒント

キーボードの Ctrl キーを押しながらレポートをクリックしていくと、複数のレポートを一度に強調表示できます。

**ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 6** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.6-26 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## CDR エラーの設定

CAR 管理者だけが CDR エラー レポートを生成します。このレポートは、CAR の Billing\_Error テーブルに含まれているエラー レコードの数に関する統計情報、およびエラーの理由を提供します。

この項では、CDR エラーに関する情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** [ System Reports ] > [ CDR Error ] を選択します。

[ CDR Error ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 3** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。

**ステップ 4** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 5** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.6-26 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- CDR エラー レポートの結果 (P.10-17)
- システム概要レポートの結果 (P.10-16)
- レポート自動生成の有効化とカスタマイズ (P.4-8)
- 優先コール要約レポートの結果 (P.10-15)
- CDR Analysis and Reporting の概要 (P.1-1)
- トラフィック要約レポートの結果 (P.10-13)
- トラフィック要約レポートの設定 (P.6-11)
- 内線別のトラフィック要約レポートの設定 (P.6-14)
- コールタイプ別 QoS レポートの結果 (P.10-12)
- 追加情報 (P.6-25)
- ゲートウェイ別 QoS レポートの設定 (P.6-6)
- ゲートウェイ別 QoS レポートの結果 (P.10-11)
- 追加情報 (P.6-25)
- コールタイプ別 QoS レポートの設定 (P.6-9)
- QoS 詳細レポートの設定 (P.6-3)
- QoS 要約レポートの結果 (P.10-11)
- QoS 値の定義 (P.4-6)
- QoS 詳細レポートの結果 (P.10-10)
- QoS 要約レポートの設定 (P.6-5)



## CAR デバイス レポートの設定

---

CAR には、管理者、マネージャ、および個々のユーザの 3 つのレベルのユーザに対応したレポート機能があります。管理者だけがデバイス レポートを生成します。

デバイス レポートは、会議ブリッジ、ボイスメール サーバ、ゲートウェイなどの Cisco Unified CallManager 関連デバイスについて、負荷およびパフォーマンスを追跡します。

この章は次の内容で構成されています。

- [ゲートウェイ レポートの設定 \(P.7-2\)](#)
- [ルート プラン使用状況レポートの設定 \(P.7-9\)](#)
- [会議ブリッジのレポートの設定 \(P.7-15\)](#)
- [ボイス メッセージングの使用状況レポートの設定 \(P.7-18\)](#)
- [関連トピック \(P.7-20\)](#)

## ゲートウェイ レポートの設定

ゲートウェイの場合は、次のデバイス レポートを設定します。

- [ゲートウェイ詳細レポートの設定 \(P.7-2\)](#)
- [ゲートウェイ要約レポートの設定 \(P.7-4\)](#)
- [ゲートウェイ使用状況レポートの設定 \(P.7-6\)](#)

### ゲートウェイ詳細レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ詳細レポートを生成します。ゲートウェイ詳細レポートは、特定のゲートウェイの問題を追跡するために使用します。

この項では、選択したゲートウェイに関する詳細情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

#### 手順

**ステップ 1** [ Device Reports ] > [ Gateway ] > [ Detail ] を選択します。

[ Gateway Detail ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** レポートに含めることができるゲートウェイのリストを [ List of Gateways ] ボックスに表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- すべてのゲートウェイを [ List of Gateways ] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [ Gateway Types ] をクリックします。
- 特定のゲートウェイ タイプのゲートウェイを [ List of Gateways ] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [ Gateway Types ] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ゲートウェイ タイプのリストが表示されます。リストからゲートウェイ タイプを選択すると、[ List of Gateways ] ボックスにゲートウェイ名が表示されます。



**(注)** [ List of Gateways ] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

- 設定済みのルート パターン/ハントパイロットに関連付けられているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] をクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターンを使用するゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ルート パターン/ハント リストのリストが表示されます。リストからルート パターン / ハント パイロットを選択すると、ゲートウェイ名が [ List of Gateways ] ボックスに表示されます。



(注) ウィンドウの左側のカラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] ボックスにルートパターン / ハントリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン / ハントリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン / ハントリストを検索します。

**ステップ 3** [ List of Gateways ] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 1 度に最大 5 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。

**ステップ 4** 選択されたゲートウェイを [ Selected Gateways ] リスト ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したゲートウェイが [ Selected Gateways ] ボックスに表示されます。

**ステップ 5** [ Select Call Types ] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 7-1 で、コール タイプについて説明します。

表 7-1 コール タイプ別のゲートウェイの詳細

コール タイプ	説明
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウでそのように設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 6** [ Select QoS ] 領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。P.4-6 の「QoS 値の定義」で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。

表 7-2 ゲートウェイ詳細の音声品質

音声品質	説明
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれていることを示します。
Poor	これらのコールの QoS は、十分な品質とは言えません。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。

**ステップ 7** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。



**(注)** 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 8** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 9** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 10** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

## ゲートウェイ要約レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ要約レポートを生成します。このレポートは、ゲートウェイを経由したすべてのコールの要約を提供します。この情報は、ゲートウェイを通過するコールのトラフィックと QoS を監視するために使用できます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-1 の「CAR システムの設定」を参照してください。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ゲートウェイに関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ Device Reports ] > [ Gateway ] > [ Summary ] を選択します。

[ Gateway Summary ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、**ステップ 6**に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、**ステップ 3**に進みます。

**ステップ 3** [ Select Call Types ] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。**表 7-3** で、コール タイプについて説明します。



### ヒント

すべてのチェックボックスをオンにするには、[ Select All ] をクリックします。すべてのチェックボックスをオフにするには、[ Clear All ] をクリックします。

**表 7-3 コール タイプ別のゲートウェイ要約**

コール タイプ	説明
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウでそのように設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイまたはトランクを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 4** [ Generate New Report ] を選択した場合は、レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

## ■ ゲートウェイ レポートの設定

**ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

**ステップ 6** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

[P.7-20 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## ゲートウェイ使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるゲートウェイの概算使用率を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、システムが 11 時間 ~ 12 時間目のゲートウェイ使用状況を計算するときは、(その 1 時間にコールがゲートウェイを使用した接続時間の合計 (1 時間における最大接続秒数 \* ゲートウェイの最大ポート数 \* [ fromDate ] から [ toDate ] の間で選択した日数) \* 100) になります。1 日間の使用状況を取得する場合は、システムは時間単位の場合と同様の方法で使用状況を計算します。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。

週ごとの使用状況をレポートする場合は、システムは、使用状況を ((1 日にコールがゲートウェイを使用した接続時間の合計) / (毎日の最大接続秒数 \* [ fromDate ] から [ toDate ] で選択された期間の日数 \* ゲートウェイの最大ポート数) \* 100) として計算します。

月ごとの使用状況をレポートする場合は、システムは、使用状況を ((1 日にコールがゲートウェイを使用した接続時間の合計) / (毎日の最大接続秒数 \* [ fromDate ] から [ toDate ] で選択された期間の日数 \* ゲートウェイの最大ポート数) \* 100) として計算します。

レポートは選択したゲートウェイごとに生成されます。

H.323 ゲートウェイの使用状況の計算では、CAR の [ Gateway Configuration ] ウィンドウに指定されたポート番号が使用されます。このウィンドウは、[ System ] > [ System Parameters ] > [ Gateway Configuration ] で検索できます。H.323 のポート番号はデータベースで常に 0 になるため、H.323 ゲートウェイのポートの詳細情報を Cisco Unified CallManager データベースから取得することはできません。ユーザは H.323 ゲートウェイのポート情報を CAR の [ Gateway Configuration ] ウィンドウでアップデートする必要があります。

CAR の [ Gateway Configuration ] ウィンドウから取得される唯一のポート詳細情報は、使用可能なポートの詳細情報がないかと、Cisco Unified CallManager データベースで 0 と表示されるゲートウェイの情報だけであることに注意してください。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、[P.3-1 の「CAR システムの設定」](#)を参照してください。

**注意**

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ゲートウェイ使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

**手順**

**ステップ 1** [ Device Reports ] > [ Gateway ] > [ Utilization ] を選択します。

[ Gateway Utilization ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Generate Reports ] フィールドで、表 7-4 の説明に従って期間を選択します。

表 7-4 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の使用状況を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の使用状況を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日付単位の使用状況を表示します。

**ステップ 3** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 10 に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、ステップ 4 に進みます。

**ステップ 4** レポートに含めることができるゲートウェイのリストを [ List of Gateways ] ボックスに表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- すべてのゲートウェイを [ List of Gateways ] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [ Gateway Types ] をクリックします。
- 特定のゲートウェイタイプのゲートウェイを [ List of Gateways ] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [ Gateway Types ] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ゲートウェイタイプのリストが表示されます。リストからゲートウェイタイプを選択すると、[ List of Gateways ] ボックスにゲートウェイ名が表示されます。



**(注)** [ List of Gateways ] ボックスには、選択したゲートウェイタイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

- 設定済みのルートパターン/ハントパイロットに関連付けられているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] をクリックします。

## ■ ゲートウェイ レポートの設定

- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターンを使用するゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ルート パターン / ハント リストのリストが表示されます。リストからルート パターン / ハント パイロットを選択すると、ゲートウェイ名が [ List of Gateways ] ボックスに表示されます。



(注) ウィンドウの左側のコラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] ボックスにルートパターン / ハントリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン / ハントリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン / ハントリストを検索します。

**ステップ 5** リストからゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が [ List of Gateways ] ボックスに表示されます。

**ステップ 6** [ List of Gateways ] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 1 度に最大 5 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。

**ステップ 7** 下矢印をクリックして、選択したゲートウェイを [ Selected Gateways ] リスト ボックスに移動します。

選択したゲートウェイが [ Selected Gateways ] ボックスに表示されます。

**ステップ 8** [ Generate New Report ] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 9** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。

**ステップ 10** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 11** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

## ルートプラン使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルートプラン使用状況レポートを生成します。次の各項では、ルートおよび回線グループ、ルート/ハントリスト、およびルートパターン/ハントパイロットの各使用状況レポートの設定方法について説明します。

ルートプランの場合は、次のデバイスレポートを設定します。

- [ルートおよび回線グループの使用状況レポートの設定 \(P.7-9\)](#)
- [ルート/ハントリストの使用状況レポートの設定 \(P.7-11\)](#)
- [ルートパターン/ハントパイロットの使用状況レポートの設定 \(P.7-12\)](#)

## ルートおよび回線グループの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルートおよび回線グループの使用状況レポートを生成します。このレポートは、ルートおよび回線グループの最大使用率(ルートおよび回線グループに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況)の概算を提示します。使用状況はゲートウェイの使用状況と同じ方法で計算されますが、この計算では、ルートグループに含まれているすべてのゲートウェイと、回線グループに含まれているすべての回線の累積使用状況が示されます。1日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルートおよび回線グループごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、[P.3-1](#)の「[CAR システムの設定](#)」を参照してください。

この項では、ルートおよび回線グループの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ Device Reports ] > [ Route Plan ] > [ Route and Line Group Utilization ] を選択します。

[ Route and Line Group Utilization ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Generate Reports ] フィールドで、[表 7-5](#)の説明に従って期間を選択します。

**表 7-5 Generate Report フィールド**

パラメータ	説明
Hour of Day	<a href="#">ステップ 8</a> で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の使用状況を表示します。
Day of Week	<a href="#">ステップ 8</a> で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の使用状況を表示します。
Day of Month	<a href="#">ステップ 8</a> で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日付単位の使用状況を表示します。

**ステップ 3** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し(使用可能な場合)、[ステップ 10](#)に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、[ステップ 4](#)に進みます。

## ■ ルートプラン使用状況レポートの設定

**ステップ 4** 特定のルート パターンを使用しているルートおよび回線グループのみを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] をクリックします。

ツリー構造が展開され、選択したルート パターン / ハント リストが表示されます。



**(注)** ウィンドウの左側のコラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] ボックスにルートパターン / ハントリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン / ハントリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン / ハントリストを検索します。

**ステップ 5** リストから、ルートパターン / ハントリストを選択します。

このルートパターン / ハントリストのルートおよび回線グループが、[ List of Route/Line Groups ] ボックスに表示されます。



**(注)** [ List of Route/Line Groups ] ボックスには、ルートグループが 200 個まで表示されます。

**ステップ 6** [ List of Route/Line Groups ] ボックスで、レポートに含めるルート / 回線グループを選択します。



**(注)** 1 度に最大 5 のルート / 回線グループに関するレポートを生成できます。

**ステップ 7** 選択されたゲートウェイを [ Selected Route/Line Groups ] リスト ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したルート / 回線グループが [ Selected Route/Line Groups ] ボックスに表示されます。

**ステップ 8** [ Generate New Report ] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



**(注)** 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 9** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。

**ステップ 10** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 11** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

## ルート/ハント リストの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルート/ハント リストの使用状況レポートを生成します。ルート/ハント リストの使用状況レポートは、所定の期間におけるルート/ハント リストの最大使用率（ルート/ハント リストに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況）の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。計算されるのは、ルート リストに含まれているすべてのゲートウェイ、およびハント リストに含まれているすべての回線の累積使用状況です。

1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルート/ハント リストごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「CAR システム スケジューラの設定」を参照してください。

この項では、ルート/ハント リストの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ Device Reports ] > [ Route Plan ] > [ Route/Hunt List Utilization ] を選択します。

[ Route/Hunt List Utilization ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Generate Report ] フィールドで、表 7-6 の説明に従って期間を選択します。

表 7-6 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間の各時間の使用状況を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の使用状況を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日付単位の使用状況を表示します。

**ステップ 3** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 10 に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、ステップ 4 に進みます。

**ステップ 4** レポートに含めるルート/ハント リストを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] をクリックします。ツリー構造が展開され、選択したルートパターン/ハントパイロットが表示されます。



**(注)** ウィンドウの左側のコラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] ボックスにルートパターン/ハントリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン/ハントリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン/ハントリストを検索します。

**ステップ 5** リストから、ルート/ハントリストを選択します。

ルート/ハントリストの名前が、[ List of Route/Hunt Lists ] ボックスに表示されます。

## ■ ルートプラン使用状況レポートの設定



(注) [ List of Route/Hunt Lists ] ボックスには、ルート / ハント リストが 200 個まで表示されます。

**ステップ 6** [ List of Route/Hunt Lists ] ボックスで、レポートに含めるルート / ハント リストを選択します。



(注) 1 度に最大 5 のルート / ハント リストに関するレポートを生成できます。

**ステップ 7** 選択されたルート / ハント リストを [ Selected Route/Hunt Lists ] ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したルート / ハント リストが [ Selected Route/Hunt Lists ] ボックスに表示されます。

**ステップ 8** [ Generate New Report ] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 9** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。

**ステップ 10** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 11** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16](#) の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

[P.7-20](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## ルート パターン / ハント パイロットの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルート パターン / ハント パイロットの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるルート パターン / ハント パイロットの最大使用率 ( ルート パターン / ハント パイロットに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況 ) の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。計算されるのは、ルート パターンに含まれているすべてのゲートウェイ、およびハント パイロットに含まれているすべての回線の使用状況です。1 日中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルート パターン / ハント パイロットごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、[P.3-8](#) の「[CAR システム スケジュールの設定](#)」を参照してください。

この項では、ルートパターン/ハントパイロットの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ Device Reports ] > [ Route Plan ] > [ Route Pattern/Hunt Pilot Utilization ] を選択します。

[ Route Pattern/Hunt Pilot Utilization ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Generate Report ] フィールドで、表 7-7 の説明に従って期間を選択します。

表 7-7 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の使用状況を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の使用状況を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日付単位の使用状況を表示します。

**ステップ 3** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 10 に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、ステップ 4 に進みます。

**ステップ 4** レポートに含めるルートパターン/ハントリストを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] をクリックします。

ツリー構造が展開され、選択したルートパターン/ハントリストが表示されます。



**(注)** ウィンドウの左側のコラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] ボックスにルートパターン/ハントリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン/ハントリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン/ハントリストを検索します。

**ステップ 5** リストから、ルートパターン/ハントパイロットを選択します。

ルートパターン/ハントパイロットの名前が、[ List of Route Patterns/Hunt Pilots ] ボックスに表示されます。



**(注)** [ List of Route Patterns/Hunt Pilots ] ボックスには、ルートパターン/ハントリストが 200 個まで表示されます。

**ステップ 6** [ List of Route Patterns/Hunt Pilots ] ボックスで、レポートに含めるルートパターン/ハントリストを選択します。



(注) 1度に最大5のルートパターン/ハントパイロットに関するレポートを生成できます。

**ステップ7** 下矢印をクリックして、選択したルートパターン/ハントパイロットを[ Selected Route Patterns/Hunt Pilots ] リストボックスに移動します。

選択したルートパターン/ハントパイロットが [ Selected Route Patterns/Hunt Pilots ] ボックスに表示されます。

**ステップ8** [ Generate New Report ] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は1か月以内にする必要があります。

**ステップ9** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。

**ステップ10** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ11** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

---

#### 追加情報

P.7-20の「関連トピック」を参照してください。

## 会議ブリッジのレポートの設定

CAR 管理者だけが会議ブリッジのレポートを生成します。次の各項では、会議コールの詳細レポートと会議ブリッジの使用状況レポートを設定する方法について説明します。

- [会議コールの詳細の設定 \(P.7-15\)](#)
- [会議ブリッジの使用状況レポートの設定 \(P.7-16\)](#)

### 会議コールの詳細の設定

CAR 管理者だけが会議コールの詳細レポートを生成します。会議コールの詳細レポートを使用すると、会議コールの詳細情報を表示できます。

この項では、会議コールの詳細レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

#### 手順

**ステップ 1** [ Device Reports ] > [ Conference Bridge ] > [ Call Details ] を選択します。

[ Conference Call Details ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Report Type ] プルダウン メニューで、[ Summary ] または [ Detail ] のどちらかを選択します。

**ステップ 3** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し (使用可能な場合) [ステップ 7](#) に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、[ステップ 4](#) に進みます。

**ステップ 4** [ Select Conference Types ] で、[表 7-8](#) の説明に従って、レポートに含める会議タイプのチェックボックスをオンにします。

**表 7-8** Conference Calls Detail のフィールド

パラメータ	説明
Ad-Hoc	Ad-Hoc 会議では、会議の司会者が、特定の参加者のみを会議に参加させることができます。
Meet-Me	Meet-Me 会議では、ユーザが会議にダイヤルインすることができます。

**ステップ 5** [ Generate New Report ] を選択した場合は、会議コールの詳細を表示する期間の日付範囲を入力します。



**(注)** 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 6** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。CSV 形式のレポートはレコードの上限が 20,000 件であることに注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。PDF 形式のレポートはレコードの上限が 5000 件であることに注意してください。

## ■ 会議ブリッジのレポートの設定

**ステップ7** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ8** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.7-20の「関連トピック」を参照してください。

## 会議ブリッジの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけが会議ブリッジの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間における会議ブリッジの使用率（onDemand レポートに選択されたすべての会議ブリッジの累積使用状況）の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、システムが11時間～12時間目の会議ブリッジの使用状況を計算するときは、 $(\text{その1時間に会議ブリッジを使用したコールの接続時間の合計}) / ([\text{fromDate}] \text{ から } [\text{toDate}] \text{ の間で選択した日数} * \text{会議ブリッジの最大ストリーム数} * 1 \text{ 時間の最大接続秒数}) * 100$  になります。計算された値は、レポートに11時間～12時間目の使用状況として表示されます。1日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8の「CAR システム スケジュールの設定」を参照してください。

この項では、会議ブリッジ タイプごとの会議ブリッジの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ1** [ Device Reports ] > [ Conference Bridge ] > [ Utilization ] を選択します。

[ Conference Bridge Utilization ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [ Generate Report ] フィールドで、表 7-9 の説明に従って期間を選択します。

表 7-9 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 6 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の使用状況を表示します。
Day of Week	ステップ 6 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の使用状況を表示します。
Day of Month	ステップ 6 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日付単位の使用状況を表示します。

**ステップ3** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 8 に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、ステップ 4 に進みます。

**ステップ 4** 左側のペインの [ Conference Bridge Types ] カラムから、使用状況レポートに含める会議ブリッジのタイプを選択します。

選択した特定のタイプの会議ブリッジが、[ List of Devices ] ボックスに表示されます。



(注) 各レポートについて、最大5つの会議ブリッジを選択します。

**ステップ 5** レポートに含める会議ブリッジをすべて選択したら、下矢印をクリックして、それらを [ Selected Devices ] ボックスに追加します。

**ステップ 6** [ Generate New Report ] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は1か月以内にする必要があります。

**ステップ 7** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。

**ステップ 8** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 9** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

## ボイス メッセージングの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがボイス メッセージングの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるボイス メッセージング デバイスの最大使用率の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、システムが 11 ~ 12 時間目のボイス メッセージング DN の使用状況を計算するときは、ボイス メッセージング ポートを使用したコールの接続時間 / ボイス メッセージング DN を使用します。システムは、ボイス メッセージング ポートの使用状況を、(その 1 時間にボイス メッセージング ポートを使用したコールの接続時間の合計 \* 100) / (1 時間内の最大接続秒数 \* 選択した [ fromDate ] から [ toDate ] までの日数) のように計算します。ボイス メッセージング DN の使用状況の計算は(その 1 時間にボイス メッセージング DN を使用したコールの接続時間の合計 \* 100) / (1 時間内の最大接続秒数 \* 選択した [ fromDate ] から [ toDate ] までの日数 \* ボイス メッセージング DN に接続するゲートウェイ内のポートの最大数) で表されます。これと同じ値が 11 時間 ~ 12 時間目の使用状況としてレポートに表示されます。

ボイス メッセージング ポートのボイス メッセージング使用状況レポートは、システムが自動的に生成するレポートとしてではなく、新しく生成されたレポートとして確認できるだけです。

ボイス メッセージング DN のボイス メッセージング使用状況レポートは、自動生成されるレポートとして、または新規レポートして生成できます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「CAR システム スケジューラの設定」を参照してください。



(注)

CAR のボイス メッセージングの使用状況レポートでサポートしているのは、Cisco Unity および Cisco Unity Connection のボイス メッセージング システムのみです。

この項では、ボイス メッセージングの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ Device Reports ] > [ Voice Messaging ] > [ Utilization ] を選択します。

[ Voice Messaging Utilization ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Generate Report ] フィールドで、表 7-10 の説明に従って期間を選択します。

表 7-10 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 10 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の使用状況を表示します。
Day of Week	ステップ 10 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の使用状況を表示します。
Day of Month	ステップ 10 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日付単位の使用状況を表示します。

**ステップ 3** [ Available Reports ] フィールドで、自動生成レポートを選択し (使用可能な場合) ステップ 12 に進みます。または、デフォルトの [ Generate New Report ] を使用して、ステップ 4 に進みます。

**ステップ 4** ボイス メッセージング DN を選択するには、左側のペインの [ Voice Messaging DN ] をクリックします。

前回設定したボイス メッセージング DN が表示されます。



**(注)** このウィンドウに表示されるボイス メッセージング DN は、VoiceMailDn サービス パラメータで設定したボイス メッセージング DN を表し、これは Cisco Messaging Interface サービスをサポートします。このパラメータ名 VoiceMailDn をマシンで作成済みのルーティングパターンに設定します。これは、Cisco Unified CallManager の管理ページを開いて [ システム ] をクリックし、[ サービスパラメータ ] をクリックしてから、[ Cisco Messaging Interface ] サービスを選択して設定します。

**ステップ 5** ボイス メッセージング DN を選択します。

選択した DN が [ List of DN/Ports ] リスト ボックスに表示されます。

**ステップ 6** ボイス メッセージング ポートを選択するには、左側のペインの [ Voice Messaging Ports ] をクリックします。

設定済みのボイス メッセージング ポートのリストが表示されます。

**ステップ 7** ポートのリストから、ボイス メッセージング ポートを選択します。

選択したポートが [ List of DN/Ports ] リスト ボックスに表示されます。

**ステップ 8** [ Select Voice Messaging DN/Ports ] で、下矢印をクリックします。

選択したポートが [ Selected DN/Ports ] リスト ボックスに表示されます。

**ステップ 9** レポートに含めるポートを選択し終わるまで、[ステップ 7](#) と [ステップ 8](#) を繰り返します。



**(注)** このレポートでは、最大 5 つのボイス メッセージング ポート / ボイス メッセージング DN を選択できます。デフォルトのボイス メッセージング DN を選択してからボイス メッセージング ポートを 4 つ選択するか、ボイス メッセージング ポートを 5 つ選択することもできます。

**ステップ 10** [ Generate New Report ] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



**(注)** 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 11** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ CSV ] を選択します。Portable Document Format ( PDF ) 形式でレポートする場合は、[ Report Format ] 領域で [ PDF ] を選択します。

## ■ 関連トピック

**ステップ 12** [ View Report ] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 13** レポートをメールで送信する場合は、[ Send Report ] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

---

**追加情報**

P.7-20 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [ボイス メッセージング使用状況レポートの結果 \(P.10-21\)](#)
- [会議ブリッジ使用状況レポートの結果 \(P.10-21\)](#)
- [会議コール詳細レポートの結果 \(P.10-20\)](#)
- [ゲートウェイおよびルート使用状況レポートの結果 \(P.10-19\)](#)
- [ゲートウェイ詳細レポートの結果 \(P.10-18\)](#)



# CDR 検索の設定

CAR には、管理者、マネージャ、および個々のユーザの 3 つのレベルのユーザに対応したレポート機能があります。CAR 管理者だけが CDR 検索を使用できます。

この章は次の内容で構成されています。

- [ユーザの内線による CDR の検索の設定 \(P.8-2\)](#)
- [ゲートウェイによる CDR の検索の設定 \(P.8-4\)](#)
- [コール終了原因による CDR の検索の設定 \(P.8-6\)](#)
- [コール終了の詳細の表示 \(P.8-7\)](#)
- [コールの優先レベルによる CDR の検索の設定 \(P.8-8\)](#)
- [迷惑呼による CDR の検索の設定 \(P.8-10\)](#)
- [関連トピック \(P.8-11\)](#)

## 開始する前に

Cisco CallManager のサービスパラメータ CDR Enabled Flag と Call Diagnostics Enabled を true(有効) に設定して、システムが CDR データと CMR データを生成できるようにしてください。システムのデフォルトでは、これらのサービスパラメータは無効になっています。これらのサービスパラメータの詳細については、[P.2-3 の「CDR のサービスパラメータの設定」](#)を参照してください。

すべての CAR レポートが CDR データを使用します。レポートの生成材料となる CDR データが、最新のものであることを確認してください。デフォルトでは、1 日 24 時間、週 7 日持続的に CDR データをロードします。ただし、ロードする時刻、間隔、期間を必要に応じて設定できます。詳細については、[P.3-8 の「CAR システム スケジューラの設定」](#)を参照してください。

CAR のメイン ウィンドウにログインした後で、Cisco Unified CallManager も起動していると、次のようなメッセージが表示されることがあります。「Warning: In some servers in this cluster the CDR Enabled Flag is false and so CDR entries may not be generated for all the calls made in this cluster (警告: このクラスタ内の一部のサーバで CDR Enabled Flag が false のため、このクラスタで作成されたすべてのコールに CDR エントリが生成されていない可能性があります)」一部のクラスタには複数のノードが存在し、そのノードの中には Cisco Unified CallManager サービスを実行していないものがあります。この警告は、Cisco Unified CallManager サービスのアクティブ化のステータスにかかわらず、クラスタ内のすべてのノードをチェックします。Cisco Unified CallManager サービスのすべての登録者について CDR Enabled Flag パラメータの設定を手動でチェックしたら、この警告を無視してください。

## ユーザの内線による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがユーザの内線による CDR の検索機能を使用します。

この項では、ユーザまたは内線を条件として CDR データの詳細を表示する方法について説明します。ユーザまたは電話番号（発信側、元の着呼側、最終着呼側）を条件として CDR データを検索すると、検索条件に一致した最後の 100 個のレコードについてコールの詳細を分析できます。100 を超えるレコードが戻された場合は、システムが結果を切り捨てます。指定した期間と回数を条件としてコールを検索でき、これにより、特定の回数にわたって診断または情報参照の目的で送受信されたコールを追跡するのに役立ちます。転送、モビリティ、サイレントモニタリングと録音、および会議など、関連するすべてのコールのレコードが、1 つの論理グループとしてまとめて表示されます。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** [ CDR ] > [ Search ] > [ By User/Extension ] を選択します。

[ CDR Search by User Extension ] ウィンドウが表示されます。



**(注)** 「!」や「X」などのワイルドカードパターンを入力して内線を検索できます。「!」は、各桁が 0 ~ 9 で構成される n 桁の数字を表し、「X」は 0 ~ 9 の範囲の 1 桁の数字を表します。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- 内線を条件として CDR を検索するには、内線番号を [ Extension ] フィールドに入力し、[ Add Extension ] ボタンをクリックします。
- ユーザを条件として CDR を検索するには、[ Search Extension(s) based on User(s) ] リンクをクリックし、姓または名の最初の何文字かを [ First Name ] フィールドや [ Last Name ] のフィールドの一方または両方に入力して、[ Search ] ボタンをクリックします。結果が表示されたら、レポートに含める結果の隣にある [ Select ] リンクをクリックします。[ Close ] ボタンをクリックします。

内線が [ Selected Extension(s) ] ボックスに表示されます。



**(注)** 項目をレポート条件ボックスから削除するには、[ Remove Extension(s) ] ボタンをクリックします。[ Remove All Extensions ] ボタンをクリックすると、レポート条件ボックスからすべての項目を削除できます。

**ステップ 3** 指定したユーザまたは内線の CDR データを表示する期間の日付と時刻の範囲を選択します。時刻の範囲を設定するときは、Coordinated Universal Time (UTC; 世界標準時) を使用します。

**ステップ 4** [OK] ボタンをクリックします。

[ CDR-CMR Search Results ] ウィンドウが表示されます。ステップ 3 で設定した日付と時刻の範囲に一致した最古のレコード 100 件のみ表示されます。

**ステップ 5** CMR データを表示するには、[ Others ] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、[ View ] ボタンをクリックします。

**ステップ 6** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」の手順に従います。

---

### 追加情報

P.8-11 の「関連トピック」を参照してください。

## ゲートウェイによる CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがゲートウェイによる CDR の検索機能を使用します。

この項では、特定のゲートウェイ タイプを条件として、または選択したルート パターンを使用するゲートウェイを条件として CDR データを検索する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** [ CDR ] > [ Search ] > [ By Gateway ] を選択します。

[ CDR Search by Gateway ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- システム内に設定されているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [ Gateway Types ] をクリックします。
- ツリー構造を展開し、選択可能なゲートウェイのタイプを表示するには、[ Gateway Types ] の隣にあるアイコンをクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターン / ハント パイロットを使用するゲートウェイを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] をクリックします。設定済みのルート パターン / ハント パイロットに関連付けられているゲートウェイが表示されます。
- ツリー構造を展開し、選択可能なルート パターン / ハント パイロットを表示するには、[ Route Patterns/Hunt Pilots ] の隣にあるアイコンをクリックします。



**(注)** ウィンドウの左側のコラムで [ Route Patterns/Hunt Pilots ] ボックスにルート パターン / ハント パイロットの名前の一部を入力して、特定のルート パターン / ハント リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン / ハント リストを検索します。

**ステップ 3** リストからゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が [ List of Gateways ] ボックスに表示されます。



**(注)** [ List of Gateways ] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

**ステップ 4** [ List of Gateways ] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



**(注)** 1 度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。15 を超える数のゲートウェイを選択すると、「Select 15 or fewer gateways to generate new report.」(新規レポートの生成では、選択するゲートウェイの数を 15 以下にしてください。)というメッセージを受信します。

**ステップ 5** 選択されたゲートウェイを [ Selected Gateways ] リスト ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したゲートウェイが、[ Selected Gateways ] ボックスに表示されます。

**ステップ 6** CDR データを検索する期間の日付および時刻の範囲を選択します。時刻の範囲を設定するときは、UTC (世界標準時) を使用します。

**ステップ 7** [ OK ] ボタンをクリックします。

CDR-CMR Results ウィンドウが表示されます。[ステップ 6](#) で設定した日付と時刻の範囲に一致した最古のレコード 100 件のみ表示されます。

**ステップ 8** CMR データを表示するには、[ Others ] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータ フィールドを表示するには、[ View ] ボタンをクリックします。

**ステップ 9** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.5-16](#) の「[レポートのメール送信](#)」の手順に従います。

---

#### 追加情報

[P.8-11](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## コール終了原因による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがコール終了原因による CDR の検索機能を使用します。

この項では、コールの終了原因に関する情報を検索する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ CDR ] > [ Search ] > [ By Cause for Call Termination ] を選択します。

[ Cause for Call Termination ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** コールの終了原因を検索するには、コールの終了原因のリストで、原因を強調表示します。



**ヒント** キーボードの Ctrl キーを押しながら原因をクリックしていくと、複数の原因を選択できます。Shift キーを押しながらすべての原因をクリックしていった、リスト内のすべての原因を選択することもできます。

**ステップ 3** 必要な原因が強調表示された状態で、[ Selected Call Termination Causes ] ボックスの上にある下矢印をクリックします。

選択した原因が [ Selected Call Termination Causes ] リスト ボックスに表示されます。

**ステップ 4** CDR データを検索する期間の日付および時刻の範囲を選択します。時刻の範囲を設定するときは、UTC (世界標準時) を使用します。

**ステップ 5** [ OK ] をクリックします。

[ Call Termination Details ] ウィンドウに、レポートが生成されたときのレポート条件とともに、所定の期間に発信されたコールの合計数、および選択した原因コードごとのコール レッグの数とコール レッグの割合 (%) が表示されます。[ステップ 4](#) で設定した日付と時刻の範囲に一致した最古のレコード 100 件のみ表示されます。

**ステップ 6** CDR を表示するには、[P.8-7 の「コール終了の詳細の表示」](#)を参照してください。

### 追加情報

[P.8-11 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## コール終了の詳細の表示

この項では、コール終了の詳細を表示する方法について説明します。

### 開始する前に

P.8-6 の「[コール終了原因による CDR の検索の設定](#)」の手順に従って、[ Call Termination Details ] ウィンドウを表示します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [ Select CDRs ] フィールドで、表示する個々の CDR の横にあるチェックボックスをオンにします。リストに含まれているすべての CDR を表示する場合は、[ Select CDRs ] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 2** 表示する CDR の選択が終了したら、[ View CDRs ] をクリックします。
- [ CDR-CMR Search Results ] ウィンドウが表示されます。
- メディア情報および CDR-CMR ダンプ レコードを表示するには、[ Others ] リンクと [ View ] リンクをクリックします。CDR 検索結果レポートの見方については、[P.10-22 の「CDR の検索の結果について」](#)を参照してください。
- ステップ 3** ウィンドウに表示される情報を出力するには、ブラウザの [ 編集 ] ボタンをクリックします。[ すべて選択 ] ボタンをクリックして、レポートの出力対象となるセクションを強調表示します。[ 印刷 ] ボタンをクリックします。
- ステップ 4** レポートを電子メールで送信するには、[ Send Report ] をクリックし、[P.5-16 の「レポートのメール送信」](#)で説明している手順に従います。
- 

### 追加情報

[P.8-11 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## コールの優先レベルによる CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがコールの優先レベルによる CDR の検索機能を使用します。

この項では、コールの優先順位を条件としてコールを検索する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ CDR ] > [ Search ] > [ By Call Precedence Level ] を選択します。

[ CDR Search by Precedence Levels ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Select Precedence Levels ] で、表 8-1 の説明に従って、検索するコール優先レベルのチェックボックスをオンにします。

表 8-1 コールの優先レベル

音声品質	説明
Flash Override	MLPP コールにおける最高の優先順位設定。
Flash	MLPP コールにおける上から 2 番目の優先順位設定。
Immediate	MLPP コールにおける上から 3 番目の優先順位設定。
Priority	MLPP コールにおける上から 4 番目の優先順位設定。
Routine	MLPP コールにおける最低の優先順位設定。



(注) すべての優先レベルのチェックボックスをオンにするには、[ Select All ] をクリックします。すべてのチェックボックスをオフにするには、[ Clear All ] をクリックします。

**ステップ 3** [ From Date ] フィールドで、CDR 検索範囲の開始点となる日時を選択します。時刻の範囲を設定するときは、UTC (世界標準時) を使用します。

**ステップ 4** [ To Date ] フィールドで、CDR 検索範囲の終了点となる日時を選択します。

**ステップ 5** [ OK ] をクリックします。

[ Call Precedence Details ] ウィンドウが表示され、コールの優先レベルと値、コール レッグの数、およびコール レッグの割合 (%) が示されます。

**ステップ 6** [ Select CDRs ] カラムで、確認する CDR のチェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** [ View CDRs ] をクリックします。

[ CDR-CMR Search by Precedence Levels - CDR-CMR Search Results ] ウィンドウが表示されます。ステップ 3 およびステップ 4 で設定した日付と時刻の範囲に一致した最古のレコード 100 件のみ表示されます。

**ステップ 8** CMR データを表示するには、[ Others ] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータ フィールドを表示するには、[ View ] ボタンをクリックします。

**ステップ 9** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[ Send Report ]をクリックし、P.5-16 の「レポートのメール送信」の手順に従います。

---

#### 追加情報

P.8-11 の「関連トピック」を参照してください。

## 迷惑呼による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけが迷惑呼による CDR の検索機能を使用します。

この項では、迷惑呼を検索する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ CDR ] > [ Search ] > [ Malicious Calls ] を選択します。

[ CDR Search for Malicious calls ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- [ Select Extension(s) ] ボックスで、[ Extension ] フィールドに内線を入力し、[ Add Extension ] をクリックします。  
ユーザの内線が [ Selected Extension(s) ] ボックスに表示されます。
- ユーザの内線を検索するには、[ Search Extension(s) based on User(s) ] リンクをクリックし、姓または名の最初の何文字かを [ First Name ] フィールドや [ Last Name ] のフィールドの一方または両方に入力して、[ Search ] ボタンをクリックします。結果が表示されたら、レポートに含める結果の隣にある [ Select ] リンクをクリックします。ユーザに関連付けられている内線番号が、[ Selected Extension(s) ] ボックスに表示されます。[ Close ] ボタンをクリックします。



**(注)** 内線を削除するには、削除する内線を選択し、[ Remove Extension(s) ] をクリックします。すべての内線を削除するには、[ Remove All Extensions ] をクリックします。

**ステップ 3** CDR データを検索する期間の日付および時刻の範囲を選択します。時刻の範囲を設定するときは、Coordinated Universal Time ( UTC; 世界標準時 ) を使用します。

**ステップ 4** [ OK ] をクリックします。

[ CDR-CMR Search Results ] ウィンドウが表示されます。[ステップ 3](#) で設定した日付と時刻の範囲に一致した最古のレコード 100 件のみ表示されます。

**ステップ 5** CMR データを表示するには、[ Others ] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、[ View ] ボタンをクリックします。

**ステップ 6** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.5-16](#) の「[レポートのメール送信](#)」の手順に従います。

### 追加情報

[P.8-11](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [CDR の検索の結果について \( P.10-22 \)](#)
- [メディア情報 \( P.10-23 \)](#)
- [CDR および CMR のダンプ テーブル \( P.10-23 \)](#)
- [レポートのメール送信 \( P.5-16 \)](#)
- [ユーザの内線による CDR の検索の設定 \( P.8-2 \)](#)
- [ゲートウェイによる CDR の検索の設定 \( P.8-4 \)](#)
- [コール終了原因による CDR の検索の設定 \( P.8-6 \)](#)
- [コール終了の詳細の表示 \( P.8-7 \)](#)
- [コールの優先レベルによる CDR の検索の設定 \( P.8-8 \)](#)
- [迷惑呼による CDR の検索の設定 \( P.8-10 \)](#)





# CDR/CMR レコードのエクスポートの設定

---

この章では、CDR/CMR レコードをエクスポートする方法およびエクスポートしたレコードを表示する方法について説明します。

Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting の CDR メニューにある Export CDR/CMR を使用すると、コンピュータ上の選択した場所に、CDR/CMR ダンプ情報をエクスポートできます。CDR/CMR ダンプは、CSV 形式で作成されます。また、エクスポートしたレコードのダンプを表示できます。

この章は次の内容で構成されています。

- [CDR/CMR レコードのエクスポート \(P.9-2\)](#)
- [CDR/CMR レコードのエクスポート結果の表示 \(P.9-3\)](#)
- [関連トピック \(P.9-4\)](#)

## CDR/CMR レコードのエクスポート

次の手順では、CDR/CMR ダンプをファイルにエクスポートする方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** [ CDR Analysis and Reporting ] で、[ CDR ] > [ Export CDR/CMR ] を選択します。

[ Export CDR/CMR records ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ From Date ] と [ To Date ] のドロップダウン メニューで、CDR/CMR ダンプの日付範囲を選択します。

**ステップ 3** [ Select records ] で、[ CDR ] チェックボックスと [ CMR ] チェックボックスのいずれかまたは両方をオンにします。

**ステップ 4** [ Export to File ] をクリックします。

[ Export CDR/CMR records Result ] ウィンドウが表示されます。P.9-3 の「[CDR/CMR レコードのエクスポート結果の表示](#)」を参照してください。

---

### 追加情報

P.9-4 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## CDR/CMR レコードのエクスポート結果の表示

次の手順では、CDR/CMR レコードのエクスポート結果を表示する方法について説明します。

### 開始する前に

次の手順に進む前に、P.9-1 の「[CDR/CMR レコードのエクスポートの設定](#)」の手順をすべて実行してください。

### 手順

- ステップ 1** [ Export CDR/CMR record Results ] ウィンドウで、[ CDR Dump ] リンクまたは [ CMR Dump ] リンクのいずれかを右クリックします。

次のオプションで構成されるポップアップ ウィンドウが表示されます。

- [ Open ]: このオプションでは、CDR/CMR ダンプを含んだ Web ページを同じウィンドウ内に開くことができます。
- [ Open in a New Window ]: このオプションでは、CDR/CMR ダンプを含んだ Web ページを新しいウィンドウ内に開くことができます。
- [ Save Target As... ]: このオプションでは、CDR/CMR ダンプをコンピュータに保存できます。
- [ Print Target ]: このオプションでは、CDR/CMR ダンプを印刷できます。
- [ Copy Shortcut ]: このオプションでは、Web ページ ショートカットをコピーして、別のファイルに貼り付けることができます。
- [ Add to Favorites ]: このオプションでは、CDR/CMR ダンプを Favorites フォルダに追加することができます。
- [ Properties ]: このオプションは、CDR/CMR ダンプ ファイルのプロパティを表示します。

- ステップ 2** ポップアップ ウィンドウで、いずれかのオプションを選択します。

- ステップ 3** CDR/CMR ダンプをコンピュータに保存する場合は、ダンプの保存場所を選択し、[ Save ] をクリックします。ダウンロードが完了したら、ダウンロードした場所で見つけて、開くことができます。

- ステップ 4** CDR ダンプと CMR ダンプのいずれかまたは両方を削除するには、[ Delete File ] チェックボックスをオンにし、[ Back ] または [ Close ] のいずれかをクリックします。

ファイルが削除されます。



- (注)** [ Delete File ] チェックボックスをオンにしない場合 (たとえば、CDR や CMR のダンプ ファイルを削除しないまま残す場合)、バックグラウンド プロセスによってファイルが毎日 1 回削除されます。CDR や CMR のダンプ ファイルはサイズが大きいため、ファイルをローカル ディスクにダウンロードし、サーバからは削除して、サーバ側のディスク使用量を抑えることをお勧めします。

### 追加情報

P.9-4 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [CDR/CMR レコードのエクスポートの設定 \( P.9-1 \)](#)
- [CDR 検索の設定 \( P.8-1 \)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の設定チェックリスト \( P.1-16 \)](#)
- [CDR/CMR レコードのエクスポート結果の表示 \( P.9-3 \)](#)



## CAR レポートの結果



ログインした Cisco Extension Mobility ユーザがコールを発信する場合、CAR は、Cisco Extension Mobility ユーザに設定された ユーザ ID を、これを表示するすべてのレポートで使用します。Cisco Extension Mobility 以外のユーザがコールを発信する場合（または Cisco Extension Mobility ユーザがログアウトした場合）あるいは、設定済みの Owner User ID のないデバイスからコールを発信する場合は CAR はデフォルトの ユーザ ID である `_unspecifieduser` をレポートで使用します。

この章では、CAR レポートに出力される情報について、レポートのタイプごとに説明します。

- [課金情報の要約レポートの結果 \(P.10-2\)](#)
- [課金情報の詳細レポートの結果 \(P.10-3\)](#)
- [料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果 \(P.10-4\)](#)
- [コール数別上位 N 件レポートの結果 \(P.10-5\)](#)
- [アシスタントのコールの使用状況：詳細レポートの結果 \(P.10-5\)](#)
- [アシスタントのコールの使用状況：要約レポートの結果 \(P.10-6\)](#)
- [マネージャのコールの使用状況：詳細レポートの結果 \(P.10-7\)](#)
- [マネージャのコールの使用状況：要約レポートの結果 \(P.10-8\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス レポートの結果 \(P.10-9\)](#)
- [QoS 詳細レポートの結果 \(P.10-10\)](#)
- [QoS 要約レポートの結果 \(P.10-11\)](#)
- [ゲートウェイ別 QoS レポートの結果 \(P.10-11\)](#)
- [コールタイプ別 QoS レポートの結果 \(P.10-12\)](#)
- [トラフィック要約レポートの結果 \(P.10-13\)](#)
- [許可コード名のコール詳細レポートの結果 \(P.10-14\)](#)
- [認証レベルのコール詳細レポートの結果 \(P.10-14\)](#)
- [クライアント証明書コード詳細レポートの結果 \(P.10-14\)](#)
- [迷惑呼詳細レポートの結果 \(P.10-15\)](#)
- [優先コール要約レポートの結果 \(P.10-15\)](#)
- [システム概要レポートの結果 \(P.10-16\)](#)
- [CDR エラー レポートの結果 \(P.10-17\)](#)
- [ゲートウェイ詳細レポートの結果 \(P.10-18\)](#)
- [ゲートウェイ要約レポートの結果 \(P.10-19\)](#)

- ゲートウェイおよびルート使用状況レポートの結果 (P.10-19)
- 会議コール詳細レポートの結果 (P.10-20)
- 会議ブリッジ使用状況レポートの結果 (P.10-21)
- ボイス メッセージング使用状況レポートの結果 (P.10-21)
- CDR の検索の結果について (P.10-22)

## 課金情報の要約レポートの結果

レポートでは、情報をユーザ名別に分類し昇順でリストします。要約レポートには次のフィールドがあります (表 10-1 を参照)。

表 10-1 要約レポートのフィールド

フィールド	説明
コールの分類：コール カテゴリによってクラスが決まります。	
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウでそのように設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する (ゲートウェイまたはトランクを使用しない) クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
QoS : Quality of Service (QoS; サービス品質) カテゴリごとのコール数。QoS カテゴリごとに CAR 管理者が設定するパラメータがあります。P.4-6 の「QoS 値の定義」および P.6-6 の「ゲートウェイ別 QoS レポートの設定」を参照してください。	
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれます。
Poor	これらのコールの QoS は、十分とは言えませんでした。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。
Calls : コール分類ごとのコールの数を示します。	
Charge : 各コールに関連付けられた料金を示します。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供するコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「評価エンジンの設定」を参照してください。	

## 課金情報の詳細レポートの結果

レポートでは、情報をユーザ名別に分類し昇順でリストします。詳細レポートには次のフィールドがあります（表 10-2 を参照）。

表 10-2 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Date and Orig. Time	コールが発信された日付と時刻
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
コールの分類：コールカテゴリによってクラスが決まります。	
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウでそのように設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカルエリアコードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
QoS : Quality of Service (QoS; サービス品質) カテゴリごとのコール数。QoS カテゴリごとに CAR 管理者が設定するパラメータがあります。P.4-6 の「QoS 値の定義」および P.6-6 の「ゲートウェイ別 QoS レポートの設定」を参照してください。	
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれるコールの QoS。
Fair	低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれるコールの QoS。
Poor	品質が十分とは言えないコールの QoS。
NA	既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しなかったコール。
Duration(s)	コールの接続時間（秒単位）
Charge	各コールに関連付けられた料金。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「評価エンジンの設定」を参照してください。

## 料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果

料金別の上位 N 件、および接続時間別の上位 N 件のフィールドは、レポートのタイプによって異なります。これらのレポートは、発信コールのみ示します。表 10-3 を参照してください。

表 10-3 料金別または接続時間別上位 N 件レポートのフィールド

フィールド	説明
<b>By Individual Users</b>	
User	ユーザ名
Calls	コールの合計数
Duration(s)	コールの接続時間（秒単位）
Charge	各コールに関連付けられた料金。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「 <a href="#">評価エンジンの設定</a> 」を参照してください。
<b>By Destinations</b>	
Dest	コールの宛先
Call Classification	コール分類ごとのコールの合計数
Calls	コールの合計数
Duration	コールの接続時間（秒単位）
Charge	各コールに関連付けられた料金。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「 <a href="#">評価エンジンの設定</a> 」を参照してください。
<b>By Number of Calls</b>	
User	ユーザ名
Date	コールの発生日
Orig Time	コールの発信時刻
Orig	コールの発信元
Dest	コールの送信先
Call Classification	コール分類ごとのコールの合計数
Duration	コールの接続時間（秒単位）
Charge	各コールに関連付けられた料金。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「 <a href="#">評価エンジンの設定</a> 」を参照してください。

## コール数別上位 N 件レポートの結果

コール数別上位 N 件レポートのフィールドは、レポートのタイプによって異なります。このレポートは、着信コールと発信コールの両方を示します。表 10-4 を参照してください。

表 10-4 コール数別上位 N 件レポートのフィールド

フィールド	説明
<b>By Individual Users</b>	
Users	ユーザ名
Duration(s)	コールの接続時間 (秒単位)
Charge	該当ユーザの全コールの課金総額。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「評価エンジンの設定」を参照してください。
Calls Made	ユーザが発信したコールの合計数
Calls Received	ユーザが受信したコールの合計数
Total Calls	着信コールおよび発信コールの合計数
<b>By Extensions</b>	
Extension No	コールを発信および受信した内線
Charge	該当ユーザの全コールの課金総額。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「評価エンジンの設定」を参照してください。
Duration	コールの接続時間 (秒単位)
Calls Made	ユーザが発信したコールの合計数
Calls Received	ユーザが受信したコールの合計数
Total Calls	着信コールおよび発信コールの合計数

## アシスタントのコールの使用状況：詳細レポートの結果

このレポートは、Cisco Unified CallManager Assistant をサポートし、アシスタントが自分で処理したコールの数、アシスタントが各マネージャの代理で処理したコールの数、およびアシスタントが処理したコールの合計数を示します。レポートでは、アシスタントが処理したコール、およびアシスタントがマネージャの代理で処理したコールに関する情報は、グループ化されています。詳細レポートには次のフィールドがあります (表 10-5 を参照)。

表 10-5 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Date	コールの発信日
Orig.Time	コールの発信時刻
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
Call Classification	コールのタイプ (internal、incoming など)
Duration (sec)	コールの接続時間 (秒単位)

## アシスタントのコールの使用状況：要約レポートの結果

このレポートは、Cisco Unified CallManager Assistant をサポートし、アシスタントが自分で処理したコール、およびアシスタントがマネージャの代理で処理したコールに関する情報を示します。レポートでは、コールの情報はアテンダントの名前別にグループ化されています。要約レポートには次のフィールドがあります（表 10-6 を参照）。

表 10-6 要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Assistant-Extn/Manager	アシスタント名と電話番号を示します。アシスタントがマネージャの代理でコールを処理した場合は、マネージャ名が表示されます。
コールの分類：コール カテゴリによってクラスが決まります。	
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する(ゲートウェイまたはトランクを使用しない) クラス内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウでそのように設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」を参照してください。
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
Calls	アシスタントが処理したコール、またはアシスタントがマネージャの代理で処理したコールの数
Duration (sec)	特定のコール分類の全コールの期間の合計

## マネージャのコールの使用状況：詳細レポートの結果

このレポートは、Cisco Unified CallManager Assistant をサポートし、マネージャが自分で処理したコール、およびアシスタントがマネージャの代理で処理したコールに関する情報を示します。レポートでは、情報はアシスタント名別にまとめられ、マネージャが処理したコールとアシスタントがマネージャの代理で処理したコールの合計数が示されます。詳細レポートには次のフィールドがあります（表 10-7 を参照）。

表 10-7 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Date	コールの発信日
Orig.Time	コールの発信時刻
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
Call Classification	コールのタイプ（internal、incoming など）
Duration (sec)	コールの接続時間（秒単位）

## マネージャのコールの使用状況：要約レポートの結果

このレポートは、Cisco Unified CallManager Assitant をサポートし、マネージャが自分で処理したコール、およびアシスタントがマネージャの代理で処理したコールに関する情報を示します。レポートでは、情報はマネージャ名別にまとめられ、各マネージャの処理されたコールの合計数が示されます。このレポートには次のフィールドがあります（表 10-8 を参照）。

表 10-8 要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Manager-Extn/Assistant	マネージャ名と電話番号を示します。アシスタントがマネージャの代理でコールを処理した場合は、アシスタント名が表示されます。
コールの分類：コール カテゴリによってクラスが決まります。	
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する(ゲートウェイまたはトランクを使用しない) クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウでそのように設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」を参照してください。
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
Calls	アシスタントまたはマネージャが処理したコールの数
Duration	特定のコール分類の全コールの期間の合計

## Cisco IP Phone サービス レポートの結果

Cisco Unified IP Phone サービス レポートには、次のフィールドがあります。表 10-9 を参照してください。

表 10-9 Cisco Unified IP Phone サービス レポートのフィールド

フィールド	説明
Cisco IP Phone Services	選択したサービスの名前
Number of Subscribers	所定のサービスの加入者の合計数
% Subscription	すべてのサービスの合計登録者数の中で、所定のサービスに登録しているユーザの割合

## QoS 詳細レポートの結果

QoS 詳細レポートには次のフィールドがあります。表 10-10 を参照してください。

表 10-10 QoS 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.Time	コールの発信時刻（時、分、秒。24 時間制）
Term.Time	コールの切断時刻（時、分、秒。24 時間制）
Duration(s)	コールの接続時間（秒単位）
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
コールの分類：コールカテゴリによってクラスが決まります。	
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイまたはトランクを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウでそのように設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」を参照してください。
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
Orig.Codec	発信側デバイスが使用しているコーデック
Dest.Codec	送信先デバイスが使用しているコーデック
Orig.Device	コールを発信したデバイスの名前
Dest.Device	コールを受信したデバイスの名前
Orig.QoS	コールを発信したデバイスにおける音声品質
Dest.QoS	コールを受信したデバイスにおける音声品質

## QoS 要約レポートの結果

QoS 要約レポートには次のフィールドがあります。表 10-11 を参照してください。

表 10-11 QoS 要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Quality of Service (QoS; サービス品質)	コールの QoS
Call Legs	QOS フィールドに示されている QoS を持ったコールレグの数

## ゲートウェイ別 QoS レポートの結果

ゲートウェイ別 QoS レポートは、次の情報を提供します。表 10-12 を参照してください。

表 10-12 ゲートウェイ別 QoS レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の累計を示します。
% of Call Legs	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の間の各ゲートウェイのコール数の割合 (%) を表示します。

## コールタイプ別 QoS レポートの結果

コールタイプ別 QoS レポートは、次の情報を提供します。表 10-13 を参照してください。

表 10-13 コールタイプ別 QoS レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の累計
% of Call Legs	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の間の各ゲートウェイのコール数の割合 (%)
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する (ゲートウェイまたはトランクを使用しない) クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [ CAR dial plan configuration ] ウィンドウでそのように設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」を参照してください。
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

## トラフィック要約レポートの結果

トラフィック要約レポートと内線別トラフィック要約レポートには、同じ情報が含まれており、次のフィールドの一部または全部が含まれています。表 10-14 を参照してください。

表 10-14 トラフィック要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の累計
Average Number of Calls	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の間の各ゲートウェイのコール数の割合 (%)
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終端する(ゲートウェイまたはトランクを使用しない) クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	1 つの Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、トランク経由で送出されて、別の Cisco Unified CallManager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、発信コールが [CAR dial plan configuration] ウィンドウでそのように設定されている場合はすべて On Net コールに分類できます。P.3-3 の「ダイヤルプランの設定」を参照してください。
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
Total	時間または日ごとのコールの合計数

## 許可コード名のコール詳細レポートの結果

このレポートは、特定の許可コード名の使用状況を示します。セキュリティを確保するため、許可コード名（説明）は表示されますが、許可コードは表示されません。詳細レポートには次のフィールドがあります（表 10-15 を参照）。

表 10-15 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
Orig.Date Time	コールが発信された日付と時刻
Duration (sec)	コールの接続時間（秒単位）
Call Classification	コールのタイプ（internal、incoming など）
Authorization Level	選択した各許可コード名のコールに対する認証レベル

## 認証レベルのコール詳細レポートの結果

このレポートは、特定の認証レベルの使用状況を示します。詳細レポートには次のフィールドがあります（表 10-16 を参照）。

表 10-16 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
Orig.Date Time	コールが発信された日付と時刻
Duration (sec)	コールの接続時間（秒単位）
Call Classification	コールのタイプ（internal、incoming など）
Authorization Code Name	選択した各認証レベルの許可コード名

## クライアント証明書コード詳細レポートの結果

このレポートは、特定のクライアント証明書コードの使用状況を示します。詳細レポートには次のフィールドがあります（表 10-17 を参照）。

表 10-17 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
Orig.Date Time	コールが発信された日付と時刻
Duration (sec)	コールの接続時間（秒単位）
Call Classification	コールのタイプ（internal、incoming など）

## 迷惑呼詳細レポートの結果

迷惑呼の詳細レポートは、迷惑呼に関する情報を提供します。レポートには次のフィールドがあります。表 10-18 を参照してください。

表 10-18 迷惑呼の詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.Time	迷惑呼の発信時刻
Term.Time	迷惑呼の終了時刻
Duration	迷惑呼の合計時間（秒単位）
Orig.	発信側の DN
Dest.	送信先の DN
Orig.Device	発信側デバイスの名前
Dest.Device	送信先デバイスの名前
Call Classification	迷惑呼の分類

## 優先コール要約レポートの結果

優先コールの要約レポートは、優先レベルを基準として、コールに関する情報を提供します。このレポートには、優先順位値を基準としたコール要約が、Hour of Day、Day of Week、または Day of Month で区分され、選択した優先レベルごとに棒グラフ形式で表示されます。レポートには、2 つの表が表示されます。1 つは棒グラフを反映したもので、もう 1 つは、選択した優先レベルごとのコール数と割合（％）をリストしたものです。表 10-19 を参照してください。

表 10-19 優先コールの要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の累計を示します。
Call Legs	時間、曜日、または日付別の、優先レベルごとのコール数
Precedence Level	コールの優先レベル値
No. of Call Legs	優先レベルごとのコール レッグの数
Percentage	優先レベルごとのコール レッグの割合（％）

## システム概要レポートの結果

システム概要は、Cisco Unified CallManager ネットワークのすべての部分に関する情報を提供します。レポートには次の項があります。表 10-20 を参照してください。

表 10-20 システム概要レポート

フィールド	説明
Top 5 Users based on Charge	指定した日付範囲に発生したコールに関して、課金が多かった上位 5 人のユーザの詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Top 5 Destinations based on Charge	指定した日付範囲に発生したコールに関して、課金が多かった上位 5 件の着信番号の詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Top 5 Calls based on Charge	指定した日付範囲に発生したコールに関して、課金が多かった上位 5 件のコールの詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Top 5 Users based on Duration	指定した日付範囲に発生したコールに関して、接続時間が長かった上位 5 人のユーザの詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Top 5 Destinations based on Duration	指定した日付範囲に発生したコールに関して、接続時間が長かった上位 5 件の着信番号の詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Top 5 Calls based on Duration	指定した日付範囲において、接続時間が長かった上位 5 件の詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Traffic Summary Report - Hour of Day	時間を基準として、指定した日付範囲におけるコールの量を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-13 の「トラフィック要約レポートの結果」を参照してください。
Traffic Summary Report - Day of Week	曜日を基準として、指定した日付範囲におけるコールの量を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-13 の「トラフィック要約レポートの結果」を参照してください。
Traffic Summary Report - Day of Month	日付を基準として、指定した日付範囲におけるコールの量を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-13 の「トラフィック要約レポートの結果」を参照してください。

表 10-20 システム概要レポート (続き)

フィールド	説明
Quality of Service Report - Summary	指定した日付範囲において、各音声品質カテゴリに該当するコールの数を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-11 の「QoS 要約レポートの結果」を参照してください。
Gateway Summary Report	指定した日付範囲における各ゲートウェイのコール分類の要約を、ゲートウェイのそれぞれの分類の QoS、コール数、および接続時間とともに示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-11 の「ゲートウェイ別 QoS レポートの結果」を参照してください。

## CDR エラー レポートの結果

CDR エラー レポートは、次の情報を提供します。表 10-21 を参照してください。

表 10-21 CDR エラー レポートのフィールド

フィールド	説明
Time	指定した日におけるエラー発生時刻
No of Error CDRs	CAR へのロード中に、エラーのため処理されなかった CDR データ レコードの合計数
No of Valid CDRs	CAR へ正常にロードされた CDR データ レコードの合計数
% of Error CDRs	ロードされたすべての CDR データ レコードの中で、エラーを含む CDR データ レコードの割合 (%)
Error Description	システムが CDR データ レコードをロードしようとしたときに発生したエラー
% of Error CDRs	対応するエラー説明が原因で、エラーになった CDR データ レコードの割合 (%)

## ゲートウェイ詳細レポートの結果

ゲートウェイ詳細レポートには次のフィールドがあります。表 10-22 を参照してください。

表 10-22 ゲートウェイ詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Date	コールがゲートウェイを通過した日付。
Orig.Time	コールがゲートウェイを通過した時刻。
Term.Time	コールの終了時刻。
Duration(s)	コールの接続時間 (秒単位)。この接続時間は、Dest Connect と Dest Disconnect の時刻の差です。
Orig	コールの発信元番号。
Dest	コールの送信先番号。コールが転送されていない場合、この電話番号は Final Destination の番号と一致します。コールが転送されている場合、このフィールドには、コール転送前の元の送信先番号が含まれています。
Orig.Codec	コール発信者がこのコール中に送信側で使用した、コーデック コード (圧縮またはペイロードのコード)。このコードは、受信側で使用されたコーデック コードとは異なる場合があります。
Dest.Codec	送信先がこのコール中に送信時に使用した、コーデック コード (圧縮またはペイロードのコード)。このコードは、受信側で使用されたコーデック コードとは異なる場合があります。
Orig.Device	コールを発信したデバイスの名前。着信コールおよびタンデム コールの場合、このフィールドはゲートウェイのデバイス名を示します。
Dest Device	コールを受信したデバイスの名前。発信コールおよびタンデム コールの場合、このフィールドはゲートウェイのデバイス名を示します。会議コールの場合、このフィールドは会議ブリッジのデバイス名を示します。
Orig QoS	QoS は、コールで達成された音声品質のグレードを示します。
Dest QoS	コール受信者における QoS カテゴリ。

## ゲートウェイ要約レポートの結果

ゲートウェイ要約レポートには次のフィールドがあります。表 10-23 を参照してください。



(注)

ゲートウェイ要約レポートは、ユーザの選択するコール分類ごとにコールを区別し、QoS タイプに基づいてコールを区分します。

表 10-23 ゲートウェイ要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Call Classification	コールのタイプ ( internal、incoming、および tandem ) を示します。
Quality of Service ( QoS; サービス品質 )	音声品質カテゴリごとのコール数を示して、さまざまなゲートウェイのパフォーマンスの要約を示します。P.4-6 の「QoS 値の定義」で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Good : これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。</li> <li>• Acceptable : これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。</li> <li>• Fair : これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれます。</li> <li>• Poor : これらのコールの QoS は、十分とは言えませんでした。</li> <li>• NA : これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しませんでした。</li> </ul>
Calls	特定のコール分類のコール合計数を示します。
Duration(s)	特定のコール分類の全コールの期間の合計を示します。

## ゲートウェイおよびルート使用状況レポートの結果

ゲートウェイ、ルートグループ、ルートリスト、およびルートパターン使用状況レポートが提供する出力は、互いに類似しています。これらのレポートを CSV 形式で生成した場合、レポートは表を表示します。PDF を選択した場合、レポートは使用率を棒グラフで表示します。グラフは、選択したゲートウェイまたはルートグループごとに表示されます。表 10-24 を参照してください。

表 10-24 ゲートウェイおよびルート使用状況レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	Hourly を選択した場合は 1 時間単位、weekly または monthly を選択した場合は 1 日単位の時間。この結果は、開始日および終了日で示されている期間全体における、1 時間ごとまたは 1 日ごとの使用状況を示します。
%	ゲートウェイ、ルートグループ、ルート、リスト、またはルートパターンの使用率。このフィールドは、すべてのゲートウェイを合せて一度にサポートできるコール合計数と対照したときの、ゲートウェイ、ルートグループ、ルートリスト、またはルートパターンの概算使用率を示します。

## 会議コール詳細レポートの結果

会議コールの情報については、要約または詳細レポートのどちらで生成するかを選択できます。このレポートは、CSV 形式と PDF 形式のどちらで生成するように選択しても、コールの詳細を表形式で表示します。次の表に、会議コール詳細レポートと要約レポートのフィールドを示します。表 10-25 および表 10-26 を参照してください。



(注)

レポートの基準には、会議のタイプ (アドホックと Meet-Me のいずれかまたは両方) および From と To の日付範囲があります。

表 10-25 会議コール詳細レポートと要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.Time	最初の参加者が会議に入室した時刻
Term.Time	最後の参加者が会議を退席した時刻
No. of Participants	会議の参加者数
Duration	会議の個々の参加者の接続時間の合計 (秒単位)
Device Name	使用された会議機器の名前

表 10-26 会議コール詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Conference Start Time	会議の開始時刻
Conference End Time	会議の終了時刻
Connect Time	会議参加者が会議に接続した時刻
Disconnect Time	会議参加者が会議から切断された時刻
Duration	会議の合計時間
Directory Number	参加者の電話番号
Call Classification	会議のコールのタイプ (internal、incoming など)
Device Name	使用された会議機器の名前
QoS	Quality of Service (QoS; サービス品質)

## 会議ブリッジ使用状況レポートの結果

レポートには次のフィールドがあります。PDF を選択した場合、レポートは使用率を棒グラフで表示します。表 10-27 を参照してください。

表 10-27 会議ブリッジ使用状況レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	Hourly を選択した場合は 1 時間単位、曜日または毎日を選択した場合は 1 日単位の時間
% Usage	会議ブリッジの使用率
Conf. Bridge	会議コールの維持に使用された会議ブリッジ デバイス
Type	ハードウェアまたはソフトウェアの会議ブリッジ
Max Streams	一度に開催可能な会議の数、および 1 会議あたりの参加者数

## ボイス メッセージング使用状況レポートの結果

レポートには次のフィールドがあります。CSV 出力を選択した場合、レポートは使用率を表形式で表示します。PDF を選択した場合、レポートは使用率を棒グラフで表示します。表 10-28 を参照してください。

表 10-28 ボイス メッセージング使用状況レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	Hourly を選択した場合は 1 時間単位、曜日または毎日を選択した場合は 1 日単位の時間
% Usage	ボイス メッセージングの使用率
Voice Messaging Ports	Octel ボイス メッセージング システム用に設定されたルート パターンのすべてのゲートウェイの最大ポート数、および Cisco Unified CallManager の Device テーブルで Class タイプが 8 になっているエントリの合計
Voice Messaging Gateways	Octel システム用に設定されたルート パターンに含まれる、発信側または着信側のゲートウェイのデバイス名
Number of Ports	ボイス メッセージング ゲートウェイがサポートするポートの数

## CDR の検索の結果について

次の各項では、CDR の検索結果について説明します。

- [CDR の検索の結果について \(P.10-22\)](#)
- [メディア情報 \(P.10-23\)](#)
- [CDR および CMR のダンプテーブル \(P.10-23\)](#)

## CDR の検索の結果について

CDR の検索を使用すると、[P.10-23 の「CDR および CMR のダンプテーブル」](#)で説明している CDR と CMR のフィールドを表示できます。CDR の検索では、CAR データベースの tbl\_billing\_data テーブルと tbl\_billing\_error テーブルから CDR/CMR ファイルを取得します。

[表 10-29](#) を参照してください。

**表 10-29 CDR の検索の結果**

フィールド	説明
SI No	このフィールドは、シリアル番号またはレコード番号を示します。
Call Type	このフィールドは、コールのタイプ (シンプル、転送、自動転送、ピックアップ、会議、参照、置換、またはリダイレクト) を示します。
GCID_CMId GCID_CallId	このフィールドは、コール全体のすべてのフィールドに関連付けられている、コールの識別子を示します。
Orig Node Id Dest Node Id	このフィールドは、コールの発信者または送信先がコール時に登録された、Cisco Unified CallManager クラスタ内のノードを示します。
Orig Leg Id Dest Leg Id	このフィールドは、コールの発信レッグまたは着信レッグの ( クラスタ内における ) 一意識別子を示します。
Calling No Calling Partition	発信番号は、コール発信元の電話番号を示します。発信パーティションは、発信側に関連付けられているパーティションを示します。
Called No Called Partition	着信番号は、コールが最初に発信された時点での電話番号を示し、コールが転送または自動転送されていない場合は、Dest No と同じです。着信パーティションは、着信側に関連付けられているパーティションを示します。
Dest No Dest No Partition	送信先番号は、コールが最終的に終端した場所の電話番号を示し、コールが転送または自動転送されていない場合は、着信番号と同じです。送信先番号のパーティションは、送信先番号に関連付けられているパーティションを示します。
Last Rd. No Last Rd. No Partition	最後のリダイレクト番号は、コールの最後のリダイレクト元となった場所の電話番号を示します。最後のリダイレクト番号のパーティションは、最後のリダイレクト番号に関連付けられているパーティションを示します。
Media Info Orig Pkts Rcd Dest Pkts Rcd Orig Pkts Lost Dest Pkts Lost	このフィールドは、コールの発信レッグと着信レッグで受信されたか失われたパケットを示し、メディア情報へのリンクを提供します。CDR および CMR のダンプテーブルについては、 <a href="#">P.10-23 の「CDR および CMR のダンプテーブル」</a> を参照してください。

表 10-29 CDR の検索の結果 (続き)

フィールド	説明
CDR - CMR Dump	このフィールドは、CDR および CMR のダンプ テーブルへのリンクを提供します。このリンクを使用すると、CDR や CMR のフィールドの値を表示できます。CDR および CMR のダンプ テーブルについては、 <a href="#">P.10-23 の「CDR および CMR のダンプ テーブル」</a> を参照してください。

## メディア情報

メディア情報の表は、次の情報を提供します。[表 10-30](#) を参照してください。

表 10-30 CDR のメディア情報

フィールド	説明
Origination Leg	コールの発信レッグの ( クラスタ内における ) 一意識別子
Destination Leg	コールの着信レッグの ( クラスタ内における ) 一意識別子
Parameter	メディア パラメータ ( MediaTransportAdd_IP、PayLoadCapability、MediaCap_g723BitRate、Packets Sent、Octets Sent、Packets Received、Octets Received、Packets Lost、Jitter、Latency、QoS、VideoCap_Codec、VideoCap_Bandwidth、VideoCap_Resolution、VideoTransportAddress_IP、および VideoTransportAddress_Port )
Origination	コールの発信レッグに関する、上のすべてのパラメータの値
Destination	コールの着信レッグに関する、上のすべてのパラメータの値

## CDR および CMR のダンプ テーブル

CDR と CMR のダンプ テーブルは、次の情報を提供します。[表 10-31](#) を参照してください。



(注)

音声品質メトリック フィールド [ var VQMetrics ] の内容は、[ Origination CMR ] フィールドおよび [ Destination CMR ] フィールドで閲覧できます。

表 10-31 CDR および CMR のダンプ テーブル

フィールド	説明
CDR	このフィールドは、呼詳細レコードのフィールドを示します。
Origination CMR	発信元フィールドと送信先フィールドが 1 セットだけ存在します。レッグ ID を使用して発信元 CMR および送信先 CMR を検索できます。CMR のレッグ ID が CDR の Orig/Dest レッグ ID に一致する場合、それ以降のレコードは Orig/Dest CMR を表しています。
Destination CMR	発信元フィールドと送信先フィールドが 1 セットだけ存在します。レッグ ID を使用して発信元 CMR および送信先 CMR を検索できます。CMR のレッグ ID が CDR の Orig/Dest レッグ ID に一致する場合、それ以降のレコードは Orig/Dest CMR を表しています。

次に、CDR ダンプ ファイルの出力例を示します。

### CDR ダンプ ファイル出力例

```
cdrRecordType,globalCallID_callManagerId,globalCallID_callId,orignodeId,destnodeId,origlegcallIdentifier,destlegidentifier,orignumberPacketsSent,orignumberOctetsSent,orignumberPacketsReceived,orignumberOctetsReceived,orignumberPacketsLost,destnumberPacketsSent,destnumberOctetsSent,destnumberPacketsReceived,destnumberOctetsReceived,destnumberPacketsLost,origjitter,destjitter,origlatency,destlatency,pkid,origdeviceName,destdeviceName,origvarVQMetrics,destvarVQMetrics,globalCallId_ClusterID,callingPartyNumber,finalCalledPartyNumber,callingPartyNumberPartition,finalCalledPartyNumberPartition
1,1,233,1,1,31565399,31565400,2159941,371509852,2158009,371177548,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,1020e21e-111d-4171-b778-fd7e54c2283d,SEP001955098750,9.9.1.95,MLQK=4.5000;MLQKav=4.4270;MLQKmn=3.6833;MLQKmx=4.5000;MLQKvr=0.95;CCR=0.0018;ICR=0.0000;ICRmx=0.0668;CS=3000;SCS=441,,StandAloneCluster,1006,1002,,
1,1,234,1,1,31565401,31565402,2159930,371507960,2158063,371186836,2,0,0,0,0,0,0,0,0,0,16baf132-4c6a-4ad9-bf4b-ac560d2a4cf1,SEP00192F74C18F,9.9.1.95,MLQK=4.4438;MLQKav=4.4274;MLQKmn=3.7094;MLQKmx=4.5000;MLQKvr=0.95;CCR=0.0018;ICR=0.0000;ICRmx=0.0697;CS=2943;SCS=436,,StandAloneCluster,1005,1003,,
```



## Numerics

1日あたりの料金、通知限度の設定 4-11

## A

Add Incoming Number Prefix to CDR サービスパラメータ 2-3

Allowed CDRonDemand get\_file Queries Per Minute エンタープライズパラメータ 2-4

Allowed CDRonDemand get\_file\_list Queries Per Minute サービスパラメータ 2-4

## C

Call Diagnostics Enabled サービスパラメータ 2-3

## CAR

CDR エラー レポート 6-25

CDR エラー レポートの設定 6-25

### CDR 検索

概要 1-13

コールの優先レベルによる 8-8

設定 8-1

迷惑呼 8-10

CDR の検索の設定、ゲートウェイによる 8-4

CDR の検索の設定、コール終了原因による 8-6

CDR の検索の設定、ユーザの内線による 8-2

CDR/CMR レコードのエクスポート結果 9-3

CDR/CMR レコードの設定 9-1

Cisco IP Phone サービス レポートの設定 5-15

Cisco Unified CallManager Assistant 使用状況レポート、説明 5-12

Generate Report フィールド 6-7, 6-9, 6-12, 6-14, 6-22

Load CDR & CMR の値 3-9

### QoS 詳細レポート

音声品質 6-4, 6-13

コールタイプ 6-3

QoS 詳細レポートの設定 6-3

QoS 値、定義 4-6

QoS のデフォルト値 4-6

### QoS パラメータ

コールタイプ 6-10

説明 6-6

QoS パラメータの演算子 6-2

### QoS 要約レポート

コールタイプ 6-5

QoS 要約レポートの設定 6-5

QoS レポート、説明 6-2

uninhibited loading of CDR の値 3-10

アシスタントのコール使用状況の設定 5-13

イベント ログ レポートの出力パラメータ 3-18

イベント ログ レポートのステータス 3-17

会議コールの詳細の設定 7-15

会議ブリッジの使用状況レポート 7-16

概要 2-1

管理者、マネージャ、ユーザ 1-6

### 期間別上位 N

コールタイプ 5-8

レポートタイプ 5-9

ゲートウェイ レポート 7-2, 7-9

検索、ユーザ 5-18

コールタイプ別 QoS の設定 6-9

コールタイプ別 QoS レポート 6-9

コール終了の詳細 8-7

コール数別上位 N 件の設定 5-10

### コール数別上位 N

コールタイプ 5-10

レポートタイプ 5-11

個別の課金情報の設定 5-2

### システム レポート

概要 1-9

システム レポート、説明 6-1

システム概要レポート 6-24

システム概要レポートの設定 6-24

- システム構成 1-6, 3-1
- システム設定のパラメータ 3-7
- 自動データベース消去設定 3-15
- 自動データベース消去の無効化 3-15
- 自動レポート生成と警告の設定 4-8
- 手動データベース消去 3-14
- 上位 N 件、説明 5-5
- 接続時間別上位 N 件の設定 5-7
- 設定、ゲートウェイ 3-5
- 説明 1-3
- ダイヤルプランのデフォルト値 3-4
- チェックリスト 1-16
- 通知制限の設定 4-11
- 定格エンジンの設定 4-2
- デバイスレポート
  - 概要 1-10
- デバイスレポート、説明 7-1
- トピックの一覧 1-1
- トラフィックレポート
  - 説明 6-11
- トラフィック要約、コールタイプ 6-12
- トラフィック要約（内線）、コールタイプ 6-15
- トラフィック要約レポート 6-11
- トラフィック要約レポートの設定 6-11
- 内線別のトラフィック要約レポート 6-14
- 内線別のトラフィック要約レポートの設定 6-14
- 復元、ダイヤルプランのデフォルト値 3-4
- 復元、データベース消去のデフォルト 3-14
- 部門の課金情報の設定 5-3
- ボイス メッセージングの使用状況レポート 7-18
- マネージャのコール使用状況の設定 5-12
- 迷惑呼の識別 6-21
- ユーザレポート 1-8
- ユーザレポート、説明 5-1
- 優先コール要約 6-22
- 料金別上位 N 件の設定 5-5
- 料金別上位 N
  - コールタイプ 5-6
  - レポートタイプ 5-6
- レポート、結果 10-1
- レポートの設定、説明 4-1
- ログオフ 2-7
- CAR ページの認証と表示 1-15
- CDR 8-1
  - 値
    - CDR のロード 3-9
    - エラー、結果のレポート 10-17
    - エラー レポート 6-25
    - 検索 8-1
    - 検索、ゲートウェイによる 8-4
    - 検索、コール終了原因による 8-6
    - サービスパラメータ、設定 2-3
    - 自動 CAR データベース消去の無効化 3-15
    - 自動データベース消去設定 3-15
    - 説明 1-2
    - ダンプテーブル 10-23
    - 復元、デフォルトのロードスケジュール 3-8
    - 無効化、ロード 3-8
    - ユーザの内線による検索 8-2
    - ユーザの内線による検索、結果のレポート 10-22
    - ロードスケジュールの設定 3-8
- CDR Analysis and Reporting
  - 概要 1-7
  - 国際化 1-14, 1-15
- CDR Analysis and Reporting Tool
  - 説明 2-1
  - ログオフ 2-7
- CDR Enabled Flag サービスパラメータ 2-3
- CDR File Time Interval エンタープライズパラメータ 2-4
- CDR Log Calls With Zero Duration Flag サービスパラメータ 2-3
- CDR の値
  - 無制約ロード 3-10
- Cisco IP Phone サービス
  - 結果のレポート 10-9
  - レポートの設定 5-15
- Cisco IPMA 使用状況レポート
  - アシスタントのコール使用状況 5-13
  - マネージャのコール使用状況 5-12
- Cluster ID エンタープライズパラメータ 2-4
- CMR の値、CDR のロード 3-9
- CMR のダンプテーブル 10-23
- D
  - Display FAC in CDR サービスパラメータ 2-3

- G**
- Generate Report フィールド 7-7, 7-9, 7-11, 7-13, 7-16, 7-18
- Q**
- QoS
- 通知制限の設定 4-11
  - 定義、値 4-6
  - デフォルト値 4-6
- QoS 詳細、結果のレポート 10-10
- QoS 詳細レポート
- 音声品質 6-4, 6-13
  - コールタイプ 6-3
- QoS パラメータ、コールタイプ 6-10
- QoS パラメータの演算子 6-2
- QoS 要約、結果のレポート 10-11
- QoS 要約レポート
- コールタイプ 6-5
- S**
- Show Line Group Member DN in finalCalledPartyNumber  
CDR Fields サービス パラメータ 2-3
- U**
- uninhibited loading of CDR の値 3-10
- あ**
- アシスタントのコールの使用状況
- 結果の詳細レポート 10-5
  - 結果の要約レポート 10-6
- い**
- イベント ログ
- 生成 3-17
- イベント ログ レポート
- 出力 3-18
  - ステータス 3-17
- イベント ログの生成 1-6
- え**
- エラー
- CDR レポート 6-25
  - CDR ~ レポート、結果 10-17
- エンタープライズ パラメータ 2-4
- Allowed CDRonDemand get\_file Queries Per Minute 2-4
  - CDR File Time Interval 2-4
  - Cluster ID 2-4
- お**
- 音声品質 4-5
- か**
- 会議コール詳細、結果のレポート 10-20
- 会議ブリッジ使用状況、結果のレポート 10-21
- 概要
- CAR 2-1
  - エラーとイベント ログ 1-6
  - 個別の課金情報レポート 5-2
  - 自動レポート生成 4-8
  - デバイス レポート 7-1
  - 部門の課金情報レポート 5-3
- 課金
- 個別 5-2
  - 個別の詳細、結果のレポート 10-3
  - 個別の要約、結果のレポート 10-2
  - 部門 5-3
  - 部門の詳細、結果のレポート 10-3
  - 部門の要約、結果のレポート 10-2
- カスタマイズ、レポートの自動生成 4-8
- 管理者、CAR 1-6
- 関連マニュアル xi
- き**
- 期間別上位 N
- コールタイプ 5-8
  - 設定 5-7
  - レポートタイプ 5-9
- 基本レート 4-2
- 許可コード名
- コール結果の詳細レポート 10-14

- システム レポート 6-18
- 許可コード名レポート 6-18
  
- く
- クライアント証明書コード
  - 結果の詳細レポート 10-14
  - システム レポート 6-17
- クライアント証明書コード レポート 6-17
  
- け
- 警告
  - 有効化と無効化、電子メールによる ~ 4-10
- ゲートウェイ
  - CDR 検索 8-4
  - QoS レポートの結果、ゲートウェイ別 10-11
    - 設定、CAR で使用するための 3-5
  - ゲートウェイ レポート、設定 7-2
  - ゲートウェイ詳細レポート 7-2
  - ゲートウェイ使用状況、結果のレポート 10-19
  - ゲートウェイ使用状況レポート 7-6
  - ゲートウェイの詳細
    - 音声品質 7-4
    - コール タイプ 7-3, 7-5
  - ゲートウェイの詳細、結果のレポート 10-18
  - ゲートウェイの要約、結果のレポート 10-19
  - ゲートウェイ別 QoS、結果のレポート 10-11
  - ゲートウェイ要約レポート 7-4
- 結果のレポート
  - CDR エラー 10-17
  - Cisco IP Phone サービス 10-9
  - QoS 詳細 10-10
  - QoS 要約 10-11
  - 会議コール詳細 10-20
  - 会議ブリッジ使用状況 10-21
  - 期間別上位 N 10-4
  - ゲートウェイ使用状況 10-19
  - ゲートウェイの詳細 10-18
  - ゲートウェイ別 QoS 10-11
  - ゲートウェイ要約 10-19
  - コール タイプ別 QoS レポート 10-12
  - コール数別上位 N 10-5
  - 個別の課金情報、詳細 10-3
  - 個別の課金情報、要約 10-2
  - システム概要 10-16
  - トラフィック要約 10-13
  - 内線別のトラフィック要約 10-13
  - 部門の課金情報、詳細 10-3
  - 部門の課金情報、要約 10-2
  - ボイスメール使用状況 10-21
  - ユーザの内線による CDR の検索 10-22
  - 料金別上位 N 10-4
  - ルート グループ使用状況 10-19
  - ルート パターン使用状況 10-19
  - ルート リスト使用状況 10-19
- 月次報告
  - スケジューリング 3-12
- 検索
  - CDR 8-1
  - CDR、コール終了原因による ~ 8-6
  - CDR の ~、ゲートウェイによる 8-4
  - CDR、ユーザの内線による ~ 8-2
  - CDR、ユーザの内線による ~、結果のレポート 10-22
- 検索、ユーザ、CAR 5-18
  
- こ
- コール タイプ
  - QoS 6-9
  - コール タイプ別 QoS レポートの結果 10-12
  - コール タイプ別 QoS、結果のレポート 10-12
  - コール タイプ別 QoS レポート 6-9
- コール終了
  - CDR 検索 8-6
- コール詳細
  - 会議コール詳細、結果のレポート 10-20
  - コール数別上位 N 件、結果のレポート 10-5
  - コール数別上位 N
    - コール タイプ 5-10
    - 設定 5-10
    - レポート タイプ 5-11
- 国際化、CDR Analysis and Reporting 1-14
- 個別の課金情報
  - 詳細 5-2
  - 設定 5-2
  - 要約 5-2
- 個別の課金情報の詳細、結果のレポート 10-3
- 個別の課金情報の要約、結果のレポート 10-2

- さ
- サーバ、メール~のパラメータ 3-2
  - サービスパラメータ
    - Add Incoming Number Prefix to CDR 2-3
    - Allowed CDRonDemand get\_file\_list Queries Per Minute 2-4
    - Call Diagnostics Enabled 2-3
    - CDR Enabled Flag 2-3
    - CDR Log Calls With Zero Duration Flag 2-3
    - Display FAC in CDR 2-3
    - Show Line Group Member DN in finalCalledPartyNumber CDR Field 2-3
- し
- 時刻 4-3
  - システム、CAR 1-6
  - システムパラメータ、設定 3-2
  - システムレポート、CAR 1-9
  - システム概要、結果のレポート 10-16
  - システム設定値
    - 設定 3-7
  - システム設定のパラメータ、CAR 3-7
  - 自動
    - データベースの消去 3-15
    - レポート生成 4-8
  - 自動生成のカスタマイズ、レポート 1-12
  - 自動生成の有効化、レポート 1-12
  - 週報
    - スケジューリング 3-11
  - 手動データベース消去、設定 3-14
  - 上位N
    - コール数別 5-10
    - コール数別、結果のレポート 10-5
    - 接続時間別 5-7
    - 接続時間別、結果のレポート 10-4
    - 料金別 5-5
    - 料金別、結果のレポート 10-4
  - 消去
    - 自動データベース~の設定 3-15
    - 復元、データベースのデフォルト 3-14
    - 無効化、自動データベース~の 3-15
  - 詳細
    - QoS、結果のレポート 10-10
    - QoS レポート 6-3
    - ゲートウェイ 7-2
    - ゲートウェイ、結果のレポート 10-18
    - 個別の課金情報 5-2
    - 個別の課金情報、結果のレポート 10-3
    - 部門の課金情報 5-3
    - 部門の課金情報、結果のレポート 10-3
    - 詳細レポート 6-21
    - 使用状況
      - ルートリスト 7-11
      - ルートパターン/ハントパイロット 7-12
      - ルートおよび回線グループ 7-9
      - 会議ブリッジ、結果のレポート 10-21
      - ゲートウェイ 7-6
      - ゲートウェイ、結果のレポート 10-19
      - ボイスメール 7-18
      - ボイスメール、結果のレポート 10-21
      - ルートグループ、結果のレポート 10-19
      - ルートリスト、結果のレポート 10-19
    - 使用方法 3-14
- す
- スケジューリング
    - 月次報告 3-12
    - 週報 3-11
    - 日報 3-10
  - スケジュール
    - CDRのロード~の設定 3-8
    - 復元、デフォルトのCDRロード~ 3-8
- せ
- 生成
    - イベントログ 3-17
  - 接続時間 4-2
  - 接続時間別上位N件、結果のレポート 10-4
  - 設定 6-21, 6-22, 8-8, 8-10
  - 設定値
    - システム構成 3-7
  - 設定チェックリスト
    - CAR 1-16
- そ
- 組織 xi

- た
- ダイヤルプラン、設定 3-3
  - ダンプテーブル、CDR と CMR 10-23
- つ
- 通知限度 4-11
- て
- 定格エンジン、設定 4-2
  - データベース
    - 自動消去の設定 3-15
    - 復元、消去のデフォルト 3-14
    - 無効化、自動消去 3-15
  - テーブル、CDR と CMR のダンプ 10-23
  - デバイスレポート 7-1
  - デバイスレポート、CAR 1-10
- と
- ドキュメント
- 関連する xi
  - 組織 xi
  - 対象読者 x
  - 表記法 xii
  - 目的 x
- トラフィック要約 6-11
  - トラフィック要約、結果のレポート 10-13
  - トラフィック要約、コールタイプ 6-12
  - トラフィック要約（内線）、コールタイプ 6-15
- な
- 内線
- CDR 検索 8-2
  - CDR の検索、結果のレポート 10-22
  - 内線別のトラフィック要約、結果のレポート 10-13
  - 内線別のトラフィック要約レポート 6-14
- に
- 日報
- スケジューリング 3-10
- 認証レベル
- コール結果の詳細レポート 10-14
  - システムレポート 6-19
  - 認証レベルレポート 6-19
- は
- パラメータ
- 算入、評価への音声品質 4-5
  - 算入、評価への時刻 4-3
  - システム構成 3-2
  - 設定、基本レートと評価のための接続時間 4-2
  - メールサーバの設定 3-2
- ひ
- 評価パラメータ
- 算入、音声品質 4-5
  - 算入、時刻 4-3
  - 設定、基本レートと接続時間 4-2
- 表記法 xii
- 表示 9-3
- ふ
- 部門の課金情報
- 詳細 5-3
  - 要約 5-3
- 部門の課金情報の詳細、結果のレポート 10-3
  - 部門の課金情報の要約、結果のレポート 10-2
- ほ
- ボイスメール使用状況、結果のレポート 10-21
  - ボイスメールの使用状況レポート 7-18
- ま
- マネージャ、CAR 1-6
  - マネージャのコールの使用状況
    - 結果の詳細レポート 10-7
    - 結果の要約レポート 10-8

- む
  - 部門の課金情報 5-3
  - 部門の課金情報、結果のレポート 10-2
- 無効化
  - CDR のロード 3-8
  - 自動 CAR データベースおよび CDR 消去 3-15
  - 自動データベース消去 3-15
  - メールによるアラート 4-10
- め
  - 迷惑呼の詳細
    - 結果のレポート 10-15
  - メール サーバのパラメータ 3-2
  - メール送信、レポート 5-16
  - メディア情報 10-23
- も
  - 元に戻す
    - CAR データベース消去のデフォルト 3-14
    - デフォルトの CDR ロード スケジュール 3-8
- ゆ
  - 有効化
    - メールによるアラート 4-10
    - レポートの自動生成 4-8
  - ユーザ、CAR 1-6
  - ユーザ レポート、CAR 1-8
  - ユーザ レポート、説明 5-1
  - 優先コール要約
    - 結果のレポート 10-15
- よ
  - 要約
    - QoS、結果のレポート 10-11
    - ゲートウェイ 7-4
    - ゲートウェイ、結果のレポート 10-19
    - 個別の課金情報 5-2
    - 個別の課金情報、結果のレポート 10-2
    - トラフィック 6-11
    - トラフィック、結果のレポート 10-13
    - 内線別のトラフィック 6-14
    - 内線別のトラフィック、結果のレポート 10-13
- り
  - 料金別上位 N 件、結果のレポート 10-4
  - 料金別上位 N
    - コール タイプ 5-6
    - レポート タイプ 5-6
- る
  - ルート
    - グループ使用状況、結果のレポート 10-19
    - パターン使用状況、結果のレポート 10-19
    - リスト使用状況、結果のレポート 10-19
  - ルート プラン使用状況レポート、設定 7-9
  - ルート リストの使用状況レポート 7-11
  - ルートおよび回線グループの使用状況レポート 7-9
- れ
  - レポート
    - CMR レポートの結果 10-1
    - CDR エラー 6-25
    - CDR 検索 8-1
    - CDR の検索、ゲートウェイによる 8-4
    - CDR の検索、コール終了原因による 8-6
    - Cisco IPMA 5-12, 5-13
    - QoS 詳細 6-3
    - 概要 1-15
    - 期間別上位 N 5-7
    - 許可コード名 6-18
    - クライアント証明書コード 6-17
    - ゲートウェイ詳細レポート 7-2
    - ゲートウェイ使用状況 7-6
    - ゲートウェイ要約 7-4
    - コールタイプ別 QoS レポート 6-9
    - コール数別上位 N 5-10
    - 個別の課金情報 5-2
    - システム 6-1
    - システム概要の結果 10-16
    - 自動生成のカスタマイズ 1-12, 4-8
    - 自動生成の設定 4-8
    - 自動生成の有効化 1-12, 4-8

自動レポート生成と警告	4-8
スケジュールリング、月次報告	3-12
スケジュールリング、週報	3-11
スケジュールリング、日報	3-10
デバイス	7-1
トラフィック要約	6-11
内線別のトラフィック要約	6-14
認証レベル	6-19
部門の課金情報	5-3
ボイスメールの使用状況	7-18
メール送信	5-16
ユーザ	5-1
ユーザ、CAR	1-8
ユーザの内線による CDR の検索	8-2
料金別上位 N	5-5
ルートパターン / ハントパイロットの使用状況	7-12
ルートリスト使用状況	7-11
ルートおよび回線グループの使用状況	7-9
レポートの設定、CAR	4-1

## ろ

## ロード

CDR のスケジュールの設定	3-8
復元、デフォルトの CDR スケジュール	3-8
無効化、CDR	3-8
ログイン ページ	1-14
ログオフ、CAR	2-7